得、整理、變更及改良ヲ容易ナラシムルカ爲ニ個人的抵當ノ貸付ヲ許可スルコトヲ得其ノ金額ハ面積如何ニ拘ハラス費用及保險料ヲ除キ一萬法ヲ超ユルコトヲ得ス其ノ貸付ノ償還期限ハ借受者ノ年齡カ最後償還ノ日ニ於テ六十歲ヲ超エサル條件ノ下ニ二十五年ニ達スルコトヲ得ルモノトス

第二條　不動產信用組合及農業信用組合ニ於テ第一條ニ依ル利益ヲ受クヘキ者ニ附與スヘキ貸付金ハ一分ノ利率ヲ以テ許可スヘキモノトス

借受者ハ抵當貸付ノ契約締結ノ際ニ死亡ノ場合當然輕減サルヘキ年賦償還ヲ保障スルカ爲ニ國立保險金庫ト死亡ニ對スル單一保險料ノ契約ヲ締結スルコトヲ要ス其ノ支拂フヘキ保險料ノ總額ハ契約締結ノ手數料ノ總額ト共ニ抵當貸付金ニ合算スヘキモノトス

以上ノ小經營ニ包含セラルル廉價住宅ニ對シテハ千九百八年四月十日ノ法律第三條第三號ニ依リテ規定セラレタル衞生ニ關スル假證明書ヲ低廉住宅奬勵委員會及救濟會ノ農村派遣委員ハ右ノ會ニ依リテ右ノ目的ノ爲ニ以上ノ規定ニ依ル代表者ト同時ニ各府縣毎ニ指定セラレ且農業職業組合、農業生產組合、農業相互信用金庫、農業相互保險組合又ハ府縣委員會ノ會員中ヨリ選擧セラルヘキモノトス

第三條　本法第一條ノ規定ニ依リ千九百六年四月十二日、千九百八年四月十日、千九百十四年二月十一日ノ法律及其ノ事項ニ關スル以後ノ法律ニ依リテ決定セラレタル條件ニ該當スル低廉ナル住宅若ハ小農地ヲ取得スル利益ヲ有スル者ハ本法ニ依リテ決定セラレタル條件ニ該當スル小農地ノ經營ヲ取得シ、設定シ、變更シ又ハ改良スル者ト雖住宅、土地又ハ經營ノ價額ノ少クトモ五分ノ一以上ヲ所有スルコトヲ證明スヘキ義務ヲ免除セラルヘキモノトス

年賦金ノ支拂遲滯ノ場合ニ於テハ組合ハ借受者ノ恩給年額ノ五分ノ一ヲ組合自身ニ受領スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ

其ノ受領金額ハ恩給年額ノ半額以上ヲ取得セス又ハ三百六十法以下ニ減少セサルヲ條件トス右ノ規定ハ貸付ノ契約中ニ包含セラレ且其ノ條件付ノ委任ヲ豫期シタルモノトス

右ノ委任ヲ實現セシムルカ爲ニ貸付ヲ爲シタル組合ハ借受者ヲシテ支拂遲滯ノ書面ヲ提出セシムルコトヲ要ス十五日ノ期間ノ徑過後組合ハ同樣ノ形式ニ依リ其ノ遲滯者ヲ國庫ニ報告スルモノトス

借受者カ自由ニ留保シ得ヘキ恩給ノ部分ニ對シテ何人モ要求ヲ爲ササルトキハ國庫ハ組合ヨリ委任サレタル恩給ノ部分ヲ組合ニ引渡スコトニ付テ有效ニ其ノ責任ヲ免ルヘキモノトス

恩給ニ對スル權利者カ請求ヲ爲シタル場合ニ國庫ヨリ訴アリタルトキハ治安裁判所判事ハ組合ノ代表者及借受ケタル者ヲ召喚スヘキモノトス判事ハ最終判決ニ依リ通告又ハ猶豫ナキ判決ヲ決定スヘキモノトス

委任セラレタル年賦金額ハ三箇月毎ニ四分ノ一ヲ支拂フモノトス

第四條　不動產信用組合及農業信用組合ハ本法ニ依リテ認メラレタル特別貸付ニ對シ其ノ認可セラレタル資本ノ二倍ニ制限セラルルコトナク且無利子ヲ以テ個人信用ニ對シテ留保シタル農業信用ノ一般資金ノ部分ニ先取シテ千九百十年三月十九日ノ法律ニ依ル長期ノ資金ノ前貸ヲ受クルコトヲ得

右ノ前貸金ハ最長二十五箇年ノ期限內ノ年賦金ヲ以テ償還スヘキモノトス

第五條　前條ニ依リテ規定セラレタル前貸金ハ組合及需要者カ

(一)農務大臣ニ依リテ農業信用組合ニ對シ

(二)勞働及社會救濟大臣竝農務大臣ニ依リテ不動產信用組合ニ對シ

滿足セシムルコトヲ要求セラレタル擔保ニシテ其ノ組合及需要者ニ依リテ提出セラレタルモノノ報告アリタル場合ニ

於テ左ノ如ク組織セラレタル特別委員會ノ通告ニ基キ許可セラルヘキモノトス

農務大臣　會長
勞働及救濟大臣　副會長
會計檢査院ヨリ選出セル檢査官一人、佛蘭西銀行總裁、貯蓄金庫ノ總支配人、大藏大臣ノ代理人、保險及救濟部ノ部長、
信用組合及農業相互組合ノ事務部長
戰爭ノ損害及改善ニ關スル國民委員會ノ代表者二人、不動產信用組合ニ於ケル貸付資金ノ利益配當ニ關スル委員會ノ代表者二人
農業信用ノ地方金庫ニ對スル前貸金ノ分配委員會ノ代表者二人ハ總會ニ於テ指命セラルルモノトス
委員會ノ委員ハ法律ニ基ク者ヲ除クノ外四年ノ任期ヲ以テ指命セラルルモノトス
第六條　國家ハ借受者カ貸付シタル組合ニ支拂フヘキ年賦金ヲ輕減スルカ爲ニ貸付ヲ受ケタル後其ノ借受者ニ出生シタル各嫡出子ニ對シ借受金ノ每百法ニ付五十「サンチーム」ノ金額ヲ每年支拂フモノトス
右ノ附與金ハ直接國家ヨリ借受者ノ計算ニ於テ貸付シタル組合ノ支店ニ支拂フヘキモノトス
第七條　本法ノ條件又ハ千九百十年三月十九日ノ法律ニ依リテ取得シ、整理シ、變更シ又ハ改良シタル農地ハ千九百九年七月十二日ノ法律ノ規定ニ對スル修正ニ依リ貸付組合ノ爲ニ訴訟原因ニ對シ不動產ヲ登記シ且必要アルトキハ强制執行權ニ依リテ障害ヲ受クル事ナク差押フルコトヲ得サル家產ニ設定スルコトヲ得
貸付組合ハ民法第二千百三條第二項ニ依リテ設定セラレタル特權ヲ享受スルモノトス
以上第一條ニ依リテ利益ヲ受クル者カ獨身ニシテ子ヲ有セサル場合モ千九百九年七月十二日ノ法律ニ對スル修正ニ依リテ家產設定行爲以後三ケ年以內ニ婚姻ヲ爲スノ契約ヲ條件トシテ本法ニ依リ取得シ、整理シ、變更シ又ハ改良シタル不動產ヲ其ノ者ノ利益ノ爲ニ差押フルコトヲ得サル家產ニ設定スルコトヲ得右ノ期間カ經過シ且右ノ條件ヲ履行セサル時ハ以上ノ設定ニ關シテノ一切ノ利益ハ取消サルヘキモノトス
動產ニ充當セラレ且農業信用ノ地方金庫ニ依リ千九百十年三月十九日ノ法律ノ條件ニ基キ許可セラレタル長期貸付ニ關シテハ前貸金ヲ金庫ノ資本額ノ二倍ニ制限シタル以上ノ法律規定ハ之ヲ適用セサルモノトス但シ前貸金ノ總額ハ其ノ資本ノ四倍ヲ超ユルコトヲ得サルモノトス
第八條　六ケ年間自ラ耕作ニ從事セル者カ最高價額千二百法ノ土地ヲ取得スル場合ニ於テ其ノ土地ノ小作人、分益小作人、農業勞働者及未タ土地ヲ所有セサル者トノ間ニ起レル其ノ財產權ノ移轉ニ關スル紛爭ヲ解決セル時ハ無料ニテ登記シ又ハ變更スル權利ヲ附與セラルヘキモノトス
第九條　本法公布後少クトモ三ケ年以內ニ本法施行ノ條件及以上ニ規定シタル事業ノ財產管理ノ方法ヲ定ムル行政規則ヲ公布スルヲ要ス

第四　勞働者及貧困ナル家族ヲシテ小土地ヲ容易ニ取得セシムル目的ニテ縣及市町村カ此等ノ者ニ分配シ轉賣セムトスル耕作地ヲ取得スルコトヲ許ス法律

（千九百十九年十月三十一日）

第一條　縣及市町村ハ勞働者及貧困ナル家族ノ小土地取得ヲ容易ナラシムル爲ニ次ノ諸條ノ定ムル條件ニ依リ耕作地ヲ取得シ且其ノ分配後之ヲ轉賣スルノ權利ヲ有ス

第二條　縣ノナス取得ハ縣參事會ノ特別認可ニ基キ知事カ縣豫算内ニ記入セル經費ノ制限内ニ於テ之ヲ行フ

市町村ニヨル取得ハ千八百八十四年四月五日ノ法律及本事項ヲ規定スル其ノ他ノ法律ノ規定ニ從ヒテ之ヲ行フ

第三條　縣及市町村ノ取得セル土地ハ縣及市町村ノ道路課之ヲ分割シ且其ノ通行路ヲ作ル

該分配ハ以下ノ如クニ定ムルヲ要ス

(1)庭園付ノ住宅設定ニ充ツル土地ハ十「エーカー」ノ面積ヲ超エサルコト

(2)小農園設定ニ充ツル土地ハ其ノ面積ノ如何ニ關セス一萬法ノ價額ヲ超エサルコト

第四條　縣カ土地ヲ購入シテ分割ヲ終リタルトキハ其ノ圖面ヲ縣廳及該縣下ノ支廳ニ備付ケテ二箇月間公衆ノ縱覽ニ供スヘシ該圖面備付ノ公告ハ公報及各市町村内ノ揭示ニヨリテ爲スモノトス

該公告中ニハ其ノ外各分割地ノ名稱及要求サレタル價額ヲ記載ス

此等ノ土地ノ未必ノ取得者ハ自己ノ取得申請書ニ其家族ノ狀態、勞働又ハ貧困ナル家族タルノ資格ヲ證明スヘキ書類ヲ添ヘテ知事ニ提出スヘシ

申請ハ府縣參事會之ヲ審理スヘク請求者ノ資格及子女ノ數ヲ斟酌シ且價額支拂ノタメニ不動產擔保貸付銀行又ハ農業資金貸付地方金庫ヨリ長期貸付金ヲ借リ得ヘキ者ニ優先權ヲ認メテ土地ノ分配ヲ行フ

第五條　市町村カ土地ヲ購入シタル際ニハ其ノ轉賣ハ市町村財產ノ賣却ヲ規定スル法律ニ依リテ行ハル

第六條　縣又ハ市町村ノ定ムル賣却價格ハ縣又ハ市町村ニ何等ノ損失又ハ利益ヲ齎ラササル範圍ニ於テ之ヲ算定スヘシ

第七條　購買價額ノ支拂ハ現金ニテ行ハルルヲ要スカクテ取得セル不動產ハ十年間之ヲ讓渡スルコトヲ得ス

住宅建設ノ目的ニテ土地ヲ取得セル者ハ其ノ土地ヲ他ノ目的ニ使用スルヲ得ス

小耕作地ノ取得者ハ自ラ又ハ家族ノ助力ヲ待チテ該農園ヲ耕作スルヲ約セサルヘカラス

第八條　取得者ノ支拂フヘキ不動產移轉稅支拂ノ特別條件ハ稅法ニテ之ヲ定ムヘシ

第五　相互信用機關及農業的產業組合ニ關スル千九百二十年八月五日ノ法律（Loile surlecrédit mutuel et la coopération agricole）

第一章　相互農業信用金庫（Ca'sses de crédit agricole mutuel）

第一款　構成——公示

第一條　相互農業信用金庫ハ左記組合ノ一箇若ハ數箇ノ組合員ノ全部若ハ一部又ハ此等組合自身ヲ以テ構成スルコトヲ得

(一)　農業的職業組合（Syndicats professionels agricoles）

(二)　千九百年七月四日ノ法律ノ適用ヲ受クル農業相互保險組合（Société d' assurances mutuelles agricoles）

(三)　農業的產業組合（Sociétés coodératives agricoles）

(四)　第二十二條ニ列擧セル各種ノ農業的利益ヲ營ム組合

第二條　相互農業信用金庫ハ前條ノ各團體ノ各組織員カ個別的ニ又ハ共同的ニ行フ農業生產ニ關スル事業ヲ容易ナラシメ且之ヲ保證スルコトノミヲ以テ目的トス

第三條　相互農業信用金庫ノ資金ハ株引受ニ依リテ成立スルモノニ非ス各組織員ニハ持分ノ分配ヲ爲スヘシ持分ハ記名式ニシテ金庫ノ承認ヲ經ルニアラサレハ之ヲ讓渡スルコトヲ得ス

第四條　相互農業信用金庫ノ成立スルニハ其ノ資金ノ四分ノ一ノ拂込アルコトヲ要ス金庫ノ存立期間ハ無期限トス

金庫カ資金ヲ確定セサル場合ニ於テ脫退員ノ出資金ノ拂戻ヲ爲ストキト雖金庫ノ資金ヲシテソノ設立資金額以下ニ減少セシムルコトヲ得ス

第五條　普通ノ商事會社及組合ノ公示條件ニ關スル左ノ規定ハ之ヲ金庫ニ準用ス

「組合業務ノ開始前理事又ハ組合長及組合員ノ氏名、職業、住所、其ノ屬スル農業組合（Association agricole）及出資引受額ヲ記載セル名簿ト共ニ定款ノ複本二通ヲ組合ノ主タル事務所ノ存在スル郡區ノ治安裁判所ノ書記課ニ提出スルヲ要シ之ニ對シテハ受領證ヲ交附ス」

「組合ハ右書類ノ提出ニ依リ有效ニ成立ス」

「組合ノ定款及組合員名簿ノ複本ノ一部ハ治安判事之ヲ縣ノ商事裁判所ノ書記課ニ送付ス」

「每年二月ノ初二週間內ニ組合ノ理事又ハ組合長ハ其ノ日附ニ於ケル組合ノ構成組合員名簿ト共ニ前年中ノ收入支出竝ニ實行セル事業ノ略表二通ヲ郡區ノ治安裁判所ノ書記課ニ提出ス」

「其ノ複本ノ一部ハ治安判事之ヲ商事裁判所ノ書記課ニ送附ス」

「治安裁判所及商事裁判所ノ書記課ニ送附セル文書ハ總テノ請求者ニ閱覽ヲ許スモノトス」

第二款

第一　地方金庫（Caisse local）

第六條　相互農業信用地方金庫ハ左ノ事業ヲ爲スコトヲ得

一　一切ノ組織員ニ對スル短期貸付、其ノ期間ハ其ノ貸付カ許可セラルル期間ノ爲ニ事業ノ期間ヲ超過スヘカラス

二　一切ノ組織員ニ對シ其ノ財產ノ整理又ハ再興ノ爲ニスル中期ノ貸付、但シ該貸付ハ年賦ニ依リ十年ニテ償還スヘク且保證、倉庫證券、抵當又ハ證券ノ寄託等ノ如キ特種ノ擔保ヲ必要トス

三　個人タル組織員ニ對スル長期貸付、其ノ條件ハ以下第八條ニ之ヲ規定ス

第七條　短期貸付ヲ爲ス爲ニ地方金庫ハ專ラ農業上ノ業務ノ爲ニ其ノ獨單組織員カ振出シタル手形ノ割引ヲ爲スモノトス又地方金庫ハ此ノ業務ニ關シ同一ノ組織員ノ利益ニ於テ爲スヘキ一切ノ支拂及回收ノ責ニ任スルコトヲ得

中期貸付ヲ爲ス爲ニ地方金庫ハ其ノ組織員ヲシテ貸付ノ條件、提出スル擔保及償還ノ條件ヲ定ムル特約ニ署名セシムルモノトス農業的職業組合竝ニ本法第二十二條第二號ニ規定スル共同購買產業組合及糧食供給產業組合（Sociétés Coopératives d' achat en commune et d' approvisionnement）ハ短期貸付及中期貸付ヲ受クルコトカ定款上認メラレ十分ナル擔保ヲ提供シ理事ハ無報酬ニシテ且商業的利益ヲ實行セサルコトヲ條件トスル場合ニ限リ此等ノ貸付ヲ受クルコトヲ得

第八條　長期個人貸付ヲ爲ス爲ニ地方金庫ハ擔保トシテ抵當登記又ハ死亡保險契約ヲ要求スルモノトス

此ノ貸付ハ經費ヲ除キ四萬法以下トス其ノ償還ノ期間ハ二十五年ニ達スルコトヲ得但シ借主ノ年齡カ最後ノ償還ノ日ニ六十歲ヲ超ユルトキハ此ニ止ムルモノトス

貸付ノ利率ハ二分トシ小農地ノ取得、整理、改良及再興ヲ容易ナラシムルカ爲ニ充當セラルルモノトス

長期個人貸付ヲ受クル者カ年金ヲ有スル軍人又ハ戰爭ノ爲ニ犧牲ト爲リタル文官ナルトキハ此ノ貸付ハ不動產擔保貸付會社（Société de crédit immobilier）ニモ同樣ニ之ヲ許スコトヲ得其ノ利率ハ一分ニ輕減シ且借主カ貸主タル組合ニ辨濟スヘキ年賦償還額ヲ緩和スル爲國家ハ貸付契約締結後生レタル嫡出子ノ各々ノ割合ニ應ジテ年々百法ニ對シ五

十「サムチーム」ノ割戻ヲ爲スモノトス

第九條　長期貸付ヲ許サレタル小農地ハ千九百九年七月十二日ノ法律ニ依リ差押ヲ爲スコト能ハサル家產ト爲スコトヲ得但シ該法律第五條、第八條、第十條及第十四條及千九百十年三月二十六日ノ大統領令第五條ニ拘ラス地方金庫ハ民法第二千百三條第二號ニ依リ生スル先取特權ヲ享有スルモノトス

備　考

（一）千九百九年七月十二日ノ法律ハ差押禁止ノ家產ノ設定ニ關スル法律ナリ

（二）民法二千百三條第二號ハ債權者カ不動產上ニ有スル先取特權中不動產ノ取得ノ爲金錢ヲ供給セル者ノ有スル先取特權ナリ

第十條　國民保險金庫ハ本法ノ長期個人貸付ノ名義人ニ對シ農務大臣及財務大臣ノ提議ニ依リ爲サルル命令ノ定ムヘキ條件ノ下ニ其ノ死亡ノ際ニ殘リタル年賦償還金ノ全部又ハ一部ノ支拂ヲ保證スル直接又ハ間接ノ效力ヲ有スル一回拂保險料ノ契約ヲ爲シ其ノ保險料額ヲ貸付金ニ編入スヘキコトヲ約スルコトヲ得

第二　縣金庫（Caisse regionales）

第十一條　金庫ハ左ノ目的ヲ有ス

一　其ノ區域內ニ於ケル相互農業信用地方金庫カ貸付又ハ保證スル短期、中期及長期貸付ノ事業ヲ容易ナラシムルコト

二　農業的產業組合、農業的職業組合又ハ其ノ他ノ組合ニ對シ國家ノ承認シタル特別貸付金ヲ轉貸スルコト

第十二條　縣金庫ハ地方金庫カ其ノ區域內ニ住所ヲ有シ他ノ縣金庫ニ加入シ居ラサルトキニ限リ之ヲ所屬セシムルコトヲ得

縣金庫ハ地方金庫ノ裏書アルトキハ其ノ組織員ノ振出シタル商業證券ノ再割引ヲ行フ

縣金庫ハ右地方金庫ノ利益ニ於テ爲スヘキ支拂及回收ノ責ニ任スルコトヲ得

縣金庫ハ其ノ所屬地方金庫ニ流通資金ノ構成ニ必要ナル貸付ヲ行フコトヲ得但シ國家ノ補助ヲ受クル金庫ニアリテハ此ノ貸付ハ各地方金庫カ持分ノ引受ノ形式ニ於テ縣金庫ニ拂込ミタル資金額ヲ超過スルコトヲ得ス

縣金庫ハ利息付又ハ無利息ノ期限不定ノ貸付證券ヲ發行スルコトヲ得但シ證券ノ發行ハ金庫ノ區域內ニ居住スル農業者ノ利益ノ爲ニスル場合ニ限ル

第十三條　每年二月ノ初二週間內ニ縣金庫ハ前年中ニ入金シタル償還金ヲ佛蘭西國農業信用局ニ返還スルコトヲ要ス國家ノ貸付ヲ受ケタル長期貸付受益者、產業組合、職業組合及其ノ他ノ組合ノ償還金ハ强制的ニ償還セシメラルルモノトス

第三　地方金庫及縣金庫共通ノ事業

第十四條　相互農業信用金庫ハ其ノ流通資金ヲ創設シ又ハ增加スル爲必要ナル起債ヲ爲スコトヲ得

國家ノ補助ヲ受クル信用金庫ニアリテハ其ノ起債ヲ爲スニハ豫メ農務大臣ノ認可ヲ經ルヲ要ス信用金庫ハ有價證券ノ再割引又ハ證券擔保ノ借入ヲ以テ其ノ資金ヲ得ルコトヲ得

信用金庫ハ總テノ者ヨリ利息付又ハ無利息ニテ當座預金ノ受入及證券ノ寄託ヲ受クルコトヲ得本法ニ依リ許可セラレタル以外ノ事業ハ之ヲ爲スコトヲ得

第十五條　農業信用金庫ハ金庫ニ對スル其ノ組織員ノ總テノ債務ノ爲ニ夫々金庫ノ資產ヲ構成スル持分ノ上ニ先取特權

ヲ有ス

第三款　作　用

第十六條　定款ニハ農業信用金庫ノ住所、區域及管理方法ヲ定ムルコトヲ要ス定款ニハ其ノ事業ノ性質及範圍、定款ノ變更ヲ爲スヘキ規則、組合ノ解散、資金ノ構成、各組織員ノ出資シ得ル割合及脫退ノ條件ヲ定ムルコトヲ要ス

國家ヨリ貸付ノ恩惠ヲ受ケサル信用金庫ノ定款ニハ當座預金受入ノ最高額ヲ定ムルコトヲ要ス

國家ノ補助ヲ受クル信用金庫ノ定款ニハ當座預金ノ受入又ハ定期預金ノ最高額ヲ定ムヘシ

此ノ預金ノ額ニ對シテハ常ニ同額ノ資產ヲ以テ準備シ支拂期日ニハ直ニ之ヲ充ツルコトヲ要ス

定款ニハ持分ノ利率ヲ定ムルコトヲ要ス其ノ率ハ百分ノ六ヲ超ユルコトヲ得ス地方金庫ニアリテハ其ノ組織員ニ對スル貸付ノ利率ヲ超ユルコトヲ得ス

各配當ハ金庫ノ持分ニ割當テラルルコトナシ而シテ解散ノ場合ニハ拂戻ノ率ハ金庫設立ノ際ニ定メタル價格ヲ超ユルコトヲ得ス

第十七條　年々一般經費ノ支拂、預金及金庫資金ニ對スル利息又ハ負債ノ支拂ヲ爲シタル後剩餘アルトキハ少クトモ其ノ四分ノ三迄ハ準備金ノ構成ニ充當スルコトヲ要ス準備金カ金庫資金ノ二倍ニ達シタル後ハ準備金ニ充ツル割合ハ年々ノ剩餘金ノ五割ニ減少スルモノトス

第十八條　定款ニハ金庫カ契約ヲ爲シタル場合ニ於テ各組織員ニ歸スヘキ責任ノ範圍及條件ヲ定ムルコトヲ要ス

組織員ハ原則トシテ其ノ脫退當時ニ未タ結了セサル事業ノ清算終了後ニ非サレハ其ノ契約ニ關スル責任ヲ免カルルコトヲ得ス一切ノ場合ニ組織員ノ責任ハ其ノ脫退ノ日ヨリ五年後ニ終了ス

第十九條　金庫ノ管理ノ任ニ在ル者ノ人的責任ハ定款又ハ本法違反ノ場合ニ於テノミ存在ス

以上ノ外理事又ハ金庫長カ定款又ハ氏名及資格ニ關シ虛僞ノ申立ヲ爲シタルトキハ訴追セラレ且十六法以上五百法以下ノ罰金ニ處セラルヘシ

第二十條　國家ノ貸付ヲ受ケタル縣金庫又ハ其ノ貸付ノ利益ニ與リタル地方金庫ノ解散ノ場合ニハ準備金ヲ包含スル其ノ財產ハ金庫ノ負債ヲ支拂ヒ既ニ支拂ヲ了セル資金ノ拂戻ヲ爲サシメタル後總會ノ決議ニ依リ農務大臣ノ認可ヲ得テ農業的利益ニ關スル事業ニ又此ノ決議無キトキハ佛蘭西國農業信用局ノ全權委員會ノ意見ヲ徵シ農務大臣カ指定セル農業的利益ニ關スル事業ニ充當スルモノトス

第二十一條　本法ニ依ル相互農業信用金庫ハ商事組合ニシテ其ノ帳簿ハ商法ノ規定ニ從ヒテ之ヲ備フルヲ要シ且國家ノ貸付ヲ受ケタル金庫ハ農務大臣ノ訓令ニ從フコトヲ要ス

第二章　農業的產業組合——農業的集合利益組合

(Sociétés d' interêt collective agricole)

第二十二條　第一條ノ條例ニ依リ農業信用縣金庫ニ所屬スルコトヲ得ル產業組合、職業組合及農業的集合利益組合ハ左ノ如シ

一　專ラ組合員ノ農業經營ヨリ生スル農產物ノ生產、加工、保存又ハ販賣ニ關スル總テノ事業ヲ實行シ又ハ容易ナラシムル爲ニ設立セル農業的產業組合

二　本法第七條ニ定ムル共同購買及糧食供給產業組合

三　專ラ農業ヲ目的トスル職業組合

四　農業勞働ノ集合利益ノ實行上農業ニ有利ナル一切ノ物體、一切ノ產物又ハ器具ノ製作ヲ行ヒ又ハ屠場、冷藏庫、電氣事業、軌道等ノ如キ集合的利益ノ近代的設備竝ニ社會衞生殊ニ農業勞働者ニ供給スル衞生的宿舍ノ建築又ハ農村建築團體ニ依リ不健康ト認メラレタル農業建築物ノ改良ヲ行フ爲企業ヲ農村又ハ農村ノ部落ニ賦與スルコトヲ以テ目的トスル農業組合

第二十三條　第二十二條第一號及第二號ノ條件ニ依リ相互農業信用金庫ト取引ヲ爲スコトヲ得ル一切ノ產業組合ノ資金ハ出資券ノ引受申込ニ依リテ成立スルニ非ス各組合員間ニ持分ヲ配分スルコトニ依リテ成立ス

定款ニハ左記事項ヲ明示スルコトヲ要ス

一　持分ハ記名式トシ專ラ農業者ニ限リ拂戻ノ率ハ其ノ最初ノ價格ヲ超ユルコトヲ得ス又持分ノ讓渡ハ組合ノ承諾アルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

二　配當ハ資金又ハ資金ノ一部ニ對シ割當ツルコトヲ得ス利率ハ六分ヲ超ユルコトヲ得ス負擔、償却金、資金利息、經常費及準備金等ヲ控除セル年々ノ剩餘金ハ必要ニ應シ產業組合ト共ニ組合員カ爲シタル事業ニ比例シテ分配スルコトヲ得

國家ノ貸付ヲ受クルコトヲ欲スル第二十二條第四號ニ規定セル農業上ノ集合的利益組合ノ具備スヘキ條件ハ別ニ施行規則ヲ以テ之ヲ定ム

第二十四條　產業組合及第二十二條ニ指示セル組合ハ後條ニ定ムル條件ニ依リ長期貸付ヲ受クルコトヲ得

長期貸付ノ利率ハ年二分トシ最長期間ヲ二十五箇年トス但シ該期間ハ再植林ヲナス產業組合ニハ例外トシテ五十年トヲ爲スコトヲ得貸付ノ申請ニハ簡明ニ奬勵金ノ用途ヲ記載シ申請書ハ地方貸付組合ヲ經由シテ農務大臣ニ之ヲ提出スヘシ

第二十五條　長期貸付割當ヲ受ケタル產業組合又ハ農業上ノ集合的利益組合カ不動產ヲ有スルカ又ハ之ヲ有スルニ至リタル場合ニ於テ國家ノ利益ノ爲ニ地方貸付組合カ其ノ要求ヲ爲シタルトキハ千七百九十年十一月二十八日ノ法律第十四條ニ依リテ行政行爲ノ形式ニ依リ不動產上ニ抵當權ヲ設定スヘシ

第三章　國家ノ貸付

第二十六條　千九百十八年十二月二十日ノ法律ニ依リ承認セラレタル千九百十七年十月二十六日ノ約款ニ依リ佛蘭西銀行ヨリ國庫ニ爲セル四千萬法ノ貸付金及年賦金ハ縣貸付金庫ニ對スル貸付金トシテ政府ニ其ノ運用ヲ委任セラルルモノトス短期、中期貸付及長期個人貸付又ハ產業組合、職業組合若ハ農業上ノ集合的利益組合ニ對スル貸付金額ノ割合ハ農務大臣及財務大臣ノ提議ニ基ク命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十七條　本法ニ依リテ爲ス貸付ノ分配ハ佛蘭西國農業信用局ニ於テ之ヲ行フ

第二十八條　短期貸付及中期貸付ノ爲ノ貸付ハ佛蘭西國農業信用局ニ於ケル當座貸越ヲ以テ之ヲ爲スモノトス

縣貸付金庫カ長期個人貸付ノ割當ノ爲ニ受クルコトヲ得ル貸付金ハ縣貸付組合カ取扱フ申請ノ數及重要ノ程度ニ應シ定メラルヘシ

農業的產業組合、自由職業組合及農業上ノ集合的利益組合ハ定款ニ全組合員ノ共同連帶責任ノ約款ヲ定メタルトキ又ハ經由シタル金庫ニ依リテ適當ニ決定セラレタル償還ニ對シ理事ノ全部又ハ一部カ連帶責任ノ下ニ契約ニ署名シタルトキニ限リ金錢又ハ物的出資ノ六倍ニ等シキ貸付ヲ受クルコトヲ得

職業組合ニ對スル貸付ハ其ノ實行スヘキ事業ノ重要ノ程度ニ比例シテ之ヲ爲スモノトス

第二十九條　定款違反又ハ定款變更ニ依リテ償還擔保ヲ減少シタルトキハ一切ノ國家ノ貸付ハ直ニ償還期ニ到來シタルモノトス國家ノ貸付ハ其ノ貸付ヲ受ケタル組合ノ理事又ハ組合長カ業務上ノ横領ヲ爲シタルトキハ之カ償還ヲ請求スルコトヲ得國家ハ貸付ヲ許可シタル組合ノ持分上ニ先取特權ヲ有ス

第三十條　第四十三條ニ定ムル施行規則ニハ貸付ノ割當ヲ爲ス爲ニ從フヘキ手續ヲ詳細ニ規定シ且此ノ貸付ノ利益ヲ受クヘキ組合ノ定款ニ定ムヘキ事項ヲ明確ニ定ムヘシ

右ノ規則ハ產業組合、職業組合及農業上ノ集合的利益組合ニ對スル貸付ニ關シ必要ナル豫備調査ノ方法及形式竝貸付ノ償還ヲ確實ニスル爲ニ取ルヘキ擔保及其ノ特殊ノ用途ヨリ逸脫セシメサラシムル爲ニ實行スヘキ監督ノ方法ヲ定ムヘシ

第四章　計算ニ關スル規定及抵當貸付制度ニ關スル規定

第三十一條　農業信用組合ニハ營業稅ヲ課セス本法第二十二條ニ規定シタル組合ニ付亦同シ

動產價格ノ所得稅ニ關スル千八百七十二年六月二十九日及千九百十四年三月二十九日ノ法律ノ規定及債權、預金及保證ノ所得稅ニ關スル千九百十七年七月三十一日ノ法律第五章ノ規定ハ相互資金貸付組合及以上ノ產業組合ノ利益、持分、負債又ハ債務ニ關シテ之ヲ準用セス右ノ免除ハ國家ノ貸付金ヲ受クル農業上ノ集合的利益組合ニモ及フモノトス

行政上ノ形式ニテ契約セラレタル抵當權ヲ設定シタル場合ノ辨濟ハ第二十五條ノ印紙稅ヲ納メ千九百十八年五月十五日ノ法律第七十八條ニ規定シタル二十四日ノ期間內ニ登記ヲ爲スヘシ

第三十二條　第二十二條ニ列擧セル組合カ農業用ニ供スル建物ハ農業者ノ建物カ受クルト同樣ニ免稅セラルヘキモノトス

第三十三條　免許稅ニ關スル法律ノ免除ハ作物ノ所有者ニ對スルモノト同一ノ條件ヲ以テ本法ノ規定ニ從ヒ設立シ主トシテ組合員ノ收穫物、共同ノ釀造物蒸溜物又ハ加工品ヲ販賣スル農業的產業組合ニ適用ス

第三十四條　貸付ノ全期間年賦償還金ノ未拂ノ場合其ノ他一切ノ事由ニ因リ强制收用及賣却竝抵當登記ノ十年每ノ更新ノ免除ニ關スル不動產抵當組合（Sociétés de crédit foncier）ニ關スル千八百五十二年二月二十八日ノ大統領令第二十二條乃至第四十二條及第四十七條ノ規定ハ農業資金貸付組合ノ總テノ抵當ニ關スル事項ニ對シ之ヲ適用ス

不動產抵當組合ニ關スル千八百五十三年六月十日ノ法律ニ依リ變更セラレタル千八百五十三年二月二十八日ノ大統領令ノ第十九條乃至第二十五條ニ依リ規定セラレタル形式ヲ履行シタル農業信用金庫ハ抵當保證ニヨリ貸付ヲ履行スル前ニ有效ニ法律上ノ抵當ノ解除ヲ爲スコトヲ得

第五章　佛蘭西國農業信用局及農業信用全權委員會

第三十五條　佛蘭西國農業信用局ヲ設置ス

前項ノ信用局ハ財政上ノ自治權ヲ有スル公ノ營造物（établissement public）トス

通則トシテ本局ハ本法ノ適用ヲ確保ス

本局ハ特ニ左ノ目的ヲ有ス

一　政府ノ交付スル農業信用資金ノ管理

二　相互農業信用縣金庫ノ受入レタル資金ノ預金及縣金庫カ信用局ニ預入レタル預金ノ管理

三　相互農業信用縣金庫ノ取次ニ依リテ證券ヲ發行スルコト

四　荒蕪地ノ開墾着手ニ關スル千五百十八年五月四日ノ法律ノ適用上許サルル信用ノ管理

第三十六條　本局ハ三十人ヨリ成ル全委員會ノ監督ノ下ニ理事會ニ依リ管理セラルヘシ

全委員會ハ農務大臣之カ會長トナリ其ノ五分ノ一ハ上院及下院ヨリ選擧セラレタル者ヨリ其ノ五分ノ二ハ相互農業信用縣金庫ノ代表者ヨリ其ノ五分ノ二ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ農務大臣及財務大臣ノ推薦ニ依リ任命セラレタル者及行政廳内ノ地位高キ者ヨリ選出セル者ヲ以テ之ヲ組織ス

理事會々員ハ全委員會ヨリ任命セラレ其ノ定員ヲ七人トス本局ノ事務ノ管理ハ命令ノ定ムル所ニ依リ農務大臣ノ推薦ニ依リ任命セル局長ニ委任ス該官吏ハ本局ノ管理者ノ事務ヲ履行シ委員會及理事會ノ提案ニ依リテノミ解職セラレ得ルモノトス

財務省ノ檢査ニ服シ會計檢査院ニ於テ審理セラルヘキ會計係ハ命令ノ定ムル所ニ依リ同樣ニ財務大臣ノ推薦ニ依リテ任命セラルルモノトス

第三十七條　本信用局ノ財源ハ左ノモノヨリ成立ス

一　其ノ管理ヲ爲セル資金ヨリノ收入

二　農業信用資金ノ管理ノ收入

三　千九百十八年五月四日ノ法律ノ實施ニ依リ農業縣委員會（Commités départementaux d' action agricole）ノ償還金ヨリ得タル金額

四　立法手段ニ依リテ爲シ得ラルヘキ信用

五　其ノ受領シ得ル各種ノ贈與、遺贈

本信用局廢止ノ場合ニハ前項第五號ノ財源ヨリ得タル價額ハ參事院ノ爲ス裁決ニ依リ公ノ造營物又ハ寄贈者ノ意思ヲ實行スルニ可能性ヲ有スル公共利用ト認メラルル造營物ニ割當ツルモノトス

第三十八條　信用局ハ總テ其ノ事業ヲ國庫貯金局及佛蘭西銀行ト交互計算ノ方法ニテ行フ

第三十九條　信用局ノ豫算ハ理事會ニテ決定シ全委員會ノ意見ヲ徵シ農務大臣及財務大臣之ヲ認可ス

支拂命令官ノ管理計算及會計係ノ管理計算ハ每年理事會ノ審理ニ附シ且全委員會ノ意見ヲ徵ス管理計算ハ命令ニヨリ之ヲ定ム

第四十條　農務省ニ於ケル資金貸付、產業組合及農業相互組合ノ中心事務ハ農業資金貸付所ト聯絡ス

第六章　檢查及監督通則

第四十一條　農業組合、信用機關及其ノ性質ノ如何ニ拘ラス農業信用ノ財團ヨリ國家ノ貸付ヲ受クル組合ニ對スル一般檢查ノ常時監督ハ佛蘭西信用局之ヲ行フモノトス

第四十二條　農務大臣ハ每年共和國大統領ニ本法ノ施行ニ依リ爲シタル報告ヲ提出ス其ノ報告ハ官報ニ公示セラルヘシ

第四十三條　本法公布後六箇月以內ニ本法施行ノ條件ヲ定ムル行政規則ヲ公布スヘキモノトス

第四十四條　千八百九十四年十一月五日ノ法律、千八百九十九年三月三十一日ノ法律、千九百年十二月二十五日ノ法律、千九百一年七月二十日ノ法律、千九百六年十二月九日ノ法律、千九百八年一月十四日ノ法律、千九百十年二月十八日ノ法律、千九百十年三月十九日ノ法律、千九百十二年十一月三十日ノ法律、千九百十二年二月二十六日ノ法律、千九百十二年十一月三十日ノ法律及本法ニ牴觸スル總テノ規定ハ之ヲ廢止セラルヘシ

參照　第四十四條ニ依リ廢止トナリタル主ナル法律ハ左ノ如シ

（一）千八百九十四年十一月五日ノ法律（農業資金貸付組合ノ設立ニ關スル法律）

（二）千八百九十九年三月三十一日ノ法律（相互農業資金貸付組合ノ設立及之ニ對スル奬勵竝相互農業資金貸付組合及銀行ニ對スル奬勵ヲ目的トスル法律）

（三）千九百年十二月二十五日ノ法律（千八百九十九年三月三十一日ノ法律ノ一部ヲ改正セルモノ）

（四）千九百一年七月二十日ノ法律（千八百九十四年十一月五日ノ法律ノ第六條ヲ改正セルモノ）

（五）千九百六年十二月二十九日ノ法律（農業的産業組合ニ對スル前貸ニ關スル法律）

（六）千九百十年二月十八日ノ法律（千八百九十四年十一月五日ノ法律ノ第一條第一號ヲ變更スル法律）

（七）千九百十年三月十九日ノ法律（農村小農地ノ取得整理改造及再興ヲ容易ナラシムル爲長期個人貸付ヲ規定スル法律）

（八）千九百十八年四月九日ノ法律（年金ヲ有スル軍人及戰爭ニ犧牲トナレル文官ノ小農地及家屋ノ取得ニ關スル法律）

（九）千九百十九年六月二十一日ノ法律（來寇犧牲トナレル縣ノ農業者ニ特別資金貸付ヲ容易ナラシムル爲ノ法律）

附錄

一　戰爭荒廢地方ニ於ケル土地ノ境界劃定、配分及ヒ整理ニ關スル法律（千九百十九年三月四日）

第一條　一市町村ノ區域內ニ於テ宅地ナラサル所有地相互ノ境界カ一般ニ失ハレ又ハ混同サレタル場合ニハ知事ハ市町村長又ハ其ノ法定代理者ノ意見ヲ聽キタル上發スヘキ縣令ヲ以テ次ノ條件ニ從ヒテ土地復興ニ着手スヘキ事ヲ命ス

知事ノ命令中ニ指示サレタル市町村ニハ市町村土地復興委員會ヲ設クヘク其ノ任務ハ次ノ如シ

（1）不明トナリタル土地ノ限界ヲ詮索シテ之ヲ再興スルコト

（2）事情ニ應シ示談ニ依リテ交換及ヒ整理ノ實行ヲ勸ムルコト

該委員會ノ組織ハ次ノ如シ

委員長區ノ治安判事又ハ其ノ補助者一人、市町村長又ハ代理者

直接國稅局ノ一局員ニシテ縣局長ノ指定セル者

知事ノ任命スル農事改良課員又ハ代理者一名、測量技術者又ハ區道路課員一名及ヒ六人ノ土地所有者（內二名ハ區外ノ者）此等ノ人々ハ前記五名ノ委員ノ提案セル複表ニ基キテ知事之ヲ任命ス

治安裁判所ノ書記又ハ關係市町村ノ書記ハ委員會書記ノ職ニ任ス

諸官署課局ノ代表者ハ委員會ニ呼ヒ出サルルヲ得委員會ニ於テハ一切ノ證據方法ヲ許ス境界劃定ニ關スル該委員會ノ決定ハ告知竝公布ノ後ニ在リテハ以下ノ諸條件ニヨリテ爲サルル抗告ナキ限リ執行力ヲ有ス

該委員會ノ決定ニ對スル抗告ハ告知後一箇月以內ニ該地所所在地ノ民事裁判所ニ之ヲ提出スヘシ

該抗告ハ略式訴訟トシテ提起サル

是ニ對スル判決ハ訴狀提出ノ日ヨリ三箇月以內ニ與ヘラルルヲ要ス該判決ハ終審トシテ與ヘラル若シ抗告ヲ一箇月以內ニ起ササルトキハ委員會ノ定メタル境界ハ確定的ノモノタルヘシ

第二條　前條ニ規定セル土地復興委員會ハ以前ノ境界再興ニ先チ其ノ提議スル範圍內ニ於テ土地ノ新區分ヲナサンコトヲ要求スルノ權能ヲ有ス

境界確定ノ目的タル又目的タルヘキ土地ノ所有者及自己ノ土地ノ整理ヲ爲スニ付キ利益ヲ有スト信スル市町村內ノ土地所有者團體亦同樣ノ權能ヲ有ス

其ノ要求ハ住民ニ市町村ニ復歸ノ許可カ與ヘラレタル日ヨリ一年以内ニ整理區域内ノ土地ノ二分ノ一以上ノ面積ヲ代表スル利害關係土地所有者ノ多數ニ依リテ爲ササルカ又ハ該日附ヨリ三箇月以内ニ（但其ノ期間終了後十五日ノ猶豫ヲ置ク）當時現在ノ所有者全部ノ一致ニヨリテ爲サレサルヘカラス

該要求ハ縣ノ土地復興委員會ニ提出サルルモノニシテ該委員會ハ

委員長　司法大臣ノ任命スル司法部ノ法官一名、九名ノ土地所有者（内三名ハ縣會又ハ縣參事會之ヲ任命シ他ノ六名ハ農業團體又ハ農事同業組合ニヨリテ任命サル）

農事課々長

農事改良技師

直接國稅局ノ局長又ハ關係課長ノ代理人

ニヨリ組織サレ縣廳所在地ノ民事裁判所書記ハ書記ノ職ニ任ス

知事ハ該委員會ノ意見ヲ聽キタル後命令ヲ以テ提出サレタル要求ヲ裁決シ必要ニ應シテハ土地ノ分割ヲ命ス而シテ此ノ場合ニハ分割ノ目的タルヘキ土地ノ面積ヲ限定ス

隣接市町村ノ委員會又ハ土地所有者カ（各々異リタル縣ニ屬スル市町村ノ場合ニモ差支ナシ）該市町村ノ區域内ノ地所ニ對シテ行ハルル土地ノ區分整理ヲ共通ニ實施セン事ヲ要求シタルトキハ此等ノ土地ハ總括シテ同一整理適用ノ範圍内ニ入ルコトヲ得

第三條　土地ノ新分割ハ分割換ヘノ方法ニヨリテ各所有者カ分割ニ附セラレタル地所内ニ所有セシ地所ノ價額ニ等シキ割合ノ地價ヲ有スル地面ヲ該所有者ニ割當ツルヲ其ノ目的トスヘキモノニシテ其ノ爲ニハ田地ノ種々ナル性質ヲ斟酌シ且土地臺帳中ニ記載セル面積及ヒ宅地ナラサル土地ノ見積（此ノ見積ハ千九百十八年五月二十七日ノ法律ノ規定適用ノ結果ヨリ生スル如クニシテナサル）ヲ基準トシテ用フルヲ要ス

分割ニ附セラレタル地域内ニアル宅地ナラサル地所ノ蒙リタル損害ニ對シテ國家ノ負擔スヘキ賠償金ハ各所有者カ蒙リタル課稅所得ノ損失ニ比例シテ土地所有者ノ間ニ分配サルル

第四條　分割行爲ハ或ハ第一條ニ規定セル市町村土地復興委員會ニヨリ或ハ利害關係人ノ請求アルトキニハ千八百六十五年六月二十一日乃至千八百八十八年十二月二十二日ノ法律ノ規定適用フルヲ要ス

行ハル第一條ノ第一號乃至第五號内ニ含マルル業務ニ就テノ本法ノ規定ハ以下ニ示ス制限ノ下ニ之ヲ適用ス

（1）正當ニ召集ヲ受ケ且自由ノ棄權ヨリ起ル結果ヲ通知サレタル關係地主カ書類ニテ調査ノ異議ヲ申出テサル場合、或ハ總會ニ缺席シ又ハ總會ニテ投票ヲナササル場合ニハ該關係地主ハ組合ニ參加シタル者ト看做サルヘシ

（2）第一條ニ規定セラレタル調査ニ附サルヘキ書類中ニハ各土地所有者ノ狀況及組合ノ計畫案ヲ附記シテ整理地ノ圖面ヲ含マシムヘシ

（3）治安判事ヲ委員長トシ縣ノ直稅局長又ハ其ノ代理者、農事課長又ハ其ノ代理人、知事ノ任命スル區ノ公證人一名及關係地主カ無記名投票ニテ選出スル四人ノ地主（内二名ハ區外ノ者）ニテ組織サルル委員會ハ郡役所所在地ニ會合シテ土地ノ分配及評價又ハ組合規約ノ解釋ニ關シ團體員内ニ起ルヘキ或ハ團體員ノ一人カ提出スヘキ訴訟ヲ終審トシテ裁決スヘシ

該委員會ハ分割事務ヲ指揮セル技術家又ハ技師ヲ出席セシメテ發言ヲ爲サシムルコトヲ得

委員會ハ土地整理同業組合ノ業務ノ終了ヲ目的トスル總會ノ決議ヲ確認シ且認可スルノ義務アルモノトス

第五條　土地分割カ市町村土地復興委員會ニヨリテナサルル場合ニハ其ノ結果ニ對スル抗告ハ縣ノ土地復興委員會ニ對シテ之ヲナスコトヲ得該抗告ハ分割ノ結果ニ關スル告知及公布ノ日ヨリ一箇月以內ニナサルルヲ要ス

縣ノ土地復興委員會ハ三箇月以內ニ決定ヲ與フ該委員會ハ分割ヲ變更シ又ハ分割ノ變更ヲ勸ムル資格ヲ有ス

兵役ノタメ又ハ俘虜トシテ抑留サレ居ル所有者ニ關シテハ抗告ヲナシ得ヘキ一箇月ノ期間ハ該所有者カ自ラ又ハ代理人トシテ其ノ權利ヲ主張シ得ルニ至ル時ニ至ツテ始メテ開始サルヘキモノトスカカル條件ノ下ニ於テ爲サレタル抗告ハ停止的效力ヲ有セス又分割ノ變更ヲ惹起スルコトヲ得ス從ツテカカル地主カ自己ノ不在中ニナサレタル分割ノ結果トシテ蒙リタル損失ニ對シテハ縣ノ土地復興委員會ニ依ツテ之ヲ認メラルル時ニハ損失ニ就テノ賠償ヲ受クルノミトス而シテ其ノ賠償額ハ委員會ニ依ツテ定メラルヘシ

第六條　各市町村內ニ於テハ土地ノ整理分割作業ノ後之ニ續イテ土地臺帳ヲ改正スヘシ

第七條　特權、抵當權又ハ他ノ物權カ土地ニ附著シ居ルトキハ此等ノ權利ハ整理ニ依ツテ該地所ノ元ノ所有者ニ割當テラルル新地面ノ上ニ法律上當然ニ移轉セラルルモノトス

補足金ノ支拂ハルヘキ場合又ハ舊所有者カ單ニ賠償ヲ受クルニ過キサル場合ニ在リテハ特權アル債權者又ハ抵當債權者竝ニ其ノ他ノ物權ノ權利者ハ戰爭損害賠償法第七條ノ定メタル區別ニ從ヒ所定ノ規則ニ依リテ其ノ權利ヲ前記賠償金ノ上ニ行使シ得ルニ至ルモノトス

本法ニ規定セラレタル土地ノ分配整理ヨリ生スル土地及其ノ他ノ物權ノ讓渡ニ關スル證書ハ印紙ヲ要スルモ凡テノ登錄稅登記稅ヲ免カル

前出ノ告知ニ關シテ土地所有者ハ市町村役場內ニ住所ヲ選定シタルモノト看做サル

本法ノ公布後六箇月以內ニ發布セラルヘキ官廳ノ規定ヲ以テ本法ノ施行條件特ニ土地復興ノ縣委員會及市町村委員會ニ於テ爲サルヘキ手續、家屋ノ建テラレサル土地ニ關スル前記評價ヲ基礎トシテ土地ノ分割ヲ行フ際ニ從フヘキ告知及公布、竝ニ抗告ノ提起ニ關スル規定、兵役ノ爲又ハ俘虜トシテ抑留サレタル關係人ノ爲ニ設ケラレタル規定ノ適用ニ關スル規定ヲ爲スヘシ

二　戰爭損害賠償法

（千九百十九年四月十七日）

第一編　總則

第一條　共和國ハ總テノ「フランス」人カ本戰爭ノ負擔ノ前ニ平等且連帶ナルコトヲ要求ス

第二條　「フランス」及「アルデエリー」ニ於テ戰爭ノ事實ニ因リ動產及不動產ニ付テ生シタル確實有形直接ノ損害ハ被害者ニ對シ千九百十四年十二月二十六日法律第十二條ニ定ムル全額賠償ヲ請求スル權利ヲ附與ス但シ「フランス」國家カ敵ニ對シテ其支拂ヲ請求スル權利ヲ妨ケス

次ニ揭クルモノハ特ニ戰爭事實ニ因ル損害ト看做ス

（一）個人及團體ニ對スル敵國政府又ハ敵國軍隊ニ依ル總テノ徵收即チ宿泊若ハ舍營地ノ占領其ノ他アラユル形式名稱ノ下ニ於テ爲サレタル物件徵發竝ニ課稅戰時取立金及個人又ハ團體ニ課セラレタル罰金

（二）何人ニ依テ爲サレタルヲ問ハス收穫物動物立木及材木原料品家具證書及有價證券ノ徵發、收穫物及商品其ノ他總テノ動產ノ毀損又ハ一部的若ハ全部的ノ破壞撤退又ハ歸國ノ途上佛國內又ハ外國ニ於テ生シタル動產ノ喪失

（三）何人ニ依テ爲サレタルヲ問ハス樹木及森林、建築物其ノ他ノ不動產ノ毀損、建築物ノ一部的又ハ全部的ノ破壞、

商業、工業又ハ農業ノ爲メノ器具附屬品及動物ニシテ本法適用上用法ニ依ル不動產ト看做サレ且其ノ事業又ハ其ノ不動產ニ屬スト看做サルル物件ノ徵發毀損又ハ一部若ハ全部ノ破壞

(四)戰線ノ防禦區域及戰場竝ニ防備地點ノ附近ニ於テ生シタル前項ノ損害但シ賠償權利者ニ對シテハ軍事地役ニ關スル法令ニ由ル抗辯權ヲ對抗スルコトヲ得ス然レトモ賠償金額ヲ定ムルニ當リテハ評價委員會ハ法律命令ニ違反シテ又ハ請求次第破壞スル旨約款ヲ附シ許可ヲ受ケテ軍事地帶ニ於テ建設セラレタル工作物ノ一時的性質ノモノナルコトヲ斟酌スヘシ

(五)沿海漁業船ノ被害損害ノ檢査及評價ノ手續ハ行政命令ヲ以テ之ヲ定ム

攻擊準備防禦準備戰鬪及危險地點ノ撤退、軍事地帶內ノ占領其ノ他徵發、宿舍及舍營ノ必要ノ爲メ佛蘭西軍及聯合軍ニ依リテ生セシメラレタル損害ハ前項ノ損害中ニ包含セラル但シ賠償權利者ハ其ノ選擇ニ依リ千七百九十一年七月十日法及千八百七十七年七月三日法、千八百七十七年八月二日令、千八百八十六年十一月二十三日令及千九百十四年十二月二十七日令ノ規定ヲ採用スルコトヲ得損害ノ檢査及評價ヲ爲シタル後其ノ賠償ハ各被害者ニ對シ本法ノ規定ニ依リ上揭ノ分類ニ從ヒ等級ニ準シテ之ヲ定ム被害者ハ自己ヲ被リタル諸種ノ損害ニ對シ同時ニ其ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得

第三條　前條ノ權利ノ行使ハ被害個人及其ノ相續人、團體、公共團體、公益團體、市町村及府縣ニ許容セラル

千九百十四年八月一日ニ於テ資本ノ一部カ敵國民ニ依リテ所有セラレタリシ會社ハ敵國民タル株主ノ配當金ニ對スル積立金及敵國民タル株主ノ負擔ニ歸スヘキ他ノ總テノ積立金ヲ以テ敵國民ノ持分カ利得スヘキ賠償金ノ部分ヲ國家ニ返濟スヘシ

前項ノ適用ノ條件ハ行政命令ヲ以テ之ヲ定ム

「フランス」在住ノ外國人及佛蘭西國籍ヲ剝奪セラレタル歸化人ハ「フランス」ト此等外國人歸化人所屬國トノ間ニ締結セラル可キ條約ノ定ムル條件ニ於テ賠償請求權ヲ有ス外國人ハ單ニ保存ノ名義ニ於テ其ノ蒙レル損害ヲ檢査シ評價スル事ヲ許可セラル

公共ノ道路ノ特別使用權利者カ本法ノ利益ヲ受クル場合ノ條件ハ特別法ヲ以テ之ヲ定ム

第二編　賠　償

第四條　不動產ニ關スル賠償ハ動員ノ前日ニ於テ評價セラレタル被害額及毀損又ハ破壞セラレタル不動產ノ復興ノ爲ニ必要トナリタル補足費用額ヲ含ム

此兩種賠償ヲ受クル爲ニハ以下數條ニ定ムル樣式ニ從ヒ復舊使用ヲ爲シ得可キ條件ニ遵由スル場合ナルコトヲ要ス

復舊使用ヲ爲シ得サル場合ニハ被害者ハ單ニ被害額ノミヲ受ク

第五條　被害額及不動產ノ復興ノ爲ニ必要トナリタル補足費用額ハ本法第二十條以下ニヨリ設立セラルル委員會ニ於テ別々ニ之ヲ評價ス

建築物タル不動產及用法ニヨル不動產ノ被害額ハ動員ノ前日ニ於ケル建設、設立又ハ修復ノ價格ヨリ朽廢ニ由ル減價額ヲ控除シタルモノヲ基礎トシ及若シ動員ノ後ニ再築又ハ修復セラレタル不動產ノ場合ニ於テハ修復又ハ再築ノ日ニ於ケル價格ヲ基礎トシテ之ヲ評價ス

復舊使用ヲ爲シ得サル場合ニ於テ若シ其ノ不動產カ開戰ヨリ少クトモ十年以前ニ公正證書又ハ確定日附アル證書ニヨリ證明セラレタル所有權移轉ノ目的タリシ場合ニ於テハ被害額ノ評價ヲ爲スニ當リ證書面ノ價格カ前項ノ評價價格ヨ

リ少ナキ場合ニ於テハ之ヲ斟酌スヘシ被害額ハ動員ノ前日ニ於ケル不動産ノ賣價ヲ超ユルコトヲ得ス

本條第二項ノ不動産ニ就テハ補足費用ハ動員ノ前日ニ於ケル建築、設立又ハ修復ノ費用ト評價ノ日ニ於ケル同一ノ不動産ノ復興費トノ差額トス

復舊使用ノ條件ノ下ニ於テハ朽廢ニ由ル減價ハ一萬法ヲ限度トシテ完全ニ權利者ニ給與セラル此限度ヲ超ユル額ニ對シテハ歸屬權利者ノ請求ニ依リ該減價額ハ最終ノ支拂アリタル年ヨリ年三「パーセント」ノ利息附ニテ二十五年間ニ國家ニ償還セラルヘキ貸付金トシテ支給セラル

同樣ノ條件ノ下ニ於テ朽廢ニ由ル減價ハ不動產カ專ラ農業ノ爲ニ用セラルル場合ニハ動員ノ前日ニ於ケル建築ノ價格ノ二〇「パーセント」ヲ超過スルコトヲ得ス

此等ノ貸付金ノ償還ニ關シテハ國家ハ民法第三一〇三條ノ定ムル第一順位ノ先取特權ヲ享有ス復舊使用ハ被害市町村又ハ荒廢地域內五〇「キロメートル」ノ地帶ニ存在シ破壞セラレタル不動產ノ目的ヲ同樣ノ目的ヲ有スルカ又ハ工業的商業的若ハ農業的目的ヲ有スル不動產ニ付テ行ハルル國家ニ依ル土地ノ收用又ハ買戻ノ場合ニ於テ復舊使用ハ農業ニ關シテ荒廢地方ノ全地域ニ亙リ之ヲ行フコトヲ得

建築物タル不動產ハ公衆衞生ニ關スル法律命令ノ規定ニ從ヒ再築セラルルコトヲ要ス

本法ノ公布後十五日以內ニ於テ高等衞生會議ノ意見ヲ徵シテ制定セラルル行政命令ハ不動產又ハ部落ノ再築ニ適用スヘキ規定ヲ定ム

權利者カ完全ニ彼ニ歸屬シタル賠償金ト同一ノ金額ヲ不動產ノ再築又ハ事業ノ再設ニ充用シタルトキハ復舊使用ハ全部行レタルモノト看做ス

復舊使用カ一部ニ過キサル場合ニ於テハ歸屬權利者ハ只充用セラレタル金額ニ相當スル一部ノ補足費用ヲ受クルニ止マル

建築物以外ノ不動產ニ關シテハ土地ノ毀損圍障、總テノ種類ノ樹木、葡萄、苗、灌木、森林ノ毀損破壞ヲ斟酌シテ被害ヲ評價ス事業再著手ノ場合ニ於テハ權利者ハ圍障ノ再築、切株ノ除去、樹木及森林ノ新植又ハ再植ニヨリテ戰前ノ事業又ハ生產ノ狀態ニ土地ヲ恢復スル爲ニ必要ナル補足費用額ヲ請求スル權利ヲ有ス

權利者ハ前數項ニ規定セラレタル條件及制限ノ下ニ不動產ノ再築又ハ事業若ハ農商工業用ノ設備ノ再設ヲ目的トシテ賠償ニ對スル彼等ノ權利ヲ共有ニシ又之ヲ持分トシテ會社ニ出資スル事ヲ得會社ノ合併又ハ會社出資ノ場合ニ於ケル登錄稅ハ戰爭前ノ株式ニツイテ徵收セラル

公企業特許權者、府縣、市町村、公共團體又ハ公益團體ニ對シテハ賠償ハ不動產ノ再築ノ費用及其以前ノ出費總額ヲ超過スルコトヲ得ス

鑛業特許權者ニ對シテハ本條ニ規定セラレタル賠償金ノ附與ハ事業再著手ノ不可能ナルコトカ適法ニ證明セラレサル事業ノ再著手ヲ條件トス但シ再著手不可能ノ場合ニ於テハ被害額ノミヲ賠償セラルモノトス

第六條　建築物タル不動產ノ再築又ハ事業ノ再著手カ實現不可能ナルカ又ハ經濟上ノ利益若ハ公共衞生ヲ害ス可キコトヲ認メラレタル場合ニ於テハ戰時損害裁判所ニ於テ職權ヲ以テ再築又ハ再設ヲ禁止スルコトヲ得

第七條　復舊使用カ實施セラレサル場合ニ於テモ賠償ハ被害額及補足金額ヲ包含セシメテ之ヲ計算シ被害者ハ被害額ヲ受ク

再築補足金ハ財務法ノ定ムル條件ニ於テ被害地方ノ爲ニ使用セラルヘキ共同基金ニ歸屬セシム

第八條　復舊使用カ實施セラレサル場合ニ於テハ被害額ノ支拂ニ代ヘテ其ノ支拂ハルヘキ金額ヲ表示シ及年五分ノ利子ヲ附スル證書ヲ被害者ニ交附ス

此ノ證書ハ之ヲ權利者ニ交附シタル日ヨリ五年間ハ讓渡スルコトヲ得ス但シ此ノ期間內ニ於テモ檢察官ノ意見ニ從ヒ參事會ニ於テ民事裁判所ニヨリ與ヘラレタル許可アリタルトキハ之ヲ讓渡スルコトヲ得檢察官ハ第一審ノ決定ヲ以テ裁判所ニ呼出サル同裁判所ハ參事會ニ於テ略式訴訟事件ヲ判決ス

上記ノ條件ニ違反シ爲サレタル讓渡ハ總テ無效トス無效ハ大藏大臣ノ請求ニヨリテ宣告セラル

五年ノ期間ヲ經過シタル後ニ於テ證書金額ノ支拂ハ每年一回十回ニ亙リ金錢ヲ以テ之レヲ爲ス

其ノ第一回ノ支拂ハ第六年ノ終ニ之ヲ請求スルコトヲ得ヘク次回以後ハ十二月每ニ之ヲ支拂フ

本法第九條第四十四條及第四十五條ノ定ムル條件ノ下ニ復舊使用ヲ實施シ又ハ其ノ賠償額ヲ充用スルコトヲ契約セル歸屬權利者ハ上記諸條ニ定ムル形式ニヨリ金錢ヲ以テ支拂ヲ受クヘシ

第九條　權利者ハ賠償額ノ最終的確定ヲ記載シタル決定アリタル日ヨリ二年間復舊使用ノ條件ニ同意スルコトヲ猶豫セラル權利者ハ其ノ契約ニ基キ補足費用計算ヲ容易ナラシムル爲ニ其ノ實行セムトスル事業又ハ買入ノ見積書ヲ提出スヘシ

第十條　或物ノ共有者數名アル場合ニ於テ價額上及員數上多數ヲ構成スル者カ復舊使用ヲ實施スルコトヲ欲スル旨ヲ表示スル場合ニ於テハ復舊使用ハ當然行フコトヲ得此場合ニ於テハ復舊使用ヲ實施スルコトヲ欲スル旨ヲ表示セル共有者ノ請求ニヨリ共有ノ不分割ハ破壞セラレタル物ノ再築ノ日ヨリ最長五年ノ期間延期ス分割ノ場合ニハ復舊使用ハ當然之ヲ行フコトヲ得

會社ノ場合ニ於テハ定款ノ定ムル票決ヲ以テ使用ヲ決定シタルトキハ復舊使用ハ當然行フコトヲ得然レ共會社ノ存續期間ハ定款ノ定ムル所ニ依ルニ非サレハ之ヲ變更スルコトナシ

虛有權者用益權者永小作人又ハ賣買豫約ノ受益者カ復舊使用ヲ欲スル場合ニ於テハ復舊使用ハ當然之ヲ行フコトヲ得

用益權又ハ永小作契約ノ期間內ニ國家ニ支拂フヘキ年賦金ノ償還ハ第五條第五項ノ定ムル條件ニ從ヒ一半ハ虛有權者一半ハ用益權者又ハ永小作人ノ負擔トス

先取特權、抵當權又ハ不動產質權ヲ有スル債權者ハ最初ノ契約ノ支拂期限ニ於テスルニ非サレハ復舊使用ニ對シ異議ヲ申立テ又ハ金錢ニヨル債權ノ辨濟ヲ請求スルコトヲ得ス但シ此ノ支拂期限ハ其ノ權利ノ享有ヲ中絕セシメラレタル期間無償ニテ延期セラレタルモノト看做ス

先取特權、抵當權又ハ不動產質權ヲ有スル債權者用、益權者、永小作人、物權的使用權者又ハ居住權者、賣買豫約ノ受益者ノ權利ハ第五條第七項ニヨル國家ノ先取特權ノ留保ノ下ニ再設セラレタル物ノ上ニ移轉セラル

復舊使用ヲ行ハサル場合ニ於テハ先取特權、抵當權又ハ不動產質權ヲ有スル債權者竝ニ普通債權者及賣買豫約ノ受益者ハ其ノ擔保權ノ更新ニ關シ本法ニヨリ債務者ニ與ヘラレタル權利ヲ代位ニ依リ取得スルコトヲ得但シ檢查官ノ意見ニ從ヒ參事會ニ於テ與ヘラレタル民事裁判所ノ許可ヲ受ケ債務者ノ了解ヲ得債務者ニ代リ復舊使用ノ條件ニ署名スルコトヲ要ス佛蘭西在住ノ外國人ハ第三條第四項ノ定ムル條件ニ於テスルニ非サレハ此代位ノ利益ヲ有スルコトヲ得ス

債權者ハ其ノ債務者ヲ遲滯ニ付シタル日ヨリ二箇月ヲ經過シタル後ニ非サレハ其ノ訴權ヲ行使スルコトヲ得ス權利者ノ請求アル場合ニ於テハ郡委員會ノ書記ニ其旨ヲ利害關係人ニ通知スヘシ復舊使用ヲ行ハサル場合ニ於テ賠償金ハ第

四十三條ノ定ムル條件ニ從ヒ明示ノ委任ナクトモ各人ノ順位ニ於テ先取特權、抵當權又ハ不動產質權ヲ有スル債權者ニ屬シ及賣買豫約ノ受益者ニ屬スヘシ支拂ニ對スル異議及賠償金ノ讓渡竝ニ委任ハ賠償確定ノ後一箇月以內ニ縣金庫出納係及國庫收入官吏ニ對シテ之ヲ提出シ及通知スルコトヲ要ス此ノ異議及讓渡竝ニ委任ハ八日間以內ニ戰時損害裁判所ノ書記課ノ帳簿ニ記錄スルコトヲ要ス之カ違反ハ處罰セラルヘシ此ノ期間經過ノ後實行セラレタル支拂ハ效力ヲ有ス

用益權ノ場合ニ於テ登記ニ關シテハ權利者ニ交附スヘキ年金證書ヲ斟酌スルコトヲ要ス

若シ不動產カ使用權、居住權又ハ地役權ヲ負擔スル場合ニ於テハ賠償金ハ所有者及此者ノ權利ノ受益者ノ間ニ於テ其ノ關係權利ノ價額ニ應シ相續ニ關スル權利ニツイテ登錄管理局ノ定ムル割合及條件ニ從ヒテ分割セラル

第十一條　復舊使用カ權利者ニヨリテ實施セラレサル場合ニ於テハ關係所有者ハ團體的利益アル事業ノ遂行ニ關シテ千八百六十五年六月二十一日法及千八百八十八年十二月二十二日法ノ定ムル形式及條件ノ下ニ特許組合ヲ形成スルコトヲ得市町村カ關係所有者中ニ包含セラルル場合ニ於テモ市町村長ハ組合總會ニ出席スルモノトス但シ發言權ノミヲ有ス

第十二條　非軍用ノ建物又ハ宗教上ノ建物ノ場合ニ於テハ賠償金ハ破壞セラレタル不動產ト同樣ノ性質、價值及用途ヲ有シ同樣ナル存續期間ヲ保障セラルル建物ヲ再築スルニ必要ナル金額トス

此ノ價值及保障ハ利害關係人ノ請求又ハ職權ニ基キ後段規定スル特別委員會之ヲ定ム

異議アル場合ニハ戰時損害裁判所之ヲ決ス

文部大臣ハ同委員會ノ同意ヲ得テ廢墟ノ維持、保存及時トシテ歷史上又ハ美術上國家的ニ重要ナル建築物ノ再興ヲ決定ス是レカ爲ノ補助額ハ文部省ノ豫算款項ニ記入セラルル

廢墟ノ敷地上ニ再興スルコトヲ許サレサル場合ニ於テハ賠償金ハ新敷地ノ獲得ニ必要ナル金額ヲ包含ス

前段定ムル委員會ハ元老院ノ選任ニ係ル元老院議員　名、下院ノ選任ニ係ル代議士三名、會員中ノ指名ニ係ル佛蘭西學士院ノ會員二名、同僚中ノ選任ニ係ル高等美術評議會ノ會員一名、建築評議會ノ會員一名、史的紀念物委員會ノ委員ノ二名、文部大臣、大藏大臣、內務大臣、勞働大臣、復興大臣ノ代理各一名、內務大臣ノ指名ニ係ル教會修復ニ關係アル各宗派ノ代表者一名宛及文部大臣ノ指名ニ係ル藝術家六名ヨリ成立ス市町村參事會及關係團體ニ諮問スヘキ此ノ委員會ノ權限手續ハ本法公布ノ後二月以內ニ行政命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十三條　動產ノ損害ハ收穫物以外ノ動產ニ關シテハ千九百十四年六月三十日ニ於テ評價シタル被害ノ範圍ニ於テ之ヲ賠償ス然レ共千九百十四年六月三十日以後ニ買入レ又ハ生產シタル動產ニ關シテハ被害ノ評價ハ買入ノ價格又ハ生產ノ價格カ立證セラルル場合ニ於テハ是ニ從テ之ヲ爲ス

工業的、商業的、農業的、職業的又ハ家庭的ノ用途ヲ有セサル動產ニ關シテハ之カ評價ヲ爲シタル賣買相續ノ目錄其他ノ證書ノ日附カ十年以前ニ溯ルコトナキ場合ニ於テハ其證書上ノ價格ヲ超ユル評價ヲ爲スコトヲ得ス此等ノ證書ヲ缺ク場合ニ於テハ評價ハ第一項ニ從テ之ヲ爲ス

工業原料品及貯藏品ニ對スル損害ノ賠償ハ權利者カ不動產ニ關スル損害ヲ受ケ復舊使用ノ條件ニ同意セサルモ再使用カ禁セラレサル場合ニ於テハ第八條ニ規定セラレタル方法ニ從ヒテ之ヲ支拂フ被害ト復舊費トノ差額タル補足金額（復舊カ適法ニ實施セラレタル場合ニ於テハ復舊ノ費用ヲ又實施セラレサル場合ニ於テハ評價ノ日ニ於ケル復舊ノ費用ヲ斟酌シテ計算セラレタル所ノ）ハ尙次ノ種類ノ動產ニ對シテモ亦之ヲ附與ス

(一)正則ナル功程ニ恢復スル爲ニ及三月間ノ製造ノ爲ニ必要ナル工業用原料品及貯藏品竝ニ製造中生產品及職業ノ實用ニ用ヒラルル物件

(二)用法ニ依ル不動產ト認メラレサル場合ニ於ケル動物竝ニ次期ノ收穫ニ至ル迄耕作ノ恢復、土地ノ播種及農業用家畜ノ飼養ニ必要ナル肥料、種子、收穫物及種々ノ生產品

(三)商業資本ノ利用又ハ職業ノ實行ニ用フヘキ器具竝ニ三月間商業又ハ工業ノ進步ヲ確保スルニ必要ナル生產品及商品

(四)住居用動產卽チ家具、夜具、下著類、個人的家具、各箇ノ價格カ宣戰ノ際三千法ヲ超ヘサル裝飾品

第十四條　證券ノ喪失又ハ佛蘭西國債ノ利札ノ喪失ニ因リテ生シタル損害ハ同性質ノ證券又ハ利札ノ附與ニ因リテ之ヲ賠償ス

國債以外ノ「フランス」證券若ハ利札又ハ「フランス」ニ於テハ合法ニ損害ノ賠償ヲ得ラレサルヘキ外國ノ證券又ハ利札ニ關スル場合ニ於テハ損害ノ賠償決定ノ日以前ノ最近ノ相場ニ從ヒ此ノ相場ナキ場合ニ於テハ直接ニ評價セラレタル被害ノ範圍ニ於テ賠償セラルコノ場合「フランス」國家ハ證券又ハ利札ノ交付ニヨリテ其ノ責ヲ免ルルコトヲ得リテ取得シ且如何ナル場合ニ於テモ同性質ノ證券又ハ利札ノ交付ニヨリテ其ノ責ヲ免ルルコトヲ得

第十五條　裁判所附屬吏員（裁判所書記、代證人及執達吏等ヲ謂ヒ其ノ職ハ一種ノ株トシテ賣買セラルルモノ）ニ生シタル卽時直接及確實ナル戰爭損害ハ動員ノ日ニ於ケル其職務株ノ價格ト評價ノ日ニ於ケル價格トノ差額タル被害ノ範圍內ニ於テ之ヲ賠償ス

此ノ請求ハ敵對行爲ノ停止ノ命令ノ定ムル日ヨリ二年以內ニ之ヲ提出スヘシ

損害ノ評價ハ懲戒部又ハ局竝ニ控訴院又ハ民事裁判所ノ意見ニ從ヒ戰時損害裁判所ニ於テ終審トシテ之ヲ行フ

國家職務株ノ被害ヲ賠償スル目的ヲ以テ釀出セル金額ハ其ノ被害ヲ査定スル爲ニ爲シタル評價ノ後十年ニ於テ爲サルヘキ評價ニ於テ査定セラレタル增加額ノ半ヲ徵收スルコトニヨリ回收セラル

前項ノ回收ハ此ノ十年後ノ許價ノ後ニ行ハレタル讓渡ノ際ニ實行セラルヘシ但シ回收ノ場合ニ於テハ此ノ評價ノトキヨリ起算シ每年發生スル法定利率ノ利息ヲ伴フヘシ

職務株ノ讓渡カ此十年後ノ評價ノ後五年間ニ行ハレサル場合ニ於テハ增加額ヨリ支拂ハルヘキ回收ハ五分ノ一宛ノ年賦ニヨリ實行セラル其ノ第一ノ部分ハ五年ノ期間經過ノ後六月ヲ經テ之ヲ請求スルコトヲ得但シ此債務消滅前讓渡カ行ハレタル場合ニ卽時ニ要求スルコトヲ妨ケス

重大ナル損害ヲ受ケタル裁判所屬吏ハ政府行爲停止ノ命令ノ定ムル日ヨリ二年以內ニ其職務株ノ廢止ヲ要求スルコトヲ得ヘク又大法官廷ハ檢察官ノ請求ニ基キ賠償請求ノ目的タル總テノ職務株ノ廢止ヲ宣告スルコトヲ得但シ此ノ兩箇ノ場合ニ於テ懲戒部又ハ局竝ニ控訴院又ハ位置裁判所カ參事會ニ於テ宣告セル意見ニ從フコトヲ要ス

廢止セラレタル職務株ノ權利者タリシ者又ハ其ノ利害關係人ハ動員前五年間ノ該職務株ノ平均收入ヲ宣戰ノ際大法官廷ノ定メタル利率ヲ以テ資本ニ還元シタルモノヲ以テ動員ノ日ニ於ケル該職務株ノ價額ヲ受ク

職務株廢止ノ場合ニ於テ國家ニ依リテ支拂ハルル賠償金ノ全部又ハ一部ハ裁判所ノ定ムル割合ニ於テ司法大臣ノ決定ニヨリ該職務株ノ廢止ニヨリ利益ヲ受クル他ノ裁判所附屬吏員ノ負擔トス但シ之ヲ決スルハ懲戒部ノ意見ヲ徵シタル後且次項ニ依リ負擔ヲ有スル職務株ノ戰前及戰後ノ價格ヲ比較シタル後ナルコトヲ要ス

職務株ノ廢止ニヨリ利益ヲ受クル裁判所附屬吏員ノ負擔ニ歸シタル金額ハ彼等ノ職務株ノ增加額ノ半ヲ限度トシテ之

ヲ徴收スルコトヲ得

此徴收ハ本條第三項、第五項及第六項ニ定ムル方式ニ從ヒテ之ヲ行フ

十年後ニ行ハルル評價ハ控訴院第一院長ノ任命ニ係ル控訴院判事一名、若ハ民事裁判所々長一名、大藏大臣ノ任命ニ係ル直接稅務官吏一名、登錄管理人一名、法院又ハ裁判所ノ任命ニ係ル懲戒院ノ吏員二名ヲ以テ組織スル委員會ニ於テ之ヲ定ム本委員會ニハ書記トシテ現任若ハ十年間其職ニ在リタル裁判所書記中ヨリ一名ヲ選任附置ス

職務株ノ價格ノ增加部分ノ徴收ニ關スル國家ノ權利ハ總テ租稅ニ關スル先取特權ニヨリ保全セラル此ノ先取特權ハ司法省ノ裁判所付屬吏員役所ニ備フル特別帳簿ニ之ヲ登錄スルコトヲ要ス

公證人株ノ廢止ノ場合ニハ共和第十一年風月二十五日法第三十二條ノ規定ハ斟酌セラルルコトナシ郡內ノ總テノ職務株ノ廢止セラレタル郡ノ全部ニ亙リ公證事務ヲ取扱フ公證人ハ命令ヲ以テ之ヲ指示スヘシ

第十六條　物權ノ保全ニ關スル第十條ノ規定ハ動產ニ關シテモ復舊ノ目的物又ハ之ニ代ル賠償ニ適用セラル

第十七條　不動產上又ハ動產上ノ損害ヲ避クルカ爲若ハ其ノ損害ノ增加ヲ防止スルカ爲ニ保全方法カ講セラレタル場合ニ於テハ賠償金ハ適法ニ證明セラレタル費用償還ノ形式ニ於テ與ヘラル

第十八條　本篇ノ規定ニ依リ附與セラレタル賠償金ハ同一事變ニ依リ與ヘラルル他ノ賠償金ト相兼ヌルコトヲ得ス但シ本法ニ依レハ賠償セラレス又ハ一部分賠償セラルルニ過キサル所ノ總テノ種類ノ損害ニ關シテハ佛蘭西國家カ各種ノ條約ニヨリ徴收シタル賠償金ハ此限ニ在ラス

人、動物其他ノ動產ノ爲メノ一時的掩蔽物ヲ築造スル爲メニ附與セラレタル金額ハ賠償金ノ總額ヨリ之ヲ控除スルコトナシ

歸屬權利者カ戰時危險ニ對スル保險契約ヲナセル場合ニ於テ賠償金ハ保險者カ支拂フヘキ金額ヲ控除シテ之ヲ計算ス但シ既ニ支拂ヒタル保險料ヲ斟酌スルコトヲ要ス如何ナル場合ニ於テモ保險會社ハ國家ニ對シテ求償ヲ爲スコトヲ得ス

第十九條　權利者ハ一時的築造ノ爲本法ニ定ムル條件ニ從ヒ賠償金額ノ三分ノ一ヲ超エサル內金ノ交附ヲ受クルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ賠償金ノ殘餘ハ原債權カ確定スル迄國庫ニ依リ五分ノ利率ヲ以テ之ヲ資本ニ還元スヘシ而シテ此ノ金額ハ支拂ニ關スル本法ノ規定ニ依リ確定的建設ヲ條件トシテ權利者ニ對シ之ヲ支拂フコトヲ要ス

第三編　管轄

第二十條　本法ノ損害ハ以下ノ規定ニ從ヒ其ノ目的ノ爲ニ設置セラレタル郡ノ委員會ニ於テ之ヲ査定評價ス

關係各府縣ハ府縣令ヲ以テ郡委員會ヲ設立スヘキ期間、各郡ニ於ケル委員會ノ數、各委員會ノ所在地及管轄區域竝ニ手續ヲ開始スヘキ時日ヲ定ム

若シ或ル郡ノ位置及狀態カ之ヲ必要トスル場合ニ於テハ委員會ノ所在地ハ復興大臣ノ命令ニヨリ隣接府縣ノ一郡內ニ之ヲ定ムルコトヲ得

損害發生ノ場所不明ナル場合ニ於テ既設郡委員會ノ管轄區域ニ於テ此ノ損害ヲ査定スルコト能ハサルトキハ損害ノ査定及評價ハ特別委員會ニ於テ之ヲ行フ特別委員會ノ組織ハ郡委員會ト同一ニシテ巴里ヲ其ノ所在地トス

「セーヌ」縣戰時損害裁判所ハ關係委員會ノ決定ニ對スル上訴ヲ判決スル權限ヲ有ス

損害ノ目的物カ數郡ニ亙レル場合ニ於テハ其ノ管轄ハ其主要部分カ存在スル縣ノ郡委員會ニ屬ス

船舶業及船舶又ハ曳船ニヨル運輸業ニ生シタル戰時損害ノ査定及評價ノ爲ニ巴里ノ工務省內ニ特別委員會ヲ設ク損害

ノ場所カ知レ損害ヲ査定シ得ル場合ニ於テ當事者カ損害地郡委員會ノ面前ニ於テ其ノ要求ヲ爲シタルトキハ同委員會ニ於テハ此ノ査定ヲ行フ査定ニ關シテハ調書ヲ作製スヘシ本調書ハ八日間以内ニ損害評價特別委員會々長ニ移送セラルヘシ

此ノ特別委員會ノ決定ニ對スル上訴ハ「セーヌ」縣戰時損害裁判所ニ之ヲ提起スヘシ

第二十一條　郡委員會ハ五名ノ委員ヨリ成ル

(一)委員長一名、第一院長ニ依リ控訴院ノ管轄區域内ヨリ選任セラル然ラサル場合ニ於テハ該區域外ニ於テ司法大臣ニ依リ民事裁判所ノ判事及治安判事又ハ嘗テ十年間職ニアリタル民事商事裁判所裁判官、少ク共十年以來適法ニ登錄セラレタル辯護士、嘗テ十年間又ハ引續キ十年間辯護士又ハ職務株業務其ノ他ノ裁判所職務ヲ行ヒタルコトアル代訟人及公證人中ヨリ之ヲ選任スヘシ

(二)建築師、企業家又ハ技師一名

(三)競賣評價人、裁判所書記又ハ裁判所書記タリシモノ、器具商人又ハ何人タルヲ問ハス家具及有體動産ノ評價ニ關スル特別ナル技能ヲ有スル者一名

(四)評價スヘキ損害ノ情況及性質ニ應シテ招喚セラレタル常職農業者、工業者、商業者又ハ勞働者一名委員長及大藏大臣代理以外ノ委員ハ參事會ニ於テ民事裁判所之ヲ選任ス民事裁判所ハ同時ニ各種委員ニ付一人又ハ數人ノ補助委員ヲ選任スヘシ

裁判所ハ各委員會附屬ノ書記ノ任ニ當タラシムル爲裁判所書記又ハ裁判所書記タリシモノハ書記代理又ハ書記代理タリシモノ及市町村書記又ハ市町村書記タリシモノノ中ヨリ又ハ此等ノ者ナキ場合ニ於テハ裁判所ニ於テ適當ト認ムル

總テノ他ノ者ノ中ヨリ書記一名ヲ任命ス

委員會ハ委員長及三人ノ委員又ハ補助委員カ會議ニ出席スルニ非サレハ有效ナルヲ宣告爲スコトヲ得ス

第二十二條　損害カ鑛山又ハ石坑、森林又ハ池沼ニ生シタル場合ニ於テハ委員會ハ次ノ如ク構成セラル前條ニ規定セラレタルト同樣ノ方法ニ依リ選出セラレタル委員長一名、大藏大臣代表一名、鑛山石坑、森林又ハ池沼ノ經營者中ヨリ抽籤ノ方法ニ依リ選任セラレタル委員二名、關係大臣ニ依リテ任命セラレタル工務官吏一名又ハ水利森林官吏一名及評價セラルル損害ノ性質ニ依リテハ坑夫ノ代表者一名

船夫船航及曳船ニヨル運輸事業ニ生シタル損害ノ場合ニ於テハ委員會ハ次ノ如ク構成セラル前條ニ規定セラレタル如ク「パリー」法院ノ第一院長ヨリ選任セラレタル委員長一名、大藏大臣代理者、工務大臣代理一名、造船業者一名又ハ船乘一名トス最後ノ二委員ハ國水航海諮問會ニヨリ選任セラルヘシ同會ハ之ト同時ニ兩種委員ニ付キ同種類ニ於テ一名又ハ數名ノ補助委員ヲ選任スヘシ

第二十三條　各府縣ニ於テハ技術的委員會ヲ設ケ不動産ニ關シ一方ニ於テハ被害ノ計算ヲ容易ナラシメ又他方ニ於テハ再築ノ補足金復舊ノ價格ノ決定ヲ容易ナラシムル爲價格ノ等級ヲ作製シ又ハ作製セシムヘシ

此ノ委員會ハ遲クトモ郡委員會集會前月ニ於テ知事ニ依リ招集セラル該委員會ハ知事又ハ其ノ代理者ノ外ニ工務大臣代理一名、解放地方大臣代理一名、商事裁判所及商業會議所ノ所長、副所長、農業組合及農業委員會ノ會長及副會長、府縣勞務裁判所ノ所長及副所長、府縣内建築評議委員會ニ依リ選任セラレタル同會々員一名、府縣内ニアル建築家及技師ノ組合ノ組合員各一名ヨリ成ル

價格ノ等級ハ之ヲ評價委員會及權限裁判所ノ處分ニ一任シ損害ノ評價及賠償金ノ確定ノ爲ニ之ヲ用フルコトヲ得シム

第二十四條　利害關係人ハ委員會ノ事務ノ開始ヲ命スル縣令ノ公布アリタルトキヨリ管轄郡委員會書記ニ對シ證據書類ヲ添ヘ其請求ヲ提出スルコトヲ得同委員會ハ直チニ之ニ對シテ受領證ヲ交付スヘシ

利害關係人ハ損害地域ノ市町村長、縣知事又ハ郡長ニ對シテ之ヲ請求スルコトヲ得府縣行政官廳ハ書類檢査ノ後其意見ヲ添ヘ二週間以內ニ之ヲ郡委員會ノ書記課ニ移スヘシ

被害者ハ抵當權、不動產質權及先取特權ヲ有スル債權者ノ氏名、住所、使用居住權及地役權ノ受益者並ニ賣買豫約ノ受益者アラハ之ヲ指摘スヘシ

書記ハ此等ノ債權者ニ對シ請求ヲ通知スヘク該債權者ハ二週間以內ニ郡委員會及戰時損害裁判所ニ其ノ意見書ヲ提出スルコトヲ許サル

市町村有財產ニ關スル場合ニ於テ市町村長カ三日間ニ手續ヲ開始セサルトキハ市町村名簿ニ記入セラレタル納稅者ハ市町村有財產ニ生シタル損害ノ賠償ヲ目的トスル請求ヲ提出スルコトヲ得

第二十五條　既婚婦、無能力者及不在者ニ關スル事件及一般ニ法律上又ハ裁判上ノ財產管理人ニ依リ家督財產ノ管理ニ關スル事件並ニ限定承認相續ニ於テハ本法ニ依ル權利及訴權ノ行使ハ以下ニ揭クル留保ノ下ニ一般法ノ規定ニ從テ行ハル

(一)未成年者及禁治產者ノ後見人並ニ後見解除ヲ受ケタル未成年者ノ財產管理人ハ管轄判事ノ面前ニ於テ無能力者ノ親族會議ノ理由ヲ附セル決議ヲ證明シ得ルニ止マル

(二)夫カ嫁資制又ハ共通財產制ノ下ニ於ケル妻ヲ補佐スルコト能ハサルカ又ハ夫カ之ヲ拒絕シタルコトヲ認メタル繫屬裁判所ノ證明ハ訴訟手續上ノ總ノ行爲並ニ宣告セラレタル決定ヲ爲スニ關シ妻ヲ能力者タラシム

然レトモ復舊使用ノ態樣ニ關シテハ夫婦財產制ノ結果タル夫ノ享有權ヲ其儘ニ尊重セサルヘカラス

(三)法律上ノ管理人タル父、不在者ノ財產ニ對スル管理人並ニ限定承認相續者ノ如キ法律上又ハ裁判上ノ管理人ハ裁判所ニ於テ豫メ爲サルヘキ許可ヲ受クルコトヲ要セス

前三項ノ場合並ニ不融通財產ニ生シタル損害ノ賠償ノ場合ニ於テハ假令妻カ夫ノ許可ヲ受ケタル場合ニ於テモ管轄委員會ノ決議ハ常ニ判決裁判所タル戰時損害裁判所ノ管理ニ付セラル

第二十六條　被害者カ其財產ニ生シタル損害ノ一部ノミノ評價ヲ爲サシメ得ルコトヲ證明シタル場合ニ於テハ管轄委員會ハ被害者ノ請求ニ依リ手續ヲ命シ一部ノ査定及評價ヲ爲スコトヲ延期スルコトヲ得

第二十七條　書記ハ當事者ヲ呼出シ且呼出アリタル旨ヲ抵當權、不動產質權及先取特權ヲ有スル債權者、使用權及居住權ノ受益者及地役權ノ受益者並ニ賣約豫約ノ受益者ニ對シ配達證明附書留等ヲ以テ通知スヘシ國家ハ知事又ハ其ノ代表者ヲ代理人トシテ呼出サル

委員長ハ調書ヲ作成セシムルコトヲ得

委員會ハ當事者及利害關係人ノ意見ヲ聽クヘシ委員會ハ同樣ニ或種ノ損害ノ評價ニ關シ特別ナル技能ヲ有スル總テノ人ノ意見ヲ聽キ及必要ト思料スル總テノ鑑定及審理ノ方法ヲ命スルコトヲ得委員會ハ之カ爲現場ニ臨檢シ二名若ハ數名ノ委員ヲ派遣スルコトヲ得

當事者ハ血族若ハ姻族其他ノ親族ノ二名ハ辯護士組合ノ登錄辯護士又ハ職務株吏員ヲシテ補佐セシメ又ハ代表セシムルコトヲ得

千九百五年七月十七日法律第二百六十條九及千九百十一年七月十三日法律第九十六條ノ規定ハ本法ニ之ヲ適用ス

第二十八條　委員會ハ當事者ヲ和解セシムル樣ニ努メ機會アル毎ニ當事者間ノ意見一致スルヤヲ檢シ意見ノ一致ヲ確認スヘキ場合ニ於テハ判決ス此ノ場合ニ於テ和解ハ成立シ之ニ關シテ理由ヲ附シタル調書ヲ作製シ評價ハ確定セラル和解不成立ノ場合ニ於テハ委員會ハ當事者ノ要求、供述及和解不成立ニ關スル調書ヲ作製ス委員會ハ本法第二條ノ規定ニ從ヒ損害ノ各要素ニ付各別ノ評價ヲ爲シ損害ノ實狀及程度ヲ種類別ニ査定ス

書記ハ當事者ニ對シ配達證明附書留ヲ以テ委員會ノ決定ノ抄本ヲ送附シ同時ニ該抄本受領ノ日ヨリ一月以內ニ當事者ニ於テ書記課ニ於テ其ノ關係記錄ヲ閱覽シ及必要ニ應シテ戰時損害裁判所ニ對シ其ノ異議ヲ提出スルコトヲ得ヘキ旨ヲ豫告ス

戰時損害裁判所ハ當事者又ハ其ノ特別權限アル代理人カ該裁判所ノ書記課備付ノ帳簿ニ其ノ申出ヲ記入シテ屆出タルトキハ之ニ拘束セラル書記課ハ其ノ申出ニ對シテ受領證ヲ交付ス

郡委員會ノ調書、臨檢調書其他ノ證據書類ハ此委員會ノ書記ニ依リ戰時損害裁判所ノ書記課ニ移送セラル

第二十九條　戰時損害裁判所ハ郡委員會ヲ設ケタル區域ノ中心都府ニ於テ一時的ニ設置セラル

事情ノ變化ニ從ヒ該裁判所ヲ其ノ所在地ニ置クコト能ハサルニ至リタルトキハ隣接區域ニ假ニ之ヲ設置スヘシ

裁判所ハ事情ノ許ス範圍ニ於テ數部ニ之ヲ分ツ事務ハ第一部々長之ヲ各部ニ分配シ同一ノ郡ニ關スル事務ハ能フ限リ同一部ニ附與スヘシ

此裁判所ノ各部ハ次ノ如クニ構成セラル

(一)部長一名、司法大臣ノ提案ニ基キ控訴院及始審裁判所ノ名譽判事又ハ現任判事中ヨリ命令ヲ以テ選任セラル

(二)部員二名及副部員二名

部長ト同樣ニ選任セラレ而シテ控訴院及始審裁判所、州裁判所ノ現任及名譽判事及嘗テ普通辯護士會長タリシモノ、法科大學教授、嘗テ參事院、破毀院、辯護士會ノ會長タリシモノノ代言人及公證人會員ヨリ選任セラル

(三)部員二名及副部員二名ハ二月間ノ會期ノ始ニ當リ縣會ノ指定ニ依ル廿名ノ人名表中ヨリ抽籤ニヨリテ選定セラル

裁判所ハ部長ヲ算入シテ部員三名出席スルニ非サレハ有效ニ判決スルコトヲ得ス

裁判所ハ司法大臣ノ指名ニ係ル書記ノ出席アルコトヲ要ス

第三十條　裁判所ハ本法第二條ニ從ヒ損害ノ各要素ニ付各別ノ評價ヲ爲シ損害ノ各種類ニ付キ其ノ實情及程度ニ關スル各別ノ決定ヲ爲ス

裁判所ハ其ノ繫屬スル總テノ問題ニ關シ裁判シ決定的ニ賠償金額ヲ定ム

本法ニ依リ及本法施行ノ爲メ命令(décrets et arrêt(és))ニ依リ發セラレタル規則カ遵守セラレサリシ場合ニ於テハ裁判所ハ職權ニヨリ又ハ利害關係人ノ請求ニ基キ違法ナル行爲ヲ取消ス取消ノ宣言アリタル場合ニ於テハ裁判所ハ事件ノ情況及訴訟記錄ニヨリ事件ヲ郡委員會ニ返還シ又ハ同裁判所ニ於テ損害ノ評價賠償金ノ決定ヲ爲スコトヲ得

裁判所ハ判事一名ノ報告ニ基キ訴訟書類ニ就テ終審トシテ判決ス當事者ハ其ノ請求ニ關シ簡單ナル口頭ノ陳述ヲ自ラ又ハ彼等ノ家族ノ一人、親族又ハ姻族、適法ニ登記セラレタル辯護士、裁判所區域內ニ於ケル職務株吏員及適法ニ構成セラレタル被害者組合ノ代表者ヲシテ提出セシムルコトヲ得

報告ハ之ヲ讀上ケ判決ハ公衆ノ面前ニ於テ之ヲ宣告スヘシ

第三十一條　郡委員及戰時損害裁判所構成員竝ニ其等ノ書記ニ對シテハ司法大臣、大藏大臣及解放地方大臣ノ協議ニ依リテ決定シタル手當ヲ支給ス

第三十二條　總テノ證據方法ハ單ナル推測ト雖本法ニ規定セラレタル如何ナル種類ノ損害ニ付テモ其ノ實情及程度ヲ立證スル用ニ供スルコトヲ許容セラル

親族及婢僕ハ之ヲ證人トシテ其ノ供述ヲ聽取スルコトヲ得

郡委員會及戰時損害裁判所ハ損害ノ實情ヲ立證シ及其ノ評價ヲ爲サシムルニ適當ナル公私ノ證書ノ抄本、復本、謄本、商業ニ關スル帳簿及其ノ他總テノ文書ノ交付ヲ命スルコトヲ得

第三十三條　若シ權利ノ基礎及歸屬權利者ノ資格ニ就テ爭訟生シタル場合其ノ他賠償金額ノ決定ニ關係ナキ爭議起リタル總テノ場合ニ於テ賠償金ハ當事者カ當該機關ニ對シ上訴スヘキ爭訟及爭議ト分離シテ決定セラル

第三十四條　期間ハ民事訴訟法一〇三三條ノ規定ニ從ヒテ之ヲ計算シ及延長ス

第三十五條　決定ニ基キ交付スヘキ抄本又ハ謄本、執行力アル裁判ノ正本及復本殊ニ本法適用上郡委員會及戰時損害裁判所ニ於テ作成セラレタル手續證書ハ印紙及登錄ノ手續ヲ免除セラル此等ノ書類ニハ本法ノ施行ノ際作製セラレタル旨ヲ明示スヘシ

然レ共當事者ハ一定期間ノ登錄義務アル證書ト同數ノ未登錄證書若ハ印紙法ニ違背シテ印紙ヲ貼用セサル證書ヲ其ノ主張ノ證據トシテ提出シタル場合ニ於テハ郡委員會及戰時損害裁判所ハ千八百七十一年八月二十三日法律第十六條ニ從ヒ書記課ニ於テ直チニ登錄又ハ印紙ノ形式ヲ完備セシムルタメ職權ヲ以テ此等ノ證書ノ提出ヲ命令スヘキモノトス

第三十六條　戰時損害裁判所ノ決定ハ無權限、權限超過及法律違背ノ廉アルトキハ參事院ニ對スル上訴ノ目的タルコトヲ得

此上訴ノ期間ハ最モ利害關係深キ當事者ノ請求ニヨリテ執達吏カ決定ヲ通達シタル日ヨリ二月トス上訴ハ戰時損害裁判所ノ書記課ニ提出スヘシ

取消ヲ宣言スル決定ハ更ニ賠償金ノ請求ヲ裁判スヘキ裁判所ヲ指定スヘシ

第三十七條　第二條ノ規定セル損害賠償訴權ハ不可抗力ニ依ル場合ヲ除ク外平和條約調印ノ後二年ヲ經過シタルトキハ時效ニ因リテ消滅ス

本法ニ依リテ設立セラレタル委員會及裁判所カ訴訟提起ノ際既ニ解散セラレタル場合ニ於テハ其ノ訴訟ハ參事院ニ上訴スル場合ヲ除クノ外ハ縣參事會ニ之ヲ提出スヘシ

第三十八條　戰時損害裁判所構成員ノ職權ハ郡委員會構成員ノ職權ト相兼ヌルコトヲ得ス又當該裁判所管轄區域ニ於ケル賠償金歸屬權利者ノ資格及選擧委任ノ行使ト兩立スルコトヲ得ス

第三十九條　本法ノ定ムル訴訟手續ニ參加セシムル目的ヲ以テ職權權限アル者ヲ召喚シタル場合ニ於テハ此等ノ者ハ總テ刑法第三七八條ノ定ムル制裁ノ下ニ同條ノ定ムル條件ニ於テ職務上秘密ヲ守ルコトヲ要ス

第四十條　本法公布後一月間ニ於テ司法大臣及解放地方大臣ノ提議ニ依リテ制定セラルル命令ヲ以テ郡委員會及戰時裁判所附屬ノ書記課ノ組織及職能ノ細則ヲ定ムヘシ

第四十一條　郡委員會及戰時損害裁判所ノ書記ハ歸屬權利者ノ請求アル場合ニ於テハ十五日以內ニ彼ニ關スル各個ノ決定ニ對スル謄本ヲ交付ス此謄本ニハ歸屬權利者ノ氏名、損害ノ種類及性質被害額及若シ必要アラハ朽廢ニ因ル減價ノ該當額及再設及復興ノ補足金額ヲ記載スルコトヲ要ス

同樣ノ條件ニ於テ郡委員會及戰時損害裁判所ノ書記ハ參事院ニ對スル上訴ナキコトノ證明書ヲ交附ス

第四十二條　國家、府縣及市町村有營造物ノ特許企業權利者ノ被害ノ恢復ヲ目的トスル賠償金評價ノ訴訟手續ニ於テハ特許ヲ與ヘタル當局又ハ特許企業權利者ノ申出ニ基キ假令原特許ノ負擔ヲ加重スル場合ニ於テモ特許企業者ノ權利及利益ヲ保留シツツ專ラ經營ノ條件ヲ改善スル爲ニ特許規約及特許仰令書ヲ變更スルコトヲ得決定アリタル後三月間ニ協議調ハサル場合ニ於テハ特許ヲ與ヘタル當局ハ當然買戻ノ權利ヲ行使スルコトヲ得

買戻カ豫定セラレタル場合ニ於テハ特許命令書ニ依リテ定メラレタル條件ニ於テ又之ニ反スル場合ニ於テハ鑑定人ノ意見ニ從ヒ千九百十四年ニ先立ツ五年間ノ事業ノ結果ニ關スル總テノ狀況ニ基キテ買戻ヲ行フヘシ、買戻ノ場合ニ於テヲ特許企業者ハ當然本法ニ依リテ設ケラレタル權利ニ付キ特許ヲ與ヘタル當局ニ代位スヘシ

第四編　賠償金ノ支拂

第四十三條　決定カ第二條ニ記サレタル損害ノ一種又ハ數種ニ關係スル場合又ハ第十五條ニ規定サレタル損害ニ對シテ關係スル場合ニ於テハ第四十一條ニ依リテ歸屬權利者ニ交附セラレタル謄本ハ歸屬權利者ノ請求ニ基キ二月ノ期間內ニ大藏大臣ニヨリ被害ノ賠償金額ノ査定證書ト交換セラル本證書ハ之ヲ讓渡スルコトヲ得ス本證書ハ大藏及解放地方大臣ノ命令ノ定ムル條件ニ於テ前渡金ノ目的トナル本證書ハ檢察官ノ意見ニ從ヒ參事會(Chambre de conseil)ニ於テ與ヘラレタル民事裁判所ノ許可ヲ以テ民法第千六百八十九條以下ノ規定ニ從ヒ入質スルコトヲ得

本法第三條及第五條ニ規定セラレタル條件及形式ニ從ヒテ復舊使用ヲ實行スル歸屬權利者又ハ第九條ニ依テ彼ニ留保セラレタル權能ヲ將來利用スヘキ歸屬權利者ハ前項ト同樣ナル條件ニ於テ附與セラルヘキ補足金額ヲ指示スル附屬證

同樣ノ附屬證書ハ第十三條第四項第一號乃至第四號ニ定ムル動產ニ付キ被害額ニ對スル復舊費ノ超過額ニ關シテ交附セラル同項第一號乃至第三號ニ定ムル動產ニ關シテハ附屬文書ノ交附ハ事業ノ再始ヲ條件トス

決定ノ謄本ニ指示セラレタル朽廢ニ因ル減價該當額ノ支拂ニ關シテハ本法第五條第五項ニ依ル歸屬權利者ノ前渡金ノ權利ヲ査定スル特別證書ヲ交付ス

二月ノ期間內ニ於テ賠償決定ノ謄本ト引換ニ敵ノ當局及軍隊ニ依リテ强制セラレタル現金ノ徵發、罰金及分擔金ヲ元金トシ損害發生ノ日ヨリ年五分ノ利息ヲ付スル特別證書ヲ交付ス本特別證書ヲ由來スル金額ハ此證書ノ提示アリタル場合ニ支拂ハル

第四十四條　歸屬權利者カ第四條及第五條ノ條件ニ從ヒ不動產ニ關シテ復舊使用ヲ行フ場合若ハ郡委員會又ハ戰時損害裁判所ニ於テ復舊使用又ハ再築ヲ行フ旨ノ契約ヲ締結スル場合ニ於テハ證據ナクトモ歸屬權利者ハ證書交付ノ日ヨリ二月內ニ於テ被害ニ對シテ許與セラレタル額ノ二割五分ニ當ル第一內金ヲ請求スルノ權アリ此內金ハ若シ被害額カ三千法ニ等シキハ若ハ之ヲ超ユルモ十萬法ヲ超エサル場合ニ於テハ戰時損害裁判所ニ於テ受取書、計算書又ハ註文書ヲ提出シテ一層直接ノ用途又ハ必要ノ存在カ證明セラルルニ非サレハ三千法ヨリ少額ナルコトナシ

被害ノ差引額ハ事業カ實行セラレ買入カ實施セラレタルコトノ證明アル毎ニ順次ノ內金ヲ以テ支拂ハル每回ノ支拂ハ證明アリタル日ヨリ二月以內ニ行ハル

被害金額ノ支拂カ全部實施セラレタル場合ニ於テハ補足金額ハ附屬證書ノ提出アル毎ニ同樣ナル條件ニ於テ支拂ハル

第十三條第四項第一號乃至第四號ノ定ムル動産ニ關スル場合ニ於テ被害額ニ對スル復舊使用ノ超過額ノ場合亦同シ
本法第十三條第二項ノ定ムル動産ニ生シタル損害ノ恢復ノ爲ニ歸屬權利者ニ附與セラレタル賠償金額ハ何等カノ名義
ヲ以テ前記歸屬權利者ニ支拂ハルヘキ總テノ他ノ金額ヲ支拂ヒタル後ニ之ヲ支拂フ
補足金額ヲ不動産ノ再與又ハ事業ノ再設ニ充當シタル後歸屬權利者カ第五條第三項ニ依リテ彼ニ留保セラレタル權能
ヲ行使シタル場合ニ於テハ朽廢ニ因ル減價該當額ハ使用ノ證明アリタル毎ニ特別證書ノ提出アリタル場合ニ之ヲ支拂
フ
前數項ノ適用ト關係ナク且戰爭損害ヲ評價スル前ニ於テ急迫ノ必要ニ應スルカ爲被害者ニ對シテ前渡金ヲ附與スルコ
トヲ得前渡金附與ノ條件ハ解放地方大臣及大藏大臣ノ協議ニ依リテ之ヲ定ム
第四十五條　歸屬權利者カ被害額ヲ請求スル權利ヲ有スルニ過キサル場合ニ於テ若シ彼カ二年間以內ニ郡委員會又ハ戰
時損害裁判所ニ對シ賠償金ヲ不動産ノ農業上、工業上及商業上ノ使用ニ又ハ職業
ル意思ヲ表明シタルトキハ被害ヲ代表スル賠償金ハ事業カ實行セラレタル旨又ハ買入カ實施セラレタル旨ノ證明アリ
タル毎ニ順次ノ內金ヲ以テ支拂ハル
第八條ニ規定セラレタル場合ヲ除ク外若シ歸屬權利者カ賠償金ヲ不動産ノ農業上、工業上及商業上ノ使用ニ又ハ職業
ノ經營ニ充當セサル場合ニ於テハ賠償金ハ十年ノ年賦ヲ以テ支拂ハル其ノ第一回ハ債權證書ノ交附後三月以內ニ之ヲ
支拂ヒ以後ハ十二月毎ニ之ヲ支拂フ
第四十六條　國家ハ歸屬權利者ノ同意アリタル場合ニ於テハ次ノ方法ノ一ニヨリ其ノ責ヲ免ルルコトヲ得性質上ノ不動
産ノ場合ニ於テハ損害ヲ受ケタル郡又ハ隣接ノ郡ニ位置スル同性質同價値ノ他ノ不動産ヲ附與スルコトニ依リ用法ニ

ヨル不動産ノ場合及工業上、商業上、農業上職業用又ハ家庭用ノ用途ヲ有スル動産ノ場合ニ於テハ同價格ノ同樣ナル
物件ヲ支給スルコトニ依リ其ノ他ノ動産ノ場合ニ於テハ次ノ方法ノ一ニヨリ其ノ責ヲ免ルルコトヲ得性質上ノ不動
ヲ受ケタル不動産又ハ動産ノ恢復事業ヲ實施セシメ又ハ是カ爲ノ材料ヲ供給シテ其ノ全部又ハ一部ノ責ヲ免ルルヲ得
國家ハ損害又ハ破壞セラレタル不動産ノ全部又ハ一部ニ付テ自ラ其ノ取得者タルコトヲ得
其ノ價格ニ關シテ一致ヲ缺ク場合ニ於テ其ノ價格ハ前篇賠償評價ノ規定ニ從ヒ地價ヲ斟酌シ又賣主カ本法第五條ノ定
ムル條件ニ於テ復舊使用ノ實行ヲ約スルトキハ復舊使用ノ場合ニ於ケル法定ノ總テノ費目ヲ包含セシメテ之ヲ決定ス
支拂ハ場合ニヨリ第四十四條及第四十五條ノ定ムル所ニ依リテ行ハル國家ハ使用ニ依リテ地價減少シタル土地ノ恢復
費カ土地ノ價格ヲ超ユル場合ニハ協議ヲ試ミタル後ニ於テモ前拂ヲ爲スコトニヨリ其ノ責ヲ免ルルコトヲ得歸屬權利者カ租
合ニ於テハ之ヲ考慮シ以テ其ノ土地ヲ取得スルコトヲ得
國家ハ如何ナル場合ニ於テモ及如何ナル時期ニ於テモ前拂ヲ爲スコトニヨリ其ノ責ヲ免ルルコトヲ得歸屬權利者カ租
稅ノ納付其ノ他名義ノ何タルヲ問ハス國家ノ債務者タル場合ニ於テハ其ノ負擔額ハ彼ノ要求ニ依リ賠償金額ノ內金ト
シテ算セラル而シテ賠償金額支拂ノ終ル迄ハ其ノ負擔額ヲ請求セラルルコトナシ
第四十七條　被害ノ賠償ノ爲ニ國家ノ負擔ニ屬スル金額ハ別莊及第一條第二項ニ規定セラレタル不動産ニ生シタル損害
ニ對シテ拂ハルヘキモノヲ除キ千九百十八年十一月十一日ヨリ年五分ノ利子ヲ生ス此利子ハ三年毎ニ通貨ヲ以テ支拂
ハル
然レ共商品、牧穫物、生産物及貯藏品ニ生シタル損害及第十三條第四項第一號乃至第三號ノ規定ニ依リテ保護セラレ
サル原料品タル貨物ニ生シタル損害ニ對シテハ利息ハ損害ノ日ヨリ六月後ニ於テ之ヲ起算ス

敵ノ占領中ニ於テ此等ノ商品、收穫物、生産物、貯藏品及原料品ニ生シタル損害ニ對シテハ侵入ノ日ヲ以テ起算日ト爲スコトヲ得

第四十八條　賠償金、利息及前渡金ノ支拂ハ直接ニ國家ニ依リ又ハ國家ノ保證ノ下ニ實行セラル國家カ金融機關ノ協力ヲ求メタル場合ニ於テハ其ノ約定ハ議會ノ承認ヲ經ルコトヲ要ス

第五編　雜　則

第四十九條　復舊使用及復興使用ノ場合ニ於テハ賠償金ニ對スル權利ハ民法第千六百八十九條以下ニ規定セラレタル條件ニ從ヒ及檢察官ト合議ノ上參事會(Chambre de conseil)ニ於テ民事裁判所ノ與フル許可ヲ以テ讓渡シ又ハ委任スルコトヲ得此讓渡又ハ委任ヲ證明スル證書ハ印紙及登錄ノ總テノ租稅ヲ免除ス

同樣ノ規定ハ不動產信用組合又ハ不動產ノ再設ヲ引受タル住宅組合又ハ慈善事業ニ對シテ前項ノ讓渡カ爲サレタル場合ニ適用セラル賠償金ノ歸屬權利者カ其ノ權利ヲ不動產信用組合又ハ住宅組合ニ讓渡シタル場合ニ於テハ組合ハ歸屬權利者ニ對シ不動產ノ復興ニ必要ナル金額ノ貸與ヲ承諾スルコトヲ得但シ貸與金額ノ五分ノ一ニ相當スル有價證券ノ所有ヲ證明スルコトヲ要セス又抵當ヲ供給シ又ハ生命保險契約ヲ締結スルコトヲ要セス

第五十條　本法公布前不動產ノ建造セラレタル土地ヲ賣却シタル歸屬權利者ハ再使用ノ條件ニ同意署名スル場合ニ於テハ參事會ニ於テ言渡民事裁判所ニ對シ賣價及契約ノ正當ナル費用ヲ取得者ニ返還スルヲ負擔シテ賣買ノ解除ヲ請求スルコトヲ得

第五十一條　戰時損害裁判所ハ終審トシテ職權ヲ以テ反對ノ契約ニ拘ラス歸屬權利者ノ利益防禦ヲ依賴シタル代理人及技術者竝ニ鑑定人カ歸屬權利者ニ請求スル金額ヲ減少スルコトヲ得

減少ハ賠償確定ノ日ヨリ二年內ニ於テ之ヲ請求シ又ハ職權ヲ以テ宣告スルコトヲ得

既ニ支拂ハレタル金額ハ返還請求ヲ受クルコトアリ

第五十二條　次ニ揭クル者ハ賠償金ノ全部又ハ一部ニ對スル權利ヲ失フ

(一)陸軍治罪法第二百四條乃至第二百六條、第二百八條、第二百三十八條及第二百三十九條又ハ海軍治罪法第二百六十二條乃至第二百六十五條、第三百十六條及第三百十七條ニ規定セラレタル重罪又ハ輕罪ヲ對席又ハ缺席ニヨリ宣告セラレタルモノ

(二)戰時中召集ニ應セス又ハ脫營シタル佛人又ハ佛國民

此場合及前項ノ缺席判決ノ場合ニ於テハ召集不應者、脫走者又ハ闕席被告人カ失權宣告ヲ齎シタル重罪又ハ輕罪ニ對シテ將來放免ノ判決ヲ受ケタル場合ニ於テハ賠償金ニ對スル權利ハ當然失ハル刑ノ時效モ重罪又ハ輕罪ノ時效モ此ノ失權ヨリ利害關係人ヲ救濟スルコトヲ得ス

第五十三條　次ニ揭クル者ハ賠償金ノ全部又ハ一部ニ對スル權利ヲ失フ

(一)復舊使用ノ條件ニ反スル賠償金ノ使用ヲ爲シタル歸屬權利者

(二)民法第千三百二十一條ノ規定ニ反シテ讓渡シ又ハ仲裁契約ヲ締結シタル歸屬權利者

(三)既ニ保險ニ依リ賠償金ヲ受ケタル旨ヲ屆出ツルコトヲ惡意ヲ以テ怠リ又ハ故意ニ虛僞ノ屆出ヲナシタル請求者

此三箇ノ場合ニ於テ不法ニ讓渡又ハ徵收セラレタル金額ノ返還請求ハ別ニ之ヲ追訴スヘシ

第五十四條　第五十二條、第五十三條ニ規定セラレタル失權ハ第五十三條第一號ノ場合ヲ除クノ外檢察官ノ請求ニ基キ

普通裁判所ニ於テ之ヲ宣告ス第五十三條第一號ノ失權ハ國家ヲ代表スル權威アル者ノ請求ニ基キ戰時損害裁判所ニ於テ之ヲ宣告ス

第五十五條　本法第二編ニ規定セラレタル條件ニ於テ築造物ノ全部又ハ一部ヲ再設スル工業者又ハ商業者ハ築造ヲ開始スル日ヨリ十五日前ニ勞働大臣ニ其旨ヲ屆出ツルコトヲ要ス勞働大臣ハ之ニ受領證ヲ交付スヘク又其ノ屆出ヲ其ノ工業者又ハ商業者ノ使用スル勞働者又ハ被傭者ニ知ラシムル爲ニ必要手段ヲ執ルヘシ屆出アリタル其ノ月ニ於テ勞働者又ハ被傭者ハ登簿ノ順序ニヨリ工業ノ必要ニ應シテ勞働ニ從事スルコトヲ得

第五十六條　被害者ハ建築材料及原料用具ノ獲得及移送並ニ復舊使用ニ必要ナル勞力ノ獲得ニ付他ノ總テノ權利ニ優先スル優先權ヲ有ス此ノ優先權ハ本法公布ノ月ニ於テ制定スヘキ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第五十七條　千九百十五年七月二十日命令第三條乃至第八條ノ規定ニ依リテ既ニ爲サレタル郡委員會ノ決定及同命令第二篇及第三篇ノ規定ニ依リテ既ニ爲サレタル府縣委員會員ノ決定ハ知事又ハ歸屬權利者若ハ其ノ關係人ノ請求ニ依リ必要アル場合ニ於テハ本法ノ規定ニ從ヒ一時的ニ之ヲ補充スルコトヲ得此等ノ決定ニ付テハ本法公布ノ日ヨリ六月間內ニ戰時損害裁判所ニ抗議ヲ提出スルコトヲ得

第五十八條　破壞セラレタル築造物又ハ不動產再興ヲ目的トシテ作ラレタル組合ハ賠償金ノ支拂ヲ受ケタル者カ復舊使用ヲ爲ササル場合ニ於テハ其ノ者ノ讓渡ニ同意セサルトキト雖本法第七條第二項ニ依リ設ケラレタル共同資金ノ所在地ニ於テ其ノ補足金額ノ支拂ヲ受クヘシ

第五十九條　區劃臺帳修正ノ費用及戰爭ノ事實ニヨリ必要トナレル土地分割ノ費用ハ國家ノ負擔トス

第六十條　不動產除去ノ費用及未發爆彈ノ搜索及除去ノ費用ハ國家ノ負擔トス國家ハ所有者ノ許可ナクトモ市町村ト協議ノ上職權ヲ以テ之ニ著手スルコトヲ得國家ハ此等ノ建築材料ノ所有者タルヘシ

國家ハ未發爆彈ノ爆發ニ依リ生シタル災害ニ付責任アルモノトス

第六十一條　戰爭ニ依リ損害ヲ被レル市町村又ハ其ノ一部分ニ於テ破壞セラレタル不動產ノ再設ノ爲ニ總テノ種類ノ公道ヲ直線水平ナラシムル計畫ノ施設費用ハ國家ノ負擔トス

解放地方省ノ豫算ニ登載セラレタル補助金ハ前項ノ計畫ノ卽時施設費トシテ敷地カ市町村ニ屬スル道路ニ關シテハ市町村ニ對シテ附與セラレ府縣道ニ關シテハ府縣ニ對シテ附與セラルヘシ

此等ノ補助金ハ道路ヲ直線ニ改ムル爲ニ空地又ハ現在廢墟トナリ若ハ著シク毀損セラレタル建物ヲ取得スル場合ニ適用セラルヘシ此等ノ土地及建物取得ノ價格ハ協議調ハサル場合ニ於テハ此等ノ土地及建物ノ合併サルヘキ公道路ノ性質如何ヲ問ハス千八百三十六年五月二十一日法第十六條ニ規定セラレタル條件ニ從ヒ四人ノ陪審員ニヨリテ構成セラルル陪審ニヨリ決定セラルヘシ

前記ノ補助金ノ割合ハ大藏大臣及解放地方大臣ニヨリ併署セラレタル命令ノ價格早見表ニ從ヒテ定メラルヘシ

第六十二條　部落ノ公共衞生ニ對スル改良ノ爲ノ經費ハ第五條ノ行政命令ニ依リ國家ノ負擔トス

第六十三條　以前戰爭ノ爲メニ市町村カ募集シタル公債ニ對シテ「フランス」國內ニ於テ市町村ノ支拂フヘキ金額ハ本法公布ノ日ヨリ之ヲ國家ノ負擔トス

第六十四條　戰爭ノ爲ニ損害ヲ被レル不動產並ニ防禦地點又ハ軍事當局カ住民ヲ撤退セシメタル地方ノ不動產ニ關スル賃貸借上ノ權利義務ニ關シテハ特別法ヲ以テ之ヲ定ム

第六十五條　營業資本ニ生シタル損害ノ恢復ノ權利行使ノ條件ハ特別法ヲ以テ之ヲ定ム

第六十六條　次ニ揭クル損害賠償ノ權利ノ行使セラルヘキ條件ハ特別法ヲ以テ之ヲ定ム

(一)戰爭ニ由ル個人ノ損害

(二)次ノ場所ニ於テ發生スヘキ災害ニ由リ個人又ハ其ノ財產ノ上ニ生スヘキ損害

(a)造兵廠、製造所及軍需品寄託所

(b)國防ノ爲ニ作業セル私設ノ工場、但シ一般法ニ依リテ賠償ノ得ラレサル場合ニ限ル

國家ハ被害者ノ最モ緊急ナル必要ニ充ツル爲ニ被害者ニ附與スヘキ前渡金ノ回收ニ付キ被害者ノ權利、訴權及特權ヲ代位取得スルコトヲ得

第六十七條　戰鬪中止ノ後三年間ニ戰爭被害地方ノ住民ニシテ一時的巡遊者ノ爲ニ家具附ニテ賃貸又ハ轉貸スル部屋ヲ其ノ住宅內ニ造作スルモノハ各市町村ニ於テ千八百八十四年三月二十一日法ニ依リ組合ヲ組織スルコトヲ得

提供セラルヘキ住居ハ府縣衞生委員會ノ定ムル條件ニ適スルコトヲ要シ且其ノ指揮ヲ受クルコトヲ要ス

此種ノ住居ノ一覽表ハ國立族行案內所ノ承認ヲ經タル價格條件ヲ添ヘ各市町村役場ニ於テ請求者ノ任意閱覽ニ供セラル

第六十八條　本法ハ植民地及保護國ニ適用セラル此適用ノ條件ハ行政命令ヲ以テ之ヲ定ム

植民地ニ於テ戰爭ニ由ル損害恢復ノ爲ニ附與セラルル賠償金ハ之ヲ國家ノ歲出豫算中ニ算入ス

第六十九條　戰爭損害ノ恢復請求權ヲ發生セシム可キ場所ノ狀態査定ニ關スル千九百十七年七月五日法第四條第一項ノ規定ハ次ノ如ク之ヲ補正ス

「然レ共第一條ノ定ムル條件ニ於テ知事カ國家ノ鑑定人ヲ選任スル場合ニ於テハ臨檢調書及實況調書ハ之ヲ府縣ニ送付スヘシ府縣ハ此カ受領證ヲ交付スヘシ」

第七十條　千九百十五年四月八日命令及二十七日命令ニ依リ變更セラレタル千九百十五年四月二十二日命令ニ依リ變更セラレタル千九百十五年三月二十四日命令及千九百十五年七月二十日命令竝ニ本法ニ牴觸スル總テノ規定ハ之ヲ廢止ス

三　賦割期限及停止條件附又ハ解除條件附契約ニ依リテ住宅及土地ヲ取得スル者ノ地位ヲ規定スル法律

（千九百十九年五月十七日）

第一條　千九百十四年八月一日以前ニ締結セラレタル契約ニシテ定期內金拂込ノ方法ニヨリ當事者ノ一方ニ所有權取得ノ權能ヲ附シテ住宅ノ利用ヲ與フルコトヲ主タル目的トスルモノハ凡テ戰爭狀態及資力不足ノ理由ニ依リ契約ノ目的ヲ實現シ得サルコトヲ證明セラレタル時ハ其ノ名稱、形式及體樣ノ如何ヲ問ハス現實又ハ未必ノ取得者其ノ寡婦又ハ相續人ノ請求ニ依リテ之ヲ解約スルコトヲ得該解約ハ現實又ハ未必ノ取得者カ兵役中戰死セル場合又ハ其ノ者カ動員後ニ受ケタル負傷、感染シタル疾病若ハ動員ノ結果重クナリタル病氣ノ爲ニ死亡シタル場合ニ之ヲ行フコトヲ得

第二條　解約ハ地代及家賃ニ關スル千九百十八年三月九日ノ法律ニ依リテ設立セラレタル仲裁委員會之ヲ宣告ス該委員會ニ對スル申請ハ大統領令ニ依リテ定メラルヘキ戰爭終了日後遲クモ六箇月以內ニ之ヲ提起スヘシ

第三條　解約ハ何等ノ賠償ヲ要セスシテ之ヲ爲スコトヲ得ス然レトモ仲裁委員會ハ當該不動產カ占有セラレタル期間及其ノ通常ノ賃貸價值ヲ參酌シテ權利者カ引續キ當該不動產ノ無償使用ヲ

爲シ得ヘキ期間ヲ決定スヘシ

第一條第二項ニ規定セラレタル場合ニ於テハ此ノ無償占有ノ期間ハ戰爭終了日ヨリ起算シテ六箇月ヲ下ルヲ得ス

第四條　當該ノ契約解除ノ申請ナキトキハ該契約中ニ約定サレタル失權ニ關スル約款ノ效力ハ千九百十四年八月十日大統領令第五條ノ定メタル大統領令ニ依テ決定セラルヘキ時期ニ到ル迄之ヲ停止ス

本法第一條及第五條ニ定メタル現實又ハ未必ノ取得者、其ノ寡婦又ハ相續人ハ大統領令ニ依リテ定メラルル戰爭終了日ヨリ六箇月間千九百十四年八月一日以來滿期トナレル年賦金又ハ其ノ一部ノ支拂ヲ停止スル權能ヲ有ス該停止期間ハ不動產カ敵軍ノ爲ニ損害ヲ蒙リ又ハ敵軍ノ侵略シタル市町村內ニ在ルトキニ限リ更ニ一年ヲ加フ該期間終了スルトキハ猶豫サレ居タル第一回ノ年賦金若ハ其ノ一部ハ之ヲ請求シ得ヘク又契約ハ其ノ未タ經過セサル殘餘ノ期間ニ上記年賦金又ハ其ノ一部ノ支拂カ停止サレ居タル期間ニ等シキ年月ヲ加ヘタル期間再ヒ效力ヲ有スルニ至ルモ猶豫サレタル年賦金ハ何等增額セラルルコトナシ

第五條　定期內金拂込ノ方法ニ依リテ或ハ住宅建設ノ爲或ハ該住居ニ隣接シ又ハ隣接セサル庭園設定ノ爲又ハ面積一「ヘクタール」ヲ越ヘサル田園經營ノ爲之ニ充ツヘキ土地ノ使用收益權ヲ共ノ所有權ヲ取得スヘキ權能ヲ附シテ當事者ノ一方ニ附與スルコトヲ目的トスル契約ハ共ノ名稱、形式及體樣ノ如何ニ拘ラス等シク本法ノ規定ノ適用ヲ受ク

第一條ニ規定セラレタル條件ニテ解約ヲナス場合ニハ土地所有者ハ自己ノ選擇ニ從ヒテ材料ノ價格及勞力ノ價格又ハ共ノ土地ノ增價額ニ等シキ金額ヲ償還スルコトヲ要ス

償還額ハ當事者ノ協議成立セサルトキハ仲裁委員會之ヲ定ム該委員會ハ其ノ外償還金義務者ニ對シ其ノ辨濟ヲ爲スニ付テノ期限ヲ許與スルコトヲ得ヘシ

第六條　本法ハ不動產擔保貸付銀行、低廉住宅ヲ目的トスル諸會社財團竝ニ公署、貯蓄銀行、慈善救濟局、施療院及養育院カ千九百六年四月十二日及千九百八年四月十二日ノ法律ニ依リテ締結セル契約ニハ之ヲ適用セス此等ノモノノ地位ハ特別法ヲ以テ之ヲ定ム

四　戰爭損害賠償ニ關スル千九百十九年四月十七日法ヲ修補スル法律

（千九百十九年十月二十三日）

第一條　戰爭損害賠償ニ關スル千九百十九年四月十七日法第二十一條ハ次ニ揭クル二項ヲ第一項第五號ト第二項トノ間ニ挿入シ之ヲ補正ス

「委員長ノ病氣不在又ハ障碍ノ場合ニ於テ之ヲ代理スヘキ一名又ハ數名ノ副委員長ト同樣ノ形式及條件ニ於テ選任スヘシ然レ共第一項第一號ニヨリ定メラレタル職務執行義務期間ノ十年ハ此場合ニ於テハ五年ニ之ヲ減少ス」

「同一委員會ニ於テ委員長及副委員長カ同時ニ故障アル場合ニ於テハ其ノ事務ヲ一時執行スル爲委員長ノ請求ニ依リ郡區民事裁判長ノ命令ヲ以テ隣接委員會ノ委員長又ハ副委員長一名ヲ選任スルコトヲ得」

第二條　同法第二十一條末號ハ次ノ如ク之ヲ變更ス

「委員會ハ委員長及二名ノ正副委員カ會議ニ出席スルニ非サレハ有效ニ判決スルコトヲ得ス」

第三條　同法第二十一條ハ次ノ規定ヲ以テ之ヲ補正ス

「戰爭損害賠償ニ關スル千九百十九年四月十七日法ノ規定ノ施行ノ爲司法官、議員及官吏ノ間ニ交換セラルル總テノ通信及是等ノ司法官、議員及官吏並ニ郡委員會及戰爭損害裁判所ノ書記ヨリ召喚セラレタル被害者、證人及鑑定人ニ

對シテ發シタル通知及通信ハ總テ密封シテ之ヲ移送スヘシ」

「通信及通知ニ對シテ必要ト認メラレタル郵稅免除及免除率ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム」

第四條　本法第二十七條第三項ノ規定ハ次ノ如ク之ヲ補正ス

「然レ共委員會ハ本項列擧審査手續ヲ單獨ニ實行スルコトヲ委員長ニ委任スルコトヲ得」

五　「モロッコ」ニ於ケル土人團體ノ監督竝ニ團體財産ノ管理及讓渡ニ關スル命令（千九百十九年四月二十七日）

第一條　種族、部落、村落及其ノ他ノ土人團體カ舊來ノ利用及使用方法ニ依リ共同シテ利用又ハ使用スル耕作地又ハ道路敷地ノ所有權ハ國家ノ監督ノ下ニ本令ノ定ムル條件ニ於テノミ之ヲ行使スルコトヲ得

第二條　千九百十六年十一月二十一日（千三百三十五年「モハレム」二十二日）命令（Dahir）施行ノ爲ニ設ケラレタル官設「カビリ」酋會竝ニ團體固有ノ財産及利益ヲ有スル土人團體ヲ代表スル「カビリ」酋會ハ之ヲ法人ト看做ス

「カビリ」酋會ハ國家ノ監督權ニ依ル制限ノ範圍内ニ於テ其ノ代表スル團體ノ財産及利益ヲ管理シ殊ニ團體ニ支拂ハルヘキ金額ヲ領收シ及之ニ對シテ有效ナル受領證ヲ交付スル爲ニ必要ナル一切ノ權利ヲ有ス酋會ハ何時タリトモ其ノ團體ノ監督者ノ許可ヲ得公證形式ニ從ヘル委任狀ヲ交付シテ其ノ選擇スル者ニ其ノ權利ヲ委任スルコトヲ得

第三條　酋會ノ監督ハ之ヲ土人事務取扱吏ニ委任ス取扱吏ハ何時タリトモ監督會議ニ諸問スルコトヲ得ヘク又本令（Dahir）中ニ於テ同會議ノ協議ヲ必要トスル場合ニ於テ之ヲ招集スルコトヲ要ス同會議ハ土人事務取扱吏ノ統理ノ下ニ於テ「マホメット」政府ノ評議官若ハ其ノ委任ニ係ル佛蘭西人官吏一名、控訴院第一院長ノ委任ニ係ル佛蘭西人判事一名及「モロッコ」總理大臣ノ選定スル著名ナル「マホメット」敎徒二名ヨリ構成セラル

第四條　土人團體ノ所屬地ハ用法ニ從テ共有物ノ分割ヲ爲ス場合ヲ除クノ外之ヲ差押フルコトヲ得ス又共有物ノ競賣其ノ他如何ナル分配手續ノ目的トモナルコトヲ得ス

然レ共酋會員ノ大部分カ團體内ノ家族長ニ一定面積ノ土地ヲ對與スルノ合意成立シタル場合ニ於テハ此分割ハ監督會議ニヨリ許可セラルルコトヲ得分割ノ結果定メラレタル部分ハ十年間ヲ經過スルニ非サレハ團體外ノ者ノ爲ニ之ヲ讓渡シ質入シ又ハ差押フルコトヲ得ス之ニ反スル時ハ其ノ讓渡ハ無效トス但シ監督會議ハ第五年ヲ經過セル場合ハ此等ノ讓渡ヲ特ニ許可スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ分割ノ結果交付セラレタル證書ニ其ノ許可アリタル旨ヲ記載スヘシ

團體所屬地ノ所有權ハ時效ニ罹ルコトナシ但シ團體員カ他ノ共有者ノ同意ヲ得テ一定期間自ラ利用シ占有シタル部分ヲ時效ニ依リ取得スル場合ハ此限ニ在ラス

團體ノ權利ノ保存、團體所屬地ノ復舊使用若ハ改良ノ費用ノ爲ニスル場合ヲ除クノ外其ノ土地ニ關スル賃貸借ノ賃金及永久地代年金ハ之ヲ差押フルコトヲ得ス

第五條　酋會ハ不動産ニ關シテハ土人事務取扱吏又ハ其ノ代理者ノ許可ヲ經且其ノ團體員ノ互選ニ依ル代理者ニ依ルニ非サレハ登錄ノ請求ヲ爲シ及團體ノ利益保全ニ必要ナル總テノ訴權ヲ裁判所ニ於テ行使スルコトヲ得ス

酋會ハ第三者カ土地ノ登錄ヲ請求シタルトキハ前項ノ許可ヲ經ルニ非サレハ之ヲ取消スコトヲ得ス

議ハ土人事務取扱吏ノ許可ヲ經ルニ非サレハ之ヲ作製ス名義團體ハ登錄團體所屬地ノ登錄ノ場合ニ於テハ土地證書ハ土地所有者タル團體ノ名義ニ於テ土地保存吏之ヲ作製ス名義團體ハ登錄ノ當時ニ於ケル其ノ代表者ノ名及血統（此名及血統ハ公正證書ニ依リテ證明セラルルコトヲ要ス）ノ由來スル種族ノ

名及同團體ノ創始者ノ名ヲ以テ之ヲ指示スヘシ

土人事務取扱吏ハ何時タリトモ必要アル場合ニ於テハ其ノ監督スル酋會ノ名ニ於テ單獨ニ行動スル資格ヲ有ス

訴訟費用ハ之ヲ前拂トス但シ既ニ費用ヲ支拂ヒタルトキハ關係團體ニ於テ確定的ニ之ヲ負擔ス

酋會又ハ其ノ代表者ト第三者トノ間ノ法律行爲ハ監督會議ノ承認ヲ經ルコトヲ要ス

第六條　酋會ハ特別ノ友誼ニヨリ三年ヲ超エサル賃貸借ヲ締結スルコトヲ得

此等ノ賃貸借ハ公正證書ニヨリテ之ヲ證明スヘシ而シテ監督會議ノ承認無キ限リ同一賃借人ノ爲ニ之ヲ更新スルコトヲ得ス

酋會ハ動物ノ飼養若ハ秣貯藏所ノ建設ノ爲其ノ他使用權ヲ目的トシ本條ノ條件ニ於テ一年ヲ超エサル賃貸借ヲ締結スルコトヲ得

此等ノ賃貸借ハ許可ヲ經ルコトナク共三年間ヲ限度トシテ之ヲ更新スルコトヲ得

酋會ハ土人事務取扱吏ノ許可ヲ經テ第三者ト農業組合契約ヲ締結スルコトヲ得

第七條　酋會ハ監督會議ノ許可ヲ經テ長期ノ賃貸借契約ヲ爲スコトヲ得但シ其期間ハ十年間ヲ超ユルコトヲ得ス且次ノ條件ニ於テスルコトヲ要ス

許可ノ請求ハ酋會ニ於テ之ヲ監督官吏ニ提出スヘシ監督官吏ハ之ヲ監督會議ニ付スヘシ監督會議カ長期ノ賃貸借ヲ許可スル場合ニ於テハ不動產所在地ノ監督官吏ハ先ツ酋會、占有者及隣接者ノ面前ニ於テ無償ニテ土地境界ノ確定ニ著手スヘシ此手續ハ監督官吏ノ調書ニ之ヲ記錄ス同調書ニハ該不動ノ見取略圖ヲ添ヘ且一定ノ請求ヲ記載スルコトヲ要ス

此等ノ文書ヲ審査シタル後必要ナリト認ムルトキハ監督會議ハ許可ヲ取消スコトヲ得然ラサル場合ニ於テハ賃借權ハ直チニ監督會議ニ於テ競賣ニ付ス競賣ハ入札心得書ニ從ヒテ之ヲ行ヒ其ノ最初ノ付値ハ地代年額ヲ基礎トシテ之ヲ定ム監督會議ハ之ニ關シ農務局長ニ諮問スルコトヲ得

團體財產ノ長期賃借權ノ競賣ノ形式及條件ハ「モロッコ」總理大臣ノ決定スル所ニ依ル

團體ノ未登記財產ノ賃借權ニ關シテハ前項ノ外競落人ノ國籍ニ從ヒ「モハメット」法若ハ千九百十三年八月十二日（千三百三十一年「ラマダン」九日）ノ命令附錄第七號ニ依リ（契約及債務法）之ヲ規定ス

第八條　酋會ハ土人事務取扱吏ヲ介シテ監督會議ノ許可ヲ經次ノ條件ニ於テ團體ノ財產ヲ永久ニ讓渡スルコトヲ得

（一）讓渡ノ目的タル不動產ハ團體ノ名義ニ於テ土地所有權ノ保存登記ヲ爲スコト

（二）酋會員ノ大多數ノ同意ヲ公正證書ニヨリ證明スルコト

（三）讓渡ハ之ヲ公ノ競賣ニ付テ行フコト其ノ競賣ノ入札心得書及最初ノ付値ハ前條及「モロッコ」總理大臣ノ決定ニヨリ長期賃貸借ニ於ケルト同樣ノ條件ニ於テ定メラルル

（四）競落ノ價格ハ年賦金及永久年金ヨリ成立スルコト

若シ競落ノ價格カ競賣ノ最初ノ付値ヨリ其ノ五十％ヲ超過セルトキハ年賦金額ハ此五〇％ニ決定セラレ其レ以上ハ契約締結ノ時ニ初メテ全部ヲ要求シ得ルモノトシテ競賣ヲ繼續スルモノトス

年賦金權利者タル團體ノ權利及定期金債權者タル競落人ノ權利ハ競賣ノトキヨリ不動產登記ニ關スル千九百十三年八月十二日（千三百三十一年「ラマダン」九日）ノ命令及登記不動產ニ關スル千九百十五年六月二日（千三百三十三年「ベテイエッブ」十九日）ノ命令第百九十七條以下ノ適用ヲ受ク但入札心得書ノ例外的條項アル場合ハ此限ニ在ラス

第九條　長期賃貸借權ノ入札心得書ニハ不動産ノ登記後入札心得書ノ約款及條件ニ從ヒ賃貸借ノ期間內何時ニテモ賃借人ニ於テ永久年賦金ヲ支拂フコトニ依リ其ノ享有ノ權利ヲ確定的ニ取得スルコトヲ得ル旨ヲ定ムルコトヲ得但シ其ノ取得ノ爲ニハ土人事務取扱吏及其ノ任命ニ係ル監督會議ノ議員一名ノ面前ニ於テ酋會ト賃借人トノ間ニ公正證書ヲ交換スヘシ

入札心得書ノ約款ニ依リ前項ノ利益ヲ要求シ得ル賃借人ハ登記手續中ニ第三者カ管轄裁判所ノ許可ヲ得テ賃貸不動産ノ一部ヲ追奪シタル場合ニ於テ鑑定人ノ言ニ徵シテ登記ヨリ除外セラレタル部分ヲ評價シ年賦金ヲ此割合ニ應シテ減額スルコトヲ得鑑定人ノ選擇ニ關シテ當事者ノ間ニ一致ヲ缺ク場合ニ於テハ賃貸人ノ國籍ニ從ヒテ管轄權アル判事之ヲ指定ス

第十條　團體所屬地ノ所有權ハ國家ノミ之ヲ取得スルコトヲ得

國家ハ公用徵收ノ爲千九百十四年八月三十一日(千三百三十二年「シヤウアル」九日)ノ命令ノ定ムル形式ニ從ツテ團體所屬地ヲ取得スル場合ヲ除クノ外ハ植民地帶ノ設置ノ目的ノ爲ノミニ之ヲ取得スルコトヲ得ルモノトス

此ノ場合ニ於テハ國家ハ農務官ト協議ノ上第十一條ノ規定ニ從ヒ公用徵收ノ場合ニ於ケルト同シク又同樣ノ形式ノ下ニ於テ土地局長ヲシテ土地ヲ取得セシムルコトヲ得

第十一條　收用ニ關スル千九百十四年八月三十一日(千三百三十二年「シヤウアル」九日)ノ命令第二條及第三條ノ定ムル公益宣言ヲ爲スニ當リテハ必ス酋會及監督會議ニ諮問スヘク酋會及監督會議ハ理由ヲ附シタル意見書ヲ提出スルコトヲ要ス

監督會議ノ承認ヲ得ルニ非サレハ收用令第十條ノ定ムル條件ニ於テ酋會又ハ其ノ代理者ト收用ノ機關トハ任意契約スルコトヲ得ス

監督會議ノ適法ニ承認シタル任意ノ契約ナキ場合ニ於テハ收用手續ハ酋會ノ名ニ於テ酋會ノ代理者及土人事務取扱吏一致シテ之ヲ續行ス土人事務取扱吏ハ此場合酋會及監督官ノ名義及資格ニ於テ且監督會議ノ議長トシテ行動スルモノトス

第十二條　監督會議ハ議長ノ召集ニ應シテ每月第一週ニ集會シ前月中ニ文書ニヨリ土人事務取扱吏ニ提出セラレタル計畫又ハ請願ヲ檢査シ且夫レ以上ノ調査ヲ必要トセサルモノニ就キテハ直チニ決裁ス緊急ノ場合ニ於テハ監督會議ハ何時ニテモ上記ト異ル日ニ於テ集會スルコトヲ得

會議ニハ議長ノ指名ニ係ル通事及書記ノ列席アルコトヲ要ス

證書ノ檢査及事件ノ審理ハ之ヲ公開セス決定ハ書記之ヲ作製シ會議ノ總員之ニ署名スヘシ決定ハ理由ヲ附スルコトナクス又何等ノ上訴ヲ受クルコトナシ

監督會議ニ於ケル審理手續ハ無償トス訴訟當事者ノ申立書、記錄、證書、其他ノ文書及會議ノ決定ハ印紙稅及登錄稅ヲ免除セラル

議員及通事ニ對スル送達ノ費用及鑑定人ノ費用ハ後見會議カ此等ノ手續ヲ必要ト認ムル場合ニ於テハ當事者ノ負擔タルヘシ此ノ費用ハ收用機關若ハ請求者團體ニ於テ之ヲ前納ス其ノ金額ハ佛國裁判所ノ判事、通事及鑑定人ノ送達表ニ從ヒ議長之ヲ定ム

監督會議ノ記錄ハ土人事務取扱吏ニ於テ之ヲ寄託保存スヘシ

第十三條　監督會議ハ提出セラレタル計畫又ハ要求ヲ檢査スルニ當リ總テノ種類ノ危險及損害竝ニ其ノ關係團體ノ爲ニ

生スル利益ヲ考慮スルコトヲ要ス

監督會議ハ利害關係團體カ其ノ正常的發展ヲ爲スニ充分ナル土地ヲ所有スルヤ否ヤヲ確ムヘシ

監督會議カ評價ヲ爲ス場合ニ於テハ土人カ其ノ地方ニ於ケル歐洲人ノ植民ニ依リ受クル利益及農工業ノ築造物ノ設置ニ依リテ受クル利益ヲ斟酌スヘシ

監督會議ハ審査ノ爲總テノ方法ヲ必要ニ應シテ用フヘク殊ニ各場合ニ應シテ牧用官廳及總テノ關係官廳ノ代表者、監督機關ノ代表者、酋會及關係團體員中ノ有力者竝ニ競賣ニ參加スルノ意志ヲ表示シ及會議ニ於テ意見ヲ聽取セラレンコトヲ欲スル總テノ者ノ意見ヲ聽取スヘシ

永久又ハ長期ニ亘リテ讓渡スル場合ニ於テハ監督會議ハ必要アレハ農商植民監督官ノ意見ヲ聽キ團體ノ爲ニ借賃ノ支拂又ハ賃貸借ノ價格ニ關シテ適當ナリト認ムル總テノ約款、其ノ使用及再使用ニ關スル約款、開墾、植付、耕作、豫期シ又ハ豫期セサル利益ノ分配及團體ノ負擔スル擔保ニ關スル規定ヲ入札心得書ニ記入スヘシ

監督會議ハ一般團體ヲ代位シ團體ニ對シテ注意深キ後見人及善良ナル家父タルノ義務ヲ負フ

第十四條　監督會議ハ各事件ニ於テ團體ノ爲ニ爲サルル使用又ハ再使用ニ關スル決定ヲ爲シ土地牧用ノ場合ニ於テ讓渡ノ價格及牧用ノ賠償ヲ決定シ竝ニ地位及必要アラハ之ニ代ル價格若ハ長期賃貸借ノ價格ヲ決定スヘシ

酋會カ文書ヲ以テ要求スル場合ヲ除クノ外監督會議ハ國家ノ公益事業（例ヘハ道路敷設、井戸又ハ水飼場ノ設置、水源ノ涵養及衞生狀態ノ改善）ニ對シテ土地牧用ヨリ生セル價格、永久ニ亘ル讓渡又ハ賃貸借ヲ充用スルコトナシ

永年地代又ハ長期賃貸借ノ賃金ハ之ヲ分配スルコト可能ニシテ且有益ナル場合ニ於テハ團體ノ家族長ノ間ニ之ヲ分配シ又ハ專ラ團體ヲ利スル方法ニ於テ（例ハ宿舍經營、貧民給與、裁判費用及土地改良）使用セラルヘシ任意ノ讓渡、牧用ノ賠償ヨリ生シタル資金又ハ第八條第四號ニ規定セラレタル基金換算ヨリ生シタル資金ニ關シテハ此ノ後ノ使用方法ノミヲ受ケ又ハ上述ノ方法ニ依リ單ニ收益ノミヲ使用シ若ハ分配スヘキ用途ニ充ツルコトヲ得

此等ノ方法ノ管理ニ關シテハ「モロツコ」總理大臣ノ決定ニ依ル

第十五條　團體所屬財產ノ保存及監督ニ關スル千九百十五年一月二十三日（千三百三十三年「レビア」七日）及千九百十八年五月二十七日（千三百三十六年「シヤアヴアヌ」十六日）ノ總理大臣ノ決定ハ之ヲ廢止ス

本令公布前ノ總テノ法令殊ニ千九百十四年七月（千三百三十二年「シヤアヴアヌ」十三日）及千九百十六年十一月二十一日（千三百三十五年「モハレム」二十五日）ノ命令ニシテ本令ニ牴觸スル規定ハ之ヲ廢止ス

第十六條　本令ノ規定ハ之ヲ Gerch 地ニハ適用セス

本令ノ規定ハ森林地ニシテ其ノ土人團體名義ノ所有ニ係ル土地ニモ亦之ヲ適用セス此ノ如キ土地ハ之ヲ讓渡スルコトヲ得ス團體ノ權利ノ行使ハ別ニ總理大臣ニ於テ之ヲ定ム

第五編　丁抹ニ於ケル小自作農地創設ニ關スル法律

法律ノ沿革及其ノ概要

一、丁抹政府ハ十七八世紀頃既ニ他國ニ卒先シテ自作農ノ增加ヲ計リタルモ交通機關ノ發達ニ伴ヒテ他國ヨリ安價ノ農産物殊ニ穀類ノ輸入ヲ見ルニ至リシ後ハ穀價ノ低落ヲ來シタル爲國內ノ穀作ハ變シテ畜產品ノ生產ニ主力ヲ注クノ餘義ナキニ至レリ而シテ此ノ轉換期ニ於テハ農業ノ利益ハ僅少ニシテ都會ニ於ケル商工業ハ一般ニ良好ナル發達ヲ遂ケタル爲農村ノ勞働者ヲ驅ツテ都市又ハ海外ニ移住セシメ其ノ結果都會ハ多數ノ失業者ヲ生セシメタルニ反シ農村ハ却ツテ勞力不足ヲ見ルニ至レリ

政府ハ此ノ狀態ニ鑑ミ之カ對策ニ關シ卓越ナル意見ヲ求メ改革遂行ノ方策ノ提案ヲ得ントシテ丁抹勞働狀態調査會ヲ設置セルニ此ノ委員會ハ千八百七十八年ニ於テ既ニ小自作農地ノ效果ヲ一層有效ナラシムルコト及小自作農地ノ所有者ニ低利資金ヲ供給スルコトノ二方策ヲ答申シ政府ハ之ニヨリテ小自作農地所有者ノ組織スル信用組合ノ設立許可ニ關スル法律ヲ通過セシムルニ至レリ

二、其ノ後小自作農地設定ノ爲ノ土地取得ニ付尙一層直接ノ方法ヲ必要トスルニ至レルヲ以テ千八百九十四年四月十三日政府ハ農業委員會ヲ設置シ小作人及農業勞働者ニ土地ヲ取得セシムル方法ヲ講究セシメ其ノ提案ニ依リテ千八百九十九年三月二十四日ニ最初ノ小自作農地法ヲ通過シ同年十月一日ヨリ之カ施行ヲ見タリ後千九百四年、千九百九年及千九百十七年ニ於テ之カ改正增補ヲ見タルモ是等ノ法律ハ私有地ノ自由賣買ニ依ル自作農地取得ヲ容易ナラシムル制度ニシテ私有耕作地ノ大部分カ自作農地トナリタル丁抹ニ於テハ更ニ公有地分讓ニ依ル自作農創設ヲ必要トスルニ至リ之カ爲政府ハ千九百十九年十月四日

(一)農業日雇人ノ爲ニスル小敎區地賣却ニ關スル法律

(二)公有地ノ賣却ニ關スル法律

(三)封土世襲領及信託世襲地ヲ自由地ニ移ス法律

ノ三法律ヲ制定セリ

茲ニ於テ丁抹ノ小自作農地ハ千八百九十九年ノ法律及其ノ改正法ニヨリテ設置セラレタルモノトノ二種ヲ生シ而シテ便宜上前者ノ法律中(二)ノ公有地ノ賣却ニ關スル法律ヲ新小農地法ト呼フニ至レリ

三、今新舊二法ヲ比較シ併セテ其ノ大要ヲ見ルニ舊法ハ其ノ內容カ政府ノ貸付タル資金ニ關スル規定ニ特別ノ注意ヲ拂ヒタルニ反シ新法ハ小自作農地所有希望者ノ申立ニ應シテ成ルヘク多クノ土地ヲ提供セントスルコトニ留意シ從ツテ(一)舊法ノ改正法ニ於テ小自作農地ノ最少限度ヲ一「ヘクター」ト爲セルニ反シ新法ハ小自作農地ヨリノ收益ノミヲ以テ其ノ家族ヲ支持スルニ足ルヘキ面積ヲ最少限度トスヘキ原則ヲ定メ建築敷地又ハ菜園場ノ外ハ如何ナル場合トモ雖一「ヘクター」ヲ下ルヲ得サルコトトシタリ

(二)舊法ニ於テ土地ハ當事者間ノ自由契約ニ依リ購買セラルヘキモノトセルニ反シ新法ハ特別土地委員會ニ於テ公

有地ノ賣却ヲ爲スモノニシテ其ノ公有地中ニハ(イ)世襲ヨリ免除セラレタル土地中政府カ牧用シタルモノ(ロ)教區地(ハ)他ニ適當ナル土地ノ存セサル地方ニ於テハ農務大臣カ特ニ小自作農地設定ノ爲ニ購入セル土地ヲ含ムモノトセリ

(三) 舊法ハ土地購入價格ノ決定標準ヲ特ニ示ササリシカ新法ハ之レヲ財産委員ノ評價ニ基クモノトシ而シテ其ノ土地カ中位ノ面積ノ農場ナル場合ニ經驗アル農業者カ購買シ之カ經營ヲ維持シ得ヘキ程度ノ價格ニヨツテ決定スルモノトセリ

(四) 舊法ニ在リテハ政府ノ貸付金ハ土地ノ購入ニ對シテ爲スノ外建築費及必要ナル家畜及植物ノ購入等ニ對シテモ供給セラレタルモ新法ハ貸付資金ハ土地購入ノ外工作物ニ對シテノミ供給セラルルモノトス

丁抹ノ自作農創設事業ハ以上新舊二法律及其ノ改正法ニヨリテ相當ニ其ノ成績ヲ擧ケ同國ノ農業ノ發展ニ貢獻セル處少ナカラスト雖其ノ反面ニ同國ノ產業組合及土地所有者組合等カ此ノ事業ノ達成ニ與ツテ力アリシコトハ忘ルヘカラサル事實トス

今小自作農地創設ニ關スル法律ヲ列擧スレハ左ノ如シ

第一、舊小自作農地法

(一)小自作農地創設ニ關スル千九百九年ノ法律

(二)小自作農地創設ヲ目的トスル千九百十七年法ノ增補ニ關スル法律

(三)千九百十七年六月二十二日ノ法律

第二、新小自作農地法及關係法律(何レモ千九百十九年十月四日ニ制定サル)

(一)農業日雇人ノ爲ニ爲ス小敎區地賣却ニ關スル法律

(二)公有地ノ賣却條件ニ關スル法律

(三)封土世襲領及信託世襲地ヲ自由地ニ移ス法律

第一 舊小自作農地法

(一) 丁抹ニ於ケル小自作農地創設ニ關スル千九百九年四月三十日ノ法律

丁抹ニ於テハ千八百九十九年ニ農業勞働者ニ對スル小保有地供給ニ用フル法律ヲ制定シ其ノ後千九百四年及千九百九年ニ之ヲ改正セリ本法ハ卽チ千九百九年ノ制定ニ係ルモノトス

第一章

第一條 本法ニ於テ取扱フ保有地ノ設定及管理ニ參與セシムル爲ニ各府縣ニ委員會ヲ設置スヘキモノトス本法ニ於テハ市ニ屬スル耕地ト雖府縣內ニ存在スルモノハ府縣ノ土地ト看做ス委員會ハ三人ノ委員ヲ以テ組織シ其ノ內一人ハ農務大臣(以下單ニ大臣ト稱ス)之ヲ任命シ他ノ二人又ハ其ノ各代理人ハ何レモ當該地方團體又ハ町村會ノ代表者ニ依リテ選擧セラルヘキモノトス之カ爲各地方團體又ハ町村會ハ二人宛ノ代表者ヲ選出スルヲ要ス代表者ノ選擧及委員ノ最後ノ選擧ハ府縣參事會ニ對シテ規定セラレタル比例代表ノ法則ニ依リテ之ヲ行フヘキモノトス委員ノ選擧及其ノ職務ニ關スル細則ハ農務大臣之ヲ定ム委員及其ノ代理人ノ任期ハ六箇年トス但シ再選ヲ妨ケス委員ニ對シテハ五「キロメートル」毎ニ一「クローネ」ノ割合ヲ以テ旅費ヲ支給ス鐵道ヲ使用シ得ル地方ニ於テハ三等乘車賃金ヲ支拂フモノトス委員ハ會議又ハ旅行ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ會議又ハ旅行カ十二時間以內ナルトキハ六「クローネ」其ノ他ノ場合ニ

於テハ十「クローネ」ノ日當ヲ給與セラルルモノトス委員會ノ委員長ハ右ノ外各會計年度ニ於テ其ノ職務ノ遂行ニ要シタル費用ニ對スル賠償トシテ當該會計年度內ニ取扱ヒタル各事件毎ニ十「クローネ」ニ相當スル金額ヲ支給セラルルモノトス

委員會ニ關スル費用ハ國庫ニ於テ之ヲ支辨ス

周圍ノ狀況ニ依リ必要アリト認メタルトキハ農務大臣ハ府縣ヲ二箇ノ區ニ分チ各區毎ニ其ノ區自身ノ委員會ヲ設クルコトヲ得委員會ノ請求アルトキハ農務大臣ハ委員會カ必要ニ應シテ諮詢スヘキ建築技師ヲ指命スルコトヲ得

第二條　男子又ハ未婚ノ女子ニシテ一定期間ノ雇傭タルト日雇勞働タルトヲ問ハス他人ノ爲ニ爲ス園藝仕事ヲ包含スル普通ノ農業勞働ニ依リテ自己ノ生計費ヲ得ツツアル者又ハ本法規定ノ制限內ノ面積ノ農地ノ小作人ナルカ若ハ嘗テ小作シタル者ハ本法ノ利益ヲ受クル權利ヲ有ス田舍職工、煉瓦職工及國債資金ヨリ漁業貸付ヲ受ケサリシ漁夫竝ニ普通農業勞働ニ依リテ自己ノ生計費ノ一部分ヲ得ツツアル者モ又本法ニ依リテ考慮ヲ加ヘラルルノ權利ヲ有ス

第三條　本法ニ依リテ規定セラレタル條件ニ基ク農地ヲ得ンカ爲ニハ申請者ハ左ノ條件ヲ具備スル者タルコトヲ要ス

（イ）本國人又ハ歸化シタル權利ヲ有スル者タルコト

（ロ）滿二十五歲以上ニシテ原則トシテ五十歲ヲ超エサル者タルコト

（ハ）公ノ不名譽行爲ノ爲ニ罰セラレテ未タ其ノ復權ヲ許サレサル者ニシテ未タ之カ返濟ヲ爲ササルカ又ハ千八百九十一年四月九日ノ貧民救助法第三十五條ニ該當セサルコト

（ニ）寺區ノ救濟ヲ受ケタル者ニシテ未タ之カ返濟ヲ爲ササルカ又ハ千八百九十一年四月九日ノ貧民救助法第三十五條第二項ニ依リテ之カ返濟ヲ特ニ免除セラレサル者ニ非サルコト

（ホ）滿十八歲以後少クトモ四箇年間農業勞働ニ依リテ自己ノ生計費ヲ得ツツアル者タルコト（但シ本項ニ付テハ第二條參照）

（ヘ）該申請者カ勤勉節儉ナルコト及小農園ノ經營ニ適當ト認メラルルコトヲ證明スル爲彼ヲ熟知シ且信用アル二名ノ人物ヨリ證明書ヲ提出スルコト

（ト）本法ニヨリ該農場ノ經營ニ堪ユルタケノ財產ヲ所有シ居ルコトヲ證明サレタルモノナルコト（第七條及第九條參照）

（チ）自己ノ所有スル財源ニ依リテハ本法ニ規定セルカ如キ農地ノ所有者タリ得サル者タルコト

申請者ハ當然有スヘキ嫡出タルコトノ身分證名書及ソレニ關スル證據竝ニ提供シタル報告ノ眞實ナルコトヲ證明スヘキ本人ノ署名アル宣言書ヲ提出シテ以上諸條件ヲ具備スル者タルコトヲ第一條ニ規定シタル府縣委員會ニ對シ證名スルヲ要ス私人ノ附與シタル證明書及證據ニハ署名者ノ確實ナルヲ證明スル農事又ハ町村會ノ證明書ヲ添付スルヲ要ス

且申請者ハ戶主保留地ヲ取得スルニ適當ナル者ナリト認メラレタル町村會ノ證明書ヲ提出スルヲ要ス

（ハ）ニ規定シタル金額ヲ自己ノ賃金ヨリ貯蓄シタルコトヲ證明シタル申請者ハ他ノ點ニ於テ他人ト同樣ノ權利ヲ有スル場合ニ於テハ特ニ考慮セラルヘキモノトス

第四條　本法ノ目的ノ爲ニ獲得セラルヘキ土地ハ農務大臣ノ同意アル場合ヲ除クノ外二「ヘクタール」（卽チ $\frac{1813}{1000}$「トオンデユランド」）ヲ下ルコトヲ得ス

第五條　小土地ニシテ未タ登記セラレス且稅額ヲ定メラレサル場合ニ於テハ夫々之ヲ登記シ其ノ增額ヲ定メ且戶主保有地トシテ登記セラルヘキモノトス

當事者ノ同意アルトキハ稅額ノ決定ハ農務省ノ關與ニ依リテ小土地ノ大サニ掲ラス稅額ノ登記簿又ハ稅額評價ノ規則

ニ據ル其ノ後ノ評價ニ從テ之ヲ行フコトヲ得
所有權登錄ノ目錄及及名稱中ノ財產ノ「Folio」ニ關シテハ其ノ財產ハ本法ニ定メタル條件ニ從フヘキコトヲ注意スル
ヲ要ス

第二章

第六條　第三條ノ條件ヲ具備スル申請者ニシテ本法ノ規定ニ依リテ小農地タルヘキ土地ヲ取得セントスルモ土地所有者
トノ協定上購賣シ得ル土地ヲ自ラ選出スルコト能ハサル場合ニ於テハ申請者ハ町村會ニ其ノ旨ヲ通スヘク此場合ニ於
テ町村會ハ正當ナル條件ヲ以テ私人ニ對シ土地ノ提供ヲ勸誘スルニ努ムヘシ但シ町村會カ努力ヲ爲スモ成功セス且其
ノ町村內ニ以上ノ目的ニ適スル公有地存在スルトキハ町村會ハ正當ナル價額ヲ以テ其ノ土地ヲ購買センカ爲ニ關係官
廳ト交涉ヲ開始スルモノトス町村會ハ右ノ交涉ノ結果ヲ申請者ニ報告スルモノトス且讓渡ニ關シ契約成立シタルトキ
ハ申請者ハ更ニ次ノ規定ニ從ヒテ購買ヲ完了スルニ必要ナル各種ノ手續ヲ執ルヲ要ス
官廳、公共ノ機關又ハ教會ノ所有スル土地カ本法ニ依リ小農地トシテ賣却セラルル場合ニ於テハ其ノ土地ハ購買價額
ノ一部ヲ年賦支拂トシテ償還スルノ方法ニ依リテ之ヲ獲得スルコトヲ得其ノ年賦ノ支拂ハ關係官廳ノ同意ヲ得テ一
「ドーンドランド」毎ニ十「クローネ」トシ國家ヨリノ借金入ノ利子ニ對シテハ優先ノ支拂ヲ以テ保障セラルヘキモノト
ス
町村會ハ其ノ關與ニ依リテ取得シタル小農地カ道路ニ接近セルヤ否ヤヲ調査スルヲ要ス
町村會ヨリ以上ノ事項ニ關スル官廳ニ對スル申請ハ府縣廳ヲ經由スルヲ要ス
第七條　申請者自身ニ於テ又ハ町村會ノ仲介（第六條參照）ニ依リ本法ノ條件ニ基キテ獲得セントスル小土地ヲ選擇シタ

ルトキハ申請者ハ町村會ヲ經由シテ第一條ノ府縣委員會ノ委員長ニ申請書ヲ提出スルヲ要ス申請書ニハ農務大臣ノ訓
令ニ基キテ調製セラレ且町村會ヨリ受領シ得ヘキ用紙ヲ以テ作成シ其ノ採否ヲ決定スルニ必要ナル事項ヲ記載スヘク
且嫡出タルコトノ證明書其ノ他申請者カ提出スルコトヲ必要トスル（第二條及第三條參照）證明書ヲ添付スルヲ要ス
其ノ外申請書中ニハ其ノ小土地ノ概略、面積、位置及購買價額等ヲ記載スルコトヲ要シ且申請者ニシテ未タ家屋ヲ所有
セサル者ナルトキハ必要ナル家屋建築ノ設計、其ノ建築費ノ見積書竝ニ有生資本及無生資本ノ見積書等ヲ添付スルヲ
要ス小農地ノ總價格（卽チ國庫ニ對スル負債價額）ハ土地ノ地方價格カ格別ニ高キ場合ニ於テノミ六千五百「クロー
ネ」ヲ超ユルコトヲ得但シ如何ナル場合ニ於テモ八千「クローネ」ヲ超ユルコトヲ得ス申請書ニ選定セラレタル小土地
ハ果シテ其ノ目的ニ適スルヤ否ヤ及同樣ノ目的ノ爲ニ要求セラレタル價格カ正當ト認メ得ルヤ否ヤニ付町村會ノ證明
書ヲ添付スルヲ要ス
受領シタル報告書ハ最初委員長之ヲ審査スヘキモノトス委員長ハ必要ト認ムル他ノ報告書ヲ追加提出セシムルモノト
ス
第八條　委員會ハ第二條、第三條及第四條ニ記載セラレタル條件ヲ具備スルヤ否ヤ確ムル爲ニ送附セラレタル申請書ヲ精査スヘキモノトス
ニ於テ便利ナル地位ニ在リヤ否ヤ及其ノ保有地ニ井戶ナキカ井戶ナキトキハ他地方ヨリ來ル水ニ付テ法律上保證セラ
レタル權利ヲ有スルヤ否ヤヲ確ムヘキモノトス
委員會ハ小土地ヲ測量シテ戶主保有地トシテ適當ナリヤ否ヤ及之ニ要スル經費ハ正當ト認メ得ヘキヤ否ヤヲ調査スル
モノトス申請者カ家屋ノ所有者ニシテ之ニ小土地ヲ附屬セシメント欲スル場合ニハ委員會ハ更ニ右ノ家屋ハ適當ナル

秩序ニ存スルヤ否ヤヲ確ムル爲ニ之ヲ檢査シ且右ノ家屋ノ見積價額ヲ定ムルモノトス

委員會ハ國庫ヨリ貸付ヲ受クヘキ申請カ許可スヘカラサルモノト認メタルトキハ其ノ旨及其ノ不許可ノ事由ヲ申請者ニ通知スヘシ財產ノ負債額ノ過大ナルコト又ハ申請者カ第三條ノ條件ヲ具備セサルコトヲ事由トシテ委員會カ申請ヲ却下シタルトキハ該申請者ハ右ノ事件ニ付農務大臣ノ裁決ヲ求ムルコトヲ得此ノ場合ニ於テ農務大臣ハ之ヲ裁決スルヲ要ス此ノ申請ノ却下サレタル申請者ハ該事件ヲ裁判所ニ上訴スルコトヲ得ス

以上ノ目的ノ爲ニ一會計年度內ニ使用シ得ル金額カ府縣內ニ於テ資格ヲ具備シタル一切ノ申請者ヲ滿足セシムルニ充分ナラサルトキハ委員會ハ其ノ申請者中ヨリ選擇ヲ爲スモノトス之カ爲ニ申請ヲ却下セラレタル申請者ハ次年度ニ於テ再度申請書ヲ提出スルコトニ對シ特ニ考慮ヲ加ヘラルヘキモノトス裁決カ決定シタルトキハ直ニ之ヲ申請者ニ通知スヘキモノトス

第九條　申請者ニシテ本法ノ規定ニ依ル土地取得ノ目的ニ對シ國庫ノ貸付金ヲ下附セラルル資格ヲ有シ且委員會ニ於テ申請者ノ提出シタル家屋ノ設計圖及見積書ニ對シ異議ヲ有セサル旨ヲ州委員會ヨリ報告セラレ且其ノ小土地ニ家屋カ適當ニ建築セラレ其ノ保有地カ必要ナル有生及無生資本ヲ具備セルモノナルコトヲ州委員會ノ宣言ニ依リ農務大臣ニ證明セラレタルトキハ申請者ハ州委員會ヲ經テ其ノ保有地賣買價額ノ十分ノ九ニ相當スル貸付金ヲ國庫ヨリ現金ニテ支拂ハルルコトヲ要求スルコトヲ得

國庫ノ貸付金ハ土地ノ購買代金及建築費ニ相當スル金額又ハ申請者ノ所有ニ屬スル建築物ノ第七條ニ依リテ定メラレタル價額ヲ超ユルコトヲ得ス之カ爲ニ貸付金ハ右ノ金額ニ達スル迄控除セラルヘキモノトス

以上ノ保有地ニシテ其ノ負擔中ニ國稅及地方稅ヲ計算セラレサリシモノニ抵當權ヲ設定シタルトキハ其ノ公課ノ資本

價額ヲ國庫貸付金ヨリ控除スヘキモノトス右ノ資本價額ハ其ノ年ノ稅額ヲ二十五倍シタルモノトス稅稅カ穀納ナル場合ニ於テハ最近八年間ノ公定相場中最高及最低ノ年ヲ除キタル平均價格ニ依リテ之ヲ金額ニ換算スルモノトス其ノ財產カ他ノ財產ト共ニ公課ヲ負擔シ且其ノ納稅ヲ爲ス資格ヲ有スル者カ其ノ稅ヲ分割セサル場合ニ於テハ當該財產ニ相當スル稅額ノ一部（地租ノ標準ニ從ヒテ）ハ其ノ資本ノ價額ヲ納稅資格ヲ有スル者ニ支拂フコトニ依リテ之ヲ免ルルモノトス此ノ場合ニ於テハ國庫貸付金ハ右ノ資本ノ價額ニ相當スル金額ト共ニ徵收セラルヘキモノトス

委員ニ依リテ許可セラレタル國庫貸付金ノ支拂ヲ受クル權利ハ貸付ヲ受クル者カ許可ヲ得タル會計年度ノ權限滿了前ニ必要ナル借用證ヲ作成スルニ非サレハ效力ヲ失フモノトス但シ正當ナル事由アリタルトキハ農務大臣ハ本規定ヲ適用セサルコトヲ得

國庫貸付金又ハ其ノ一部ニ對シ借受者ニ依リテ提出セラルヘキ交付證ハ印紙ヲ貼付セサル書面ニ之ヲ認ムルコトヲ得

第十條　建物、有生資本、無生資本及其ノ他ヲ包含スル保有地ヲ擔保トシテ交付ヲ受ケタル國庫貸付金ニ對シテハ年三分ノ利子ヲ支拂フヘキモノトシ其ノ支拂ハ最初ノ元本ノ支拂ニ次クヘキモノトス最初ノ五箇年間ハ貸付金ノ賦拂ヲ爲スヲ要セス其ノ後ハ利子ノ支拂及既ニ保證セラレタル貸付金ノ五分ノ二ニ對スル年四分ノ割合ノ賦拂ヲ以テ支拂フヘキモノトス貸付金ノ右ノ賦拂ヲ了シタルトキハ負債ノ殘額ハ年四分ノ率ヲ以テ支拂フヘキモノトス

以上ノ土地ニシテ其ノ許可セラレタル目的ニ從テ維持セラルル場合ニ於テハ其ノ貸付金ノ回收ヲ爲スコトヲ得ス

第十一條　第九條及第十三條ニ規定シタル貸付金ニ充ツルカ爲ニ每年四百萬「クローネ」ヲ超エサル金額ヲ五年間支出シ得ルモノトス其ノ金額ハ各府縣ニ於テ受理シタル申請書ノ數ニ比例シテ各會計年度ニ於テ各府縣ニ分配セラルヘキモノトス

一會計年度內ニ使用シ得ル金額カ使用シ盡サレサリシトキハ其ノ殘額ハ之ヲ次年度ニ繰越シ使用スルコトヲ得千九百十年、十一年乃至千九百十五年及同十六年ノ會計年度ニ於テ千九百四年四月十二日ノ法律ニ依リ農業勞働者ニ對シテ保有地ヲ供給スルノ目的ヲ以テ許可セラレタル千五百萬「クローネ」ノ內ノ支拂殘額ニ相當スル金額ハ右ノ目的ニ對シ支出スルコトヲ得

最初ニ拂戻ヲ爲スヘキ貸付金ハ國債基金ヨリ之ヲ支出シ但シ大藏大臣ハ國庫貸付金ノ第一抵當權ノ證書ヲ丁抹王國抵當銀行ニ對シ同銀行ト協定シタル利率ヲ以テ讓渡スルノ權利ヲ有ス右ノ讓渡後ニ於テモ債務者ハ證券ノ利子及年賦償還金ヲ從來支拂ヒタル國ノ稅務署ニ支拂フモノトス

第十二條　特ニ登記シタル土地ニ附屬シタル借家ハ其ノ借家人カ以上ニ規定シタル法律ノ條件ヲ具備スルモノナルトキハ本法通過後ニ於テハ戶主保有地トシテ取得スルコトヲ得第十一條ニ規定シタル金額ノ追加トシテ右ノ目的ニ對シ每年七十五萬「クローネ」ヲ支出スルコトヲ得

第十三條　千八百九十九年三月二十四日ノ法律又ハ千九百四年四月二十二日ノ法律ニ依リテ設定シタル戶主保有地ノ所有者ハ千九百十四年四月一日前ニ申請書ヲ提出スルトキハ保有地擴張ノ爲ニスル土地ノ取得ニ要スル經費ノ貸付及右ノ目的ニ必要ナル建築費ノ支辨ノ爲ニ要スル追加貸付金ノ貸付ヲ受クルコトヲ得追加貸付金ハ增加セラレタル戶主保有地ノ貸付金額ノ十分ノ九ニ於テ計算セラルヘキモノトス但追加貸付金ハ其ノ保有地カ千八百九十九年三月二十二日ノ法律ニ依リテ設定セラレタルモノナルトキハ二千百「クローネ」ヲ超ユルコトヲ得ス又千九百四年四月二十二日ノ法律ニ依リテ設定セラレタルモノナルトキハ千四百「クローネ」ヲ超ユルコトヲ得ス該地區ニ於ケル土地カ格別ニ高價ナルカ爲ニ本來ノ貸付金カ三千六百「クローネ」又ハ四千五百「クローネ」ヲ超ユル場合ニ於テハ本來ノ貸付金ト附加貸付金トノ總額ハ八千「クローネ」ノ十分ノ九ヲ超ユルコトヲ得ス

千八百九十九年三月二十四日ノ法律及千九百四年四月二十二日ノ法律又ハ本法ニ依リテ設定セラレタル保有地ノ所有者ハ基本價格ヲ評價シタル後ニ於テ荒廢地ノ開墾又ハ排水工事ヲ爲ス等明ニ土地ノ價格ヲ增加スル改良ヲ加ヘタルトキハ更ニ追加貸付金ヲ許可セラレ得ルモノトス右ノ場合ニ於テ追加貸付金額ノ一部分ハ右ノ改良ニ依リテ生シタル價額カ一部分ハ農地ニ屬スル建物ノ增築及擴張計畫ニ依リテ生シ又ハ生セントスル場合ヲモ考慮シテ之ヲ定ムヘキモノトス但シ如何ナル場合ニ於テモ本來ノ貸付金額ト追加貸付金額トノ總額ハ六千五百「クローネ」ヲ超ユルコトヲ得ス

國債基金ヨリ融通セラルヘキ追加貸付金ハ主タル貸付金ノ內國債基金ニ依ル部分ト同樣ニ主タル貸付金カ許可セラレタル日以後滿五十一年六月以內ニ償還スヘキ條件ヲ以テ支出スヘキモノトス

一回ニ限リ給付スルコトヲ得ル右ノ追加貸付金ニ對スル申請書ハ府縣委員會ニ送附シ第七條乃至第十條ニ揭クル規定ニ從ヒテ取扱ハルヘキモノトス第十一條ニ規定セラレタル金額ノ四分ノ一ヲ各會計年度內ニ本規定ノ追加貸付金ニ使用スルコトヲ得

千八百九十九年三月二十四日ノ法律及千九百四年四月二十二日ノ法律ニ依リテ設定セラレタル戶主保有地ノ所有者カ千九百十四年一月四日前ニ當該委員會ヲ經由シテ購買シ得ル土地ナキ爲ニ自己ノ保有地ヲ擴張スルコト能ハサル旨ヲ農務大臣ニ證明シタル場合ニ於テ其ノ所有者カ本法第二條及第三條ニ之カ爲ニ追加貸付金ヲ受クルコト能ハサル旨ヲ農務大臣ニ證明シタル場合ニ於テ其ノ所有者カ本法第二條及第三條ニ規定シタル條件ヲ具備スル購入者ニ對シ其ノ保有地ヲ賣却シタルトキハ千八百九十九年三月二十四日ノ法律第十四條及千九百四年四月二十二日ノ法律ノ規定ニ拘ラス本法ノ國庫貸付金ヲ受クルコトヲ得

第十四條　貸付ヲ受ケタル者ノ償還ハ半年每ニ之ヲ爲スヘキモノトシ貸付ヲ受ケタル者カ四季ノ支拂勘定日ニ於テ以上

ヨリ多額ノ賦拂償還ヲ爲サント欲スルトキハ金額五十「クローネ」以下ナラサル限リ許可セラルヘキモノトス第六條ニ規定シタル各種ノ支拂ハ半年毎ニ同時ニ同一場所ニ於テ國庫ニ支拂フヘキモノトス以上ノ支拂及國庫ノ請求ハ强制執行ヲ以テ徵收セラルヘキモノトス

第十五條　本法ニ依ル土地ノ賣却ノ競賣證書又ハ讓渡證書ニハ一「クローネ」ノ收入印紙ヲ貼附スヘキモノトス但シ國庫ニ對スル抵當證書及國債基金證書ニ印紙ヲ貼附スルヲ要セス國庫ヨリ丁抹王立銀行ニ對スル讓渡證書ニ關スル場合ニ於テモ同樣ナリトス（第十一條參照）登記ニハ如何ナル手數料ヲモ支拂フコトナク且他ノ如何ナル公課ヲモ借受者ニ要求シ得サルモノトス

第三章

第十六條　以上ノ條件ニ依リテ讓渡セラレタル保有地ヲ所有スル者ハ其ノ保有地ニ對シ將來規定セラルヘキ制限及本法ニ規定セラレタル特權ニ從ヒテ完全ナル所有權ヲ有ス何人ト雖本法ニ依リ二箇以上ノ保有地ニ付テ國庫ヨリ貸付ヲ受クルコトヲ得ス本法ニ依リテ取得シタル保有地ヲ他人ニ（第二十一條參照）讓渡シタル者ハ再ヒ本法ノ利益ヲ享受スルコトヲ得ス

第十七條　抵當證書ニ於テ所有者カ其ノ土地ノ一部分ヲ貸シ又ハ貸付スヘキ家屋ヲ其ノ土地ニ建築シテ其ノ保有地ヲ去ル旨記載シアル場合ニ於テハ其ノ保有地ニ殘リタル全負債ハ何等豫告スルコトナク卽時拂ノ義務ニ歸スルコトヲ規定スヘキモノトス

第十八條　保有地ハ普通農業ノ目的ニ使用シ必要ナル有生及無生資本ヲ常時保持シ且建築物ハ適當ニ之ヲ維持スルヲ要ス所有者ハ府縣委員會ニ對シ右ノ義務カ履行セラレタルヤ否ヤヲ確ムルカ爲ニ保有地ニ立入ルコトヲ許容スルノ義務ヲ有ス此ノ目的ノ爲ニ右ノ保有地ハ委員會ノ一人又ハ數人ノ委員ニ依リテ檢査セラレ且其ノ檢査ハ少クトモ各三年毎ニ行ハルヘキモノトス保有地又ハ其ノ保管ノ方法ニ於テ重大ナル缺陷アルコトヲ發見セラレタルトキハ其ノ所有者ハ委員會ノ指定シタル特定ノ期間內ニ右ノ缺陷ヲ改善スルヲ要ス若シ所有者カ右ノ命令ニ從ハサルトキハ委員會ハ其ノ旨ヲ農務大臣ニ出訴スルヲ要ス農務大臣ハ抵當權證書ニ記載セラレタル規定ニ從ヒテ借受者ニ對シテ執ルヘキ處分ヲ裁決スルモノトス

第十九條　所有者ハ保有地ニ屬スル建物ノミナラス有生及無生資本並ニ其ノ他ノ附屬ニ對シ全額ノ火災保險ヲ附スヘキ義務ヲ有ス不動產ニ對スル保險ハ國家ノ承認シタル保險會社ト契約スルヲ要ス以上ノ財產檢査ニ於テ委員會ハ右ノ義務カ履行サレタルヤ否ヤヲ確ムルモノトス

第二十條　保有地ノ分割、他ノ土地トノ合併又ハ他ノ土地トノ交換ハ農務大臣ノ特別ノ許可アルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス且右ノ許可ハ其ノ申請カ村會ニ依リテ承認セラレタル場合ニ認可セラルヘキモノトス

右ノ分割ノ許可ハ公共又ハ經濟上ノ必要及公共團體ノ建築物ノ必要其ノ他之ニ類似スル事由ニ依リ家長保有地ノ全部又ハ一部ヲ他ノ用途ニ供スルヲ適當ト爲ス場合ニ限リ認可セラルヘキモノトス

保有地ノ他ノ土地トノ合併ニ關スル許可ハ單情カ自己ノ事業ヲ擴張セントスル所有者ノ希望ト一致スルコトヲ立證シタル場合ニ認可セラルヘキモノトス此ノ場合ニ於テ其ノ全財產ハ一戶主保有地ト看做シ且戶主保有地トシテ記入セラルヘキモノトス

戶主保有地ノ全部又ハ一部ノ他ノ土地トノ交換ニ對スル許可ハ其ノ交換カ更ニ隆盛ナル保有地ノ設定ノ結果ヲ來スヘキモノト認メタル場合ニ於テ認可セラルヘキモノトス他ノ土地トノ交換カ戶主保有地ヲシテ本法ニ依リテ課セラレタ

ル義務ヲ免レシメンカ爲ニスルモノナルトキニハ戸主保有地ノ將來ノ義務ヲ負擔スヘキ土地ハ右ノ義務ヲ免レムトスル土地ト同樣ニ善良ニシテ且其ノ目的ニ適應スルモノナルコトヲ證明スルヲ要ス

土地ノ分割併合又ハ建築物ノ交換ニ依ル國庫ニ對スル債務ノ分割ニ關スル條件ハ府縣委員會ノ報告ニ基キテ農務大臣之ヲ定ム

第二十一條　所有者カ自己ノ保有地ヲ其ノ生存中ニ於テ或ル他ノ者ニ讓渡セムトスル場合ニ於テ購買者ハ第二條及第三條ニ規定セラレタル條件ヲ具備スル場合ニ限リ國庫ニ對スル義務ニ關シテ賣却者ノ地位ヲ占ムルコトヲ得ルモノトス但シ所有者カ自己ノ保有地ヲ子又ハ養子若ハ孫ニ讓渡セントスル場合ニ於テハ第三條ノ(イ)、(ロ)、(ハ)、(ト)及(チ)ニ規定セラレタル條件ハ之ヲ適用セラレサルモノトス

以上ノ條件ヲ具備セサル者ニ對スル保有地ノ讓渡ハ國庫ニ對スル負債カ同時ニ償却セラルヘキ場合ニ於テノミ許可セラルヘキモノトス但シ保有地ハ右ノ讓渡ニ依リテ本法ノ戸主保有地トシテ特別ノ義務ヲ免ルルコトナク且第二十條ニ規定セラレタル規定ヲ條令トシテ特ニ繼續スルモノトス

第十五條ニ依リテ認メラレタル利益ハ以上ノ規定ニ依ル保有地ノ讓渡ニ依リ丁抹王立銀行ノ爲ニスル抵當證書ニ適用セラルヘキモノトス

第二十二條　所有者カ死亡シタル場合ニ於テ其ノ未亡人カ保有地所有者トシテ存在スルトキハ國庫ニ對スル關係ニ於テ其ノ未亡人ハ夫ニ代ルヘキモノトス右ノ未亡人カ再婚スル場合ニ於テハ國庫ニ對スル關係ハ其ノ夫カ第三條ノ(ハ)、(ニ)及(ヘ)ニ規定シタル條件ヲ具備スル場合ニ於テノミ繼續スルコトヲ得ルモノトス

國ニ於テ設定シタル家屋ヲ所有スル他ノ女カ結婚スル場合ニ於テモ右ト同樣ノ規定ノ適用ヲ受クルモノトス二人ノ貸

付金ニ依ル戸主保有地ノ所有者間ニ於テ結婚ヲ生シタルトキハ其ノ保有地ノ一方ニ貸付シタル貸付金ハ農務大臣ノ決定ニ從ヒ結婚ノ日ヨリ一年以內ニ終了スヘキモノトス

第二十三條　千七百六十九年五月十三日ノ勅令第五條ニ基キテ效力ヲ有スル規定及遺言狀ノ作成ニ關スル世襲不動產享有者ノ權利ニ關シ其ノ以後ニ於テ制定セラレタル規定ハ本法ニ規定シタル家屋及其ノ附屬物ニ關スル遺言ノ處分ニ適用セラルヘキモノトス

相續人ヲ指定スル權利カ衆子中ノ一人ノ爲ニ行使セラレタル場合ニ於テ戸主及其ノ妻ノ遺言ノ處分ニ依リテ其ノ家屋及土地ヲ相續スヘキ者カ若シ男子ニシテ自己ノ爲ニ指名權カ行使セラレタル者ナルトキハ其ノ夫カ第三條(ハ)、(ニ)及(ヘ)ノ規定ニ該當スル場合ニ國庫ニ對スル關係ニ關シ遺言者ノ地位ヲ占ムルコトヲ得ルモノトス但シ承繼人カ死亡者ノ財產及共同相續人ニ對シ保有地及其ノ附屬物ヲ承繼スルニ代ヘテ支拂フヘキ金額カ遺言者ニ依リテ其ノ負債ノ年賦償還トシテ相續人ノ發生シタル當日迄ニ償却シタル金額ヨリ總計ニ於テ多額ナルモノヲ指定セラレサリシ場合ニ限ルモノトス

保有地ヲ取得スヘキ者カ共同相續人ニ對スル支拂ニ要スル金額ヲ有セサリシ場合ニ於テハ其ノ共同相續人ハ利子ノ支拂及年賦償還金ニ關シ府縣委員會ノ認可シタル正當ナル條項ニ從フコトヲ條件トシ且國庫ニ對スル負擔ニ次ク負擔トシテ其ノ保有地ニ對シ擔保權ヲ取得スルコトヲ得ルモノトス

死亡者カ規定條件ヲ具備スル子ヲ有スル場合ニ於テハ以上ノ遺言處分權ハ以上ノ相續人中ノ其ノ一人ニ對シテノミ行使セラレ得ヘキモノトス

第二十四條　第二十三條ニ依リテ保有地ヲ遺產セラレタル者カ之ヲ相續スルコトヲ欲セサルトキ又ハ死亡ノ結果ニ關シ

遺言書ニ何等ノ指定ナカリシ場合ニ於テハ相續人ノ一人ニシテ第二十三條ノ條件ヲ具備シ且其ノ財産ノ相續ニ關シ共同相續人ト協定シタル者カ死亡者ニ代リテ其ノ地位ヲ占メ國庫ニ對スル義務ヲ負フモノトス保有地カ賣却セラレタル場合ニ於テ買主カ第二條及第三條ニ規定シタル條件ヲ具備スルモノナルトキハ農務大臣ハ買主ヲシテ國庫ニ對スル義務ニ關シ死亡者ノ地位ヲ占ムルコトヲ許可シ得ルモノトス

第二十五條　國家カ保有地ヲ差押ヘタル後之ヲ賣却セントスル場合ニ於テハ保有地ノ處分ニ關シ本法ニ規定シタル制限ニ從フコトナクシテ自由ニ其ノ賣却ヲ行フコトヲ得此ノ場合ニ於テ大藏大臣ハ如何ナル條件ニ依リ又國庫ニ對スル擔保及國債基金ノ如何ナル都市カ保有地ニ關スル義務トシテ殘存スルカヲ定ムルモノトス

第二十六條　本法ハ「フアロエー」島ニ之ヲ適用セス本法ハ千九百四年四月二十二日ノ農業勞働者ニ對スル保有地ノ創設ニ關スル法律ニ代ユヘキモノトス從テ第二十七條ニ規定シタル五年ノ期間ハ千九百十年四月一日ヨリ起算スヘキモノトス

千八百九十九年三月二十四日ノ法律ニ依リテ設定セラレタル家族保有地ニ關シテハ第十條、第十二條及第十四條乃至第二十四條ノ規定ハ尚其ノ效力ヲ有スルモノトス本法第二十條第三項ノ規定ハ右ノ保有地ニ適用スヘキモノトス千九百四年四月二十二日ノ法律ニ從テ設定セラレタル保有地ニ關スル第十條、第十二條及第十四條乃至第二十四條ノ規定ハ尚其ノ效力ヲ有ス

第二十七條　本法ハ千九百十三年及同十四年ノ帝國議會ノ修正ヲ經ヘキモノトス若シ右ノ修正カ本法ヲ延期セサルカ又ハ新法ヲ制定セサルトキハ第二條乃至第九條、第十一條及第十五條ノ規定ハ其ノ效力ヲ失フモノトス

二　小農地創設ヲ目的トセル千九百十七年六月二十二日附ノ增加ニ關スル法律

第一條　千九百十七年六月二十二日ノ法律第二十七條ニ於テ規定セル小農地（Husmmdslwg）設定ニ關スル法律ノ修正ハ千九百十八年二月十九日ノ法律ニ依リテ千九百十八年—千九百十九年—千九百二十年度議會ニ移スコトトス

第二條　千九百十七年六月二十二日ノ法律及該法第十三條ニ規定セラレタル補助貸付金ニ關シテハ最高五、〇〇〇、〇〇〇「クーロン」（Cowbnnes）ノ範圍內ニ於ケル金額ヲ小農地設定ノ目的ニ對スル貸付ノ爲ニ使用スルコトヲ得最高五、〇〇〇、〇〇〇「クーロン」迄ノ金額ハ又千九百十七年六月二十二日ノ法律第十二條ニ依リテ千九百二十年—千九百二十一年ノ會計年度中ニ於テ小農園內ノ住宅トシテ使用シ得ル建物ノ購入ニ使用サルルヲ得

第三條　千九百十七年六月二十二日ノ法律第十三條ニ規定セル補助貸付金ハ千九百十八年九月二十八日ノ土地負擔償却法ニ依リ土地經營者カ償却ノ請求ヲ提出セル場合ノ土地負擔償却ノ目的ニ對シテモ亦之ヲ貸付クルヲ得

三　千九百十七年六月二十二日ノ法律

第一條　各郡ニ於テハ本法規定ノ分割地ノ設定及其ノ土地ノ共同監督ヲ任トナス委員會ノ任命ヲ爲スヘシ該郡內ニ在ル市街地ハ本法ノ關スル範圍內ニ於テハ該郡ニ屬スルモノト看做ス

委員會ハ三名ノ委員ヨリ成リ中一名ヲ委員長トシテ農務大臣之ヲ任命ス他ノ二名竝ニ其等各自ノ補缺委員ハ各町村ヨ

リ二名ノ割合ニテ選出サレタル郡内ノ小教區ノ代表者ニ依リテ選擧セラル該代表者竝ニ委員ノ選擧ハ地方ノ議員選擧ニ關スル規定ニ從ヒテ行ハルルモノトス

該委員會委員ノ選擧竝ニ委員會ノ職務ニ關スル精細ナル規定ハ農務大臣ニヨリテ告示サルヘシ該委員委員會竝ニ共ノ補充員ノ任期ハ六箇年トス但シ再選ヲ妨ケス

委員ハ一「キロ米」毎ニ三〇瓲ノ割合ヲ以テ旅費ヲ支給ス鐵道ヲ利用シ得ヘキ場合ハ三等運賃率ニヨル金額ヲ受ク

會議出席又ハ旅行ヲ爲ス場合ハ其ノ會議又ハ旅行カ二時間以内ナル時ハ一日當六「クローネ」二時間以上ニ及フ時ハ一日當十「クローネ」ノ日當ヲ受ク其ノ外委員長ハ職務ニ對スル補償ノ名義ヲ以テ各會計年度中自己ノ司會ノ下ニ終了セル各事件毎ニ一〇「クローネ」ヲ受領スルモノトス

委員會ノ費用ハ國家ノ負擔トス

農務大臣ハ適當ト認ムル事情アルトキハ郡ヲ二分シ各自固有ノ委員會ヲ有スル二地方ト爲ス權利ヲ有ス委員會ノ請求アルトキハ農務大臣ハ必要ニ應シテ諮問スヘキ建築技師ヲ指命シ委員會ニ出席セシムルコトヲ得

一般農業勞働（中ニ野菜園及庭園ノ勞役ヲ含ム）ニ對スル給料ニ依リテ生活スル男女ハ定傭ナルト否ト日雇トシテ勞働スルモノナルト否ト或ハ又本法規定ノ制限内ノ而積ヲ有スル農園ノ小作人ナルト否トニ關係ナク凡テ小農園ノ經營者タラントスルニ付本法ノ規定ニ從ツテ特ニ考慮ニ加ヘラルルノ權利ヲ有ス過去ノ五年間該職務ヲ遂行セル農業日雇人（此ノ場合該人物カ該耕作地ノ所有者ナルカハ問フ所ニ非ス）經濟上農業者ト同視サルル田園職工、煉瓦製造工及國庫ノ漁業貸付金ヲ受ケサル漁夫竝ニ沿岸都市ノ勞働者等ハ前ト同樣ノ取扱ヲ受ク

第三條　本法ノ規定ニ依リ土地ノ取得者タルニハ次ノ條件ヲ備フルヲ必要トス

（a）請願者ハ丁抹市民タルコト

（b）該請願者ハ成年ニシテ且原則トシテ五十歳ヲ越ヘサルモノナルコト

（c）公ノ不名譽行爲ノ爲ニ罰セラレテ未タ復權ヲ得サルモノニ在ラサルコト

（d）千八百九十一年四月九日ノ慈善的營造物ニ關スル法律第三十五條第一項ノ規定ニ依リ貧民ノ救濟金ヲ受ケテ未タ其ノ返却ヲ爲サス又ハ免除ヲ受ケ居ラサルモノニ在ラサルコト

（e）滿十八歳以後少クモ四箇年間ハ農業ヲ以テ生計ヲ立テ居タルモノナルコト

（f）該請願者カ勤勉ニシテ實儉ナルコト及小農園ノ經營ニ適當ト認メラルルコトヲ證明スル爲彼ヲ熟知シ且信用アル二名ノ人物ヨリ證明書ヲ提出スルコト

（g）本法ニヨリ該農場ノ經營（第八條及第九號參照）ニ堪ユルタケノ財產ヲ所有シ居ルコトヲ證明サレタルモノナルコト

（h）本法ニ規定セラレタル農園ヲ自己ノ資力ニテ買フヲ得サルモノナルコト

上記諸條件ハ該請求者ノ一般ニ所有スト推定セラルル資格ニ對スル證書及申告書カ事實ニ相違ナキ旨ヲ證スル宣誓付自署法定申述書ニ依リテ證明サルルコトヲ要ス

個人ノ證明及證言ハ官廳及市町村參事會ノ認證アルコトヲ要スルモノニシテ此等ノ官署ハ署名者カ信用アル人物ナルコトヲ確認スルヲ要ス又請願者ハ自己カ小農地經營ヲ全ウスルニ適スルモノナルコトヲ證スル所屬市町村參事會ノ申告書ヲ提出スルヲ要ス給料ヲ節約シテ(g)項ニ示セル資力ヲ蓄ヘタル者ナル旨ノ證據ヲ提出セル請願者ハ選拔ノ際ニハ優先權ヲ與ヘラルルモ其ノ他ノ點ハ凡テ同等ニ待遇サル

第四條　農商務大臣ノ許可アル場合ヲ除ク外上記ノ目的ニテ購入サルル土地ハ中等品質ノ地面二「ヘクタール」ヲ下ルヘカラス

第五條　土地カ未登錄ノモノナルトキハ之ヲ登錄シ且各別ニ之カ負擔ヲ賦課セラル

該土地ハ小耕作地ナル名目ヲ以テ登錄簿中記載セラルルヲ要ス負債ハ該土地ノ面積如何ニ關係ナク登錄後農商務大臣ノ命令又ハ此ノ種ノ負債ニ關スル現行規定ニ從ツテ行フ新評價ヲ爲シタル上之ヲ爲スコトヲ得抵當證書謄中ニ挿入セラルヘキ耕作地ニ關スル證書及購入證書中ニハ該耕作地カ本法ノ定ムル條件ニ服スルモノナルコトヲ記載スルコトヲ要ス

第六條　第二條及第三條ノ條件ヲ具備スル請願者ニシテ本法ノ規定ニ依リテ小農地タルヘキ土地ヲ取得セントスルモ土地所有者トノ協定上購買シ得ヘキ地所ヲ選出シ得サルトキハ該請願者ハ市町村參事會ニ其ノ旨ヲ通スヘク市町村參事會ハ其ノ承認シ得ル條件ヲ以テ個人ニ對シ土地ノ提供ヲ勸誘スルニ努ムヘシ若シ該企畫ニシテ成功セス且參事會カ其ノ市町村內ニ該目的ニ利用サレ得ル公有地アリト認ムル場合ニ於テハ參事會ハ相當ナル價格ニテ其ノ土地ヲ購入セシカ爲管轄官廳ト商議ヲ開始スルヲ得

該參事會ノ商議ノ結果ヲ請願者ニ報告スルモノトス且讓渡契約ノ成立シタル時ハ以下ノ諸規定ニヨリ該土地ヲ購入スルニ必要ナル手續ハ之ヲ請願者ニ一任スヘシ

公共ノ機關、營造物又ハ敎會ニ屬スル土地カ本法ニ依リ小耕作地トシテ賣却サラルルトキハ該地所ハ官憲ノ同意ヲ經タル後之ヲ買受クルコトヲ得ヘク其ノ購入代金ハ年賦現金拂ニテ返還サレ且其ノ各年度ノ拂込額ハ國庫貸金ノ交付額ニ應スル樣ニ之ヲ定ムヘシ

市町村參事會ハ其ノ仲介ニ依リテ得タル土地カ適當ノ地位ニ在ルヤ否ヤ注意スルヲ要ス通行條件ニ關シテハ市町村參事會ハ本法ニ特示サレタル問題ニ對シ縣ヲ介シテ主務官廳ニ相談スルヲ要ス

第七條　請願者カ自身又ハ參事會ノ援助ニヨリ（第六條參照）本法ニ規定サレタル條件ニテ小耕作地トシテ取得セントスル土地ヲ選擇シタルトキハ市町村參事會ヲ經由シテ第一條ニ規定セル委員長ノ許ニ其ノ取得ニ關スル請願ヲ提出スヘシ

參事會ハ此ノ請願作成ノ爲農務大臣ノ命令ニ依リテ定メラレタル特別用紙ヲ供給スヘシ而シテ請願書中ニハ其ノ請願ノ採否ヲ決スルニ必要ナル事項ヲ記載スヘク且請願者ノ提出スヘキ資格證書其ノ他ノ證據書類ヲ（第二條及第三條參照）添付スルコトヲ要ス其ノ外請願書中ニハ土地ノ面積、位置及買ヒ得ヘキ代價ヲ記載スルコトヲ要シ且請願者カ家屋ヲ有セサルトキハ建築ニ必要ナル見積金額ヲ附記シタル必要建築物ノ設計圖、農場附屬家畜及農具等ノ購入ニ必要ナル費用見積書等ヲ添付スルヲ要ス小農地ノ總價額（國庫ヨリ得ヘキ借金高）ハ土地ノ價格甚タ高キ地方ニ於テノミ一、〇〇〇「クーロン」ヲ超過スルヲ得ヘキモ如何ナル場合ト雖モ一二、〇〇〇「クーロン」ヲ過クルコトヲ得ス請願書ニ選ハレタル土地ハ農業ニ必要ナル條件ニ適合スルモノナルコト及要求サレタル價格ハ正當ナリト認メ得ヘキコトヲ證明スル參事會ノ意見書ヲ添付スヘシ

委員會ニ提出サレタル參考資料ハ委員長之ヲ審査スルモノトス委員長ハ必要アリト認ムルトキハ更ニ調査ヲ行ヒテ之ヲ補充スルコトヲ要ス

第八條　委員會ハ其ノ受付ケタル請願ヲ審議シテソレカ第二條、第三條及第四條ニ規定セル條件ヲ備ヘタルコト及建築設計等カ其ノ目的ニ適スルコト等ヲ確ムヘシ

委員會ハ當該ノ土地カ通行路ヲ有スルヤ又此ノ點ニ關シテ都合ヨキ地位ヲ有スルヤ又該土地內ニ井戶ナキ場合ニハ土地ノ取得者カ他所ニ在ル水ノ利用權ヲ有スヘキヤ等ノ事項ヲ確ムヘシ

次ニ委員會ハ其ノ土地カ無負擔ノ小農園トシテ利用サレ得ルヤ及其ノ代價ハ正當ナリヤヲ知ランカ爲其ノ土地ヲ調査スヘシ

請願者カ既ニ建物附ノ土地ヲ所有シ且更ニ取得セントスル土地カ之ニ併合セラレ得ヘキ場合ニ於テハ委員會ハ更ニ其ノ建築物カ滿足ナル狀況ニアル事ヲ確メ且其ノ土地ノ見積價格ヲ定ムルヲ要ス

委員會カ其ノ結果國庫貸付ノ請求ハ許スヲ得ストノ意見ナルトキハ理由ヲ示シテ之ヲ請求者ニ通告スヘシ若シ其ノ拒絕カ土地ニ對スル貸付金額カ委員會ニ依リテ多額ニ失スト認メラレタル爲又ハ請願者カ第三條ニ明示サレタル條件ヲ滿ササルコトノ結果ナルトキハ請願者ハ之ニ對シテ農務大臣ノ裁決ヲ求ムルヲ得ヘシ其ノ請求カ却下サレタルトキハ請願者ハ凡テ之ヲ裁判所ニ上訴スルコトヲ得ス或地方內ニ小耕作地ヲ設立スル目的ニテ一會計年度中ニ使用シ得ヘキ金額カ採擇シ得ヘキ請求ノ凡テヲ滿足セシムルニ足ラサルトキハ委員會ハ請願者ノ選擇ヲ行フヘシ此理由ニテ請求ヲ採擇セラレサリシ請願者カ翌年更ニ請求ヲ提出セルトキハ條件同等ナル限リ之ニ優先權ヲ與フ

裁決アリタルトキハ各請願者ニ對シ各別ニ之ヲ通知スヘシ

第九條　縣委員會カ貸付金ノ請願者ハ本法ノ規定ニ依リテ土地購入ヲ目的トスル貸付金ヲ受クル資格ヲ有スルコト及建築物ニ就テ提出サレタル計畫設計ニハ何等ノ非難スヘキ點ナシトノ意見ヲ述ヘタルトキ又ハ農務大臣カ其ノ土地內ノ建造物ハ完全ニシテ且該土地ハ家畜又ハ必要ナル工具ヲ具備ストノ證據ヲ有スルトキハ請願者ハ該土地ノ見積價格ノ十分ノ九ニ相當スル額ノ現金貸付ヲ要求スルヲ得且國庫貸付金ハ土地ノ購入價格及建物ノ建造費ニ相當スル金額又ハ

請願者ノ既ニ有セル建物ノ第七條ニ依リテ定メラレタル見積價格ヲ越ユルコトヲ得ス而シテ貸付金ハ場合ニヨリ上記金額ニ減セラルヘシ

當該ノ土地カ土地負擔（國稅、縣市町村稅、十分ノ一稅及銀行債務ハ例外トス）ヲ負擔セルトキハ見積價格中ヨリ右負擔ノ價格ヲ控除ス

年負擔定額ノ二十五倍ヲ以テ右負擔ノ價格トス

該負擔定額カ麥ノ一定量ニテ支拂ハルコトトナレル場合ニ於テハ最近二十四年ノ中ヨリ最高價竝ニ最低價ノ歲二箇年ヲ除キタル上其ノ間ノ平均價格ニヨリテ之ヲ金錢ニ換算シテ支拂フヘシ

該土地カ他ノ土地ト結合シテ土地負擔ヲ負擔セル場合ニ其ノ負擔權利者カ負擔ノ分割ヲ欲セサルトキハ該土地ノ負擔トナルヘキ地租ト同一割合ノ土地負擔ノ代金ヲ權利者ニ支拂ヒテ之ヲ償却スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ國庫貸付金ハ此ノ金額ニ相當スル額タケ增額セラルヘシ

委員會ノ許與シタル國庫貸付金ヲ受クル權利ハ其ノ權利者カ許與アリタル會計年度ノ終リ迄ニ其ノ要求サレタル義務ヲ履行セサルトキハ消滅スサレト農務大臣ハ情狀宜シキ場合ニハ此ノ規定ニ例外ヲ設クルヲ得

該權利者カ國家ニ依リテ許與セラレタル貸付金又ハ其ノ一部分ノ上ニ右ノ負擔ヲ移スニハ無印紙用紙ヲ用フルコトヲ得

第十條　其ノ土地（建築物家畜等ヲ含ム）ノ上ニ存スル負擔ニ次イテ優先權ヲ有スル國庫貸付金ハ年四分ノ利息附トス貸付金ハ最初ノ五年間ハ之ヲ償却スルコトヲ要セス其ノ後ハ全額ノ五分ノ二ニ付年五分ノ割合ヲ以テ利息ヲ支拂フヘク斯クシテ此ノ部分ノ支拂ヲ終ハリタルトキハ年五分ノ利息附ニテ其ノ殘額ヲ償還スヘシ債權者ハ當該ノ土地カ其ノ目

的ニ從ヒテ經營セラルル以上貸付金ヲ取消スコトヲ得ス

第十一條　最高五、〇〇〇、〇〇〇「クーロン」迄ノ金額ハ千九百十八—千九百十九年ノ會計年度內ニ於テ第九條及第十三條ニ規定シタル貸付金ニ充ツルコトヲ得

上記金額ノ四分ノ一ハ各縣中採擇シ得ヘキ請求ノ總額カ其ノ割當金額ニ越ヘタルモノニ對シテ平等ニ之ヲ分配スヘク又殘額ハ各縣ノ受付ケタル請求ノ額ニ比例シテ之ヲ分配ス最初ニ利用セラルヘキ貸付金用支出額（第十條）ハ國庫貸付基金中ヨリ之ヲ支出ス

其ノ他ノ資金ハ假ニ國庫之ヲ支給スレトモ大藏大臣ハ丁抹抵當權付銀行トノ協定ヲ以テ定ムル相場ニ依リテ優先權附國庫證券ヲ該銀行ニ移轉スル權能ヲ有ス

債務者ハ該權利移轉ノアリタル後ト雖從來利息及償還金ヲ拂込ミ居タル稅務署ニ對シテ引續キ拂込ヲ爲スコトヲ得

第十二條　各別ニ登記サレタル土地ト共ニ賃貸セラレタル家屋（單ニ借リタル土地ニ附屬スル家屋ヲ含ム）ハ賃貸人カ本法所定ノ條件ニ該當スルニ於テハ本法ノ規定ニ依リ無負擔小土地トシテ之ヲ取得スルコトヲ得從ツテ第十一條ニ規定シタル資金ノ外最高五〇〇、〇〇〇「クーロン」迄ノ金額ヲ其ノ用ニ供スルコトヲ得

第十三條　千八百九十九年五月二十四日、千九百四年二月二十二日、千九百九年四月三十日及千九百十四年六月十三日ノ法律ニ依リテ設定セラレタル無負擔小農園ノ所有者カ千九百十八年四月一日以前ニ請求ヲ爲シタルトキハ地方基金中ヨリ之ニ補充的貸付金ヲ許與スルコトヲ得該貸金ハ次ノ諸目的ニ充用サルルヲ得ヘシ

（a）無負擔小農園ノ面積擴張ノ爲ニスル土地購入

（b）最初ノ評價後ニ行ハレタル土地開拓其ノ他例ヘハ疏水工事ノ如キ土地ノ重要ナル改良ニシテ其ノ結果土地ノ價値カ事實上增加スヘキ一切ノ事業

（c）土地ノ擴張又ハ耕作狀態ノ改良ヲ爲シタル後ニ於テ必要ト思考セラルル家畜小屋及其ノ他ノ農場建設物ノ增築

補充的貸付金ハ土地ノ見積價格（第七條參照）ノ增加シタル額ノ十分ノ九タルヘキモ九、〇〇〇「クーロン」ト以前ノ貸付金トノ差額ニ相當スル金高ヲ超ユルコトヲ得ス

國庫基金中ヨリ支出サルヘキ補充的貸付金ハ年五分ノ利息附トシテ主タル貸付金交付ノ日ヨリ起算シテ五十一年半ノ間ニ之ニ償還スヘシ本法ノ規定ニ依レハ該補充的貸付金ハ一回ニ限リテ之ヲ交付スヘク又未タ嘗テ千九百十九年四月三十日及千九百十四年六月十三日ノ法律ニヨリテ此ノ種ノ貸付金ヲ受ケタルコトナクシテ荒蕪地及未墾地ヲ開拓シタル者ニ對シテハ優先的ニ之ヲ交付スヘキモノトス

補充的貸付金ノ申込ハ縣委員會ニ之ヲ送附スヘク然ル後第七條乃至第十條ノ規定ニ依リテ之ヲ審査スルモノトス第十一條ニ規定シタル金額ノ一部ハ本條所定ノ補充的貸付金トシテ之ヲ利用スルヲ得千九百四年三月二十四日又ハ四月二十九日ノ法律ニ依リテ無負擔小耕作地ヲ設定セル所有者カ管轄委員會ヲ經テ千九百十八年四月一日迄ニ農務大臣ニ對シテ諸種ノ事情ノ爲自己ノ小農園ヲ擴張スルニ足ルヘキ土地ヲ發見シ得サリシコト及其ノ結果トシテ補充的貸付金ヲ受ケ得サリシコトヲ證明セルトキハ本法第二條及第三條ニ規定セル條件ニ該當スル取得者ニ自己ノ所有地ヲ賣却シテ千八百九十九年三月二十四日及千九百十四年四月二十四日ノ法律第十四條ノ規定ニ拘ラス本法ノ規定ニ依リテ國家ノ新貸付金ヲ受クルコトヲ得ヘシ

第十四條　償却ハ半期拂ニテ之ヲ爲ス但シ債務者ノ希望アルトキハ該償却額ノ增額ヲ許可スルコトヲ得

金額五〇「クーロン」以上ナルトキハ右ノ許可ヲ與フルコトヲ要ス第六條第二項所定ノ拂込ハ國庫ニ支拂フヘキ拂込ト

同時期同一場所ニ於テ半年毎ニ之ヲ爲スヘシ該拂込並ニ國庫ニ對スル拂込ハ質權ヲ生セシム

第十五條　本法ニ從フ取引ノ爲契約書又ハ賣買證書ヲ作成スルニハ一「クーロン」ノ印紙ヲ貼リタル用紙ヲ使用スヘシ

國庫又ハ貸付資金ノ爲ニスル質債務ハ無印紙用紙ヲ以テ之ヲ作成ス第十一條ニ從ヒテ爲ササル丁抹不動產抵當銀行ニ對スル國庫ノ權利移轉ニ付テモ亦同シ公示ノ爲ニスル稅金其ノ他ノ諸稅ハ之ヲ廢棄ス

第十六條　以上ノ諸條件ニ從ヒテ讓渡サレタル土地ノ所有者ハ法定ノ權利並ニ制限及本法所定ノ特別權利附ニテ其ノ所有者トナルモノトス

何人ト雖本法ニ依リ一口以上ノ土地ニ對スル貸付金ヲ國庫ヨリ借受クルコトヲ得ス然レトモ借主カ既ニ其ノ受ケタル貸付金ノ償却ヲ終リタル後ニ於テ尙本法ノ規定ニ從ヒテ貸付金ヲ受クル資格ヲ有スルトキハ既ニ設立セル耕地ニ付キテ更ニ別箇ノ貸付金ヲ受クルコトヲ得

第十七條　質債務證書中ニハ若シ所有者カ自己ノ所有地ヲ放棄シ又ハ其ノ一部ヲ轉貸シ若ハ該土地內ニ賃貸ノ目的ニテ建造物ヲ建テタル結果トシテ其ノ土地ノ性質カ變更シ又ハ其ノ價値カ減少スルニ於テハ未タ償却セラレサル金額ハ全部何等ノ豫告ナク直チニ滿期トナリテ遲滯ナク之カ支拂ヲ爲スヘキモノトスル旨ノ約款ヲ設クルコトヲ要ス

第十八條　土地ハ一般ノ慣行ニ從ヒ之ヲ經營スヘク且常ニ附屬家畜及必要器具ヲ具備スルコトヲ要ス農園內ノ建築物ハ善良ナル狀態ニ之ヲ保存スヘシ

右ノ條件ノ履行ヲ促スコトヲ職務トシ且其ノ目的ノ爲委員ノ一人又ハ數人ヲシテ當該ノ土地ヲ監察セシムルヲ得ヘキ縣委員會ニ對シテハ所有者之ニ自由ニ出入スルコトヲ得

監察ハ少クモ三年ニ一回之ヲ行フヘク若シ土地及家畜ニ關シ所有者ノ過失ト認ムヘキ證據擧リタルトキハ該所有者ハ委員會ノ定ムル期間內ニ之ヲ追完スヘク若シ其ノ期限ヲ經過スルトキハ委員會ハ事件ヲ農務大臣ニ移送シ農務大臣ハ所有者ニ屬スル義務及債務者ニ對シテ加ヘラルヘキ手段ニ付テ裁決ヲ爲ス

第十九條　所有者ハ單ニ建築物ノミナラス附屬家畜、用具類並ニ其ノ他凡テノ所有物ヲ其ノ金額ニ附キテ火災保險ニ附スルヲ要ス

不動產ハ國家ノ認可セル保險會社ニ依リテ保險セラルルコトヲ要ス所有地ニ付テ行ハルル監察ハ此規定ノ遵守如何ヲモ檢査スルヲ要ス

第二十條　所有地ハ農務大臣ノ特別許可ナキ限リ之ヲ分割シ他ノ土地ニ併合シ又ハ他ノ土地ニ依ツテ補充スルコトヲ得ス

右ノ許可ハ市町村參事會ノ推薦ニ依リテ支持セラレタルモノニ對シテノミ之ヲ與フ

所有地分割ノ許可ハ公共狀態、市町村ノ契約條件又ハ之ニ類スル他ノ原因ニ鑑ミ當該ノ土地ノ一部又ハ全部ヲ別箇ノ方法ニテ利用スルヲ適當ト認ムル場合ニ之ヲ與フ

他ノ土地ノ合併ニ因ル土地擴張ノ許可ハ事情カ好都合ニシテ且耕地ヲ擴大セントスル所有者ノ希望ヲ容レ得ル狀態ニ在ル場合ニ之ヲ與フ斯クシテ取得セル土地ハ其ノ全部ヲ小農園ト看做シ且小農園トシテ登錄爲サルルヲ要ス

土地又ハ其ノ一部ヲ他ノ土地ニ合併スルノ許可ハ該併合ノ結果更ニ滿足スヘキ無負擔ノ小耕作地ヲ作リ得ル場合ニ之ヲ與フ

分割及擴張等ノ爲ニスル國庫ニ對スル負債ニ關スル規定ニ付テノ條件ハ縣委員會ノ提案ニ基キ農務大臣之ヲ定ム

第二十一條　土地所有者カ其ノ生存中ニ所有地ノ全部ヲ他人ニ讓渡セントスル場合ニ於テハ其ノ讓受人ハ第二條及第三

條ニ規定セル條件ヲ充スニ在ラサレハ所有者カ國庫ニ對シテ契約セル債務ニ就テ之ニ代ハルコトヲ得ス然レトモ讓渡人カ所有者ノ男、女、婿又ハ其レ等ノ者ノ男ナルトキハ第二條(a)(b)(c)(e)(g)及(h)各項ノ條件ハ之ヲ免除ス上記ノ諸條件ヲ充ササル他人ニ對スル讓渡ハ其ノ者カ國庫ニ對スル負債ヲ同時ニ決濟スル場合ニ限リ之ヲ爲スコトヲ得然レトモ該所有地ハ本法ニ從ヒ小農地トシテ服セル特別條件ヨリ免ルルモノニアラス殊ニ引續キ第二十條ノ規定ノ適用ヲ受クルモノトス

第十五條所定ノ利益(丁抹不動產銀行債務ニ關スルモノヲ含ム)ハ本條第一項ニ規定シタル土地移轉ニモ之ヲ適用ス

第二十二條　土地所有者死亡シタル場合ニ其ノ寡婦カ該土地ノ所有者タルニ於テハ國庫ニ對スル關係ニ於テ死亡者ニ代ハルコトヲ得寡婦カ再婚シタルトキハ國庫ニ對スル其ノ關係ハ後夫カ第二條(c)(d)(e)及(g)等前定ノ條件ヲ滿シタル場合ニ於テノミ持續サルルヲ得國有ノ家屋ヲ占有スル婦人カ婚姻ヲ爲シタル場合又之ニ同シ國庫貸付金ニ依リテ得タル耕作地ノ所有者ノ二人カ婚姻ヲ爲シタルトキハ其ノ所有地ノ一方ニ對スル貸付金ハ農務大臣ノ定ムル條件ニ從ヒ婚姻ノ日ヨリ遲クモ二年以內ニ之ヲ償還スルコトヲ要ス

第二十三條　千七百六十九年五月十三日ノ法律ノ定メタル諸規定及農夫並土地所有者ノ遺言權ニ關スル其ノ後ノ法規ニシテ尙現行ノモノハ前記家屋並ニ其ノ附屬物ノ遺言處分ニ之ヲ適用ス遺言權カ女子ノ一人ノ爲ニ行使サレタルトキハ農夫及其ノ妻ノ決定ニ從ヒテ土地並ニ家屋ヲ取得スヘキ者ハ國庫トノ關係ニ付テ遺言者ニ代位スルヲ得ヘシ此ノ場合ニ於テ若シ受遺者カ既婚ノ子女ナルトキハ其ノ夫カ前記第三條ノ(c)(e)及(g)ノ條件ヲ充シタルコトヲ必要トシ且該相續人カ該土地及其ノ附屬物ヲ取得スルカ爲死亡者ノ家族及其ノ相續人ニ支拂フコトヲ要スヘキ金額カ右土地ノ負擔スル債務ノ中相續開始ノ際既ニ遺言者カ償還シタル分ヨリ多額ニ評價セラレサリシ場合ナルコトヲ要ス

土地ノ相續人カ共同相續人ニ支拂フヘキ金額ニ必要ナル資力ヲ有セサル場合ニ於テ共同相續人カ其ノ權利タル金額ノ利息ニ關シ又ハ其ノ償還ニ付テ縣委員會ノ認許シタル公正ノ條件ヲ承諾スルニ於テハ該相續人ニ對シテ其ノ土地ニ對スル優先權ヲ與フルコトヲ得死亡者ノ直接相續人(卽チ子女)アリテ前記條件ニ該當スルトキハ遺言權ハ其ノ中ノ一人ノ爲ニノミ之ヲ行使スルコトヲ得

第二十四條　遺言ニ因リ土地ヲ讓渡サレタル者カ該土地ノ所有者タルコトヲ欲セサルカ又ハ其ノ點ニ關シテ何等ノ決定ヲモ爲ササルトキハ相續人中ノ一人ハ他ノ共同相續人ト合意ノ上第二十三條所定ノ條件ヲ充タシテ該土地ヲ取得シ且國庫ニ對スル關係ニ於テ死亡者ニ代位スルコトヲ得

土地カ賣却セラレタル場合ニ買受人カ第二條及第三條所定ノ條件ヲ充タシタルトキハ農務大臣ハ國庫ニ對スル關係ニ於テ彼ヲシテ死亡者ニ代位セシムルコトヲ得

第二十五條　後日ニ至リ國庫カ土地ヲ賣却セシムルノ必要ヲ認メタルトキハ本法カ其ノ處分權ニ關シテ定メタル制限ニ拘ラス之ヲ賣却スルコトヲ得

第二十六條　本法ハ Feroe 諸島ニ之ヲ適用セス又本法ハ千九百十四年六月十三日ノ小耕作地設定ニ關スル法律ニ代ハルモノトス

千九百十三年六月十三日ノ法律第一條ニ依ル委員會委員ハ其ノ任期滿了ニ至ル迄本法第一條ノ規定ニ從ヒ其ノ職務ニ止マルモノトス

千八百九十九年三月二十四日ノ法律第十條、第十二條及第十四條乃至第二十四條ノ規定ハ該法ニ依テ設定サレタル小耕作地ニ對シ效力ヲ保持スヘシ尙本法第三條ノ規定ハ此等ノ耕作地ニモ適用セラルヘシ

千九百四年四月二日ノ法律ニ依ツテ設立セラレタル小耕作地ニ對シテハ同法第十條、第十二條及第十四條乃至第二十四條ノ規定ハ其ノ效力ヲ有ス

千九百九年四月三十日ノ法律ニ依テ設定サレタル小農園ニ對シテハ同法ノ第十條、第十四條及第十六條乃至第二十六條ノ規定ハ其ノ效力ヲ保有ス

千九百十四年六月十三日ノ法律ニ依テ設定サレタル小農園ニ對シテハ同法ノ第十條、第十四條及第十六條乃至第二十六條ノ規定ハ引續キ其ノ效力ヲ有ス

第二十七條　本法ハ千九百十七—千九百十八年度ノ衆議院議會ノ審議ニ附サルヘキモノトス此ノ再審ノ結果トシテ本法ノ施行延長又ハ新法ノ公布ヲ見サルニ於テハ第二條乃至第九條、第十一條、第十二條、第十三條及第十五條ノ規定ハ其ノ效力ヲ失フモノトス

第二　新小自作農地法及其ノ關係法律

（一）農業日雇人ノ爲ニ爲ス小教區地賣却ニ關スル法律

（千九百十九年十月四日）

第一條　小教區ニ屬スル土地ニシテ其ノ性質又ハ位置ニ依リ農業ニ利用セラレ得ヘキモノハ本法ノ規定ニ依リ農業日雇人ニ充ツル農業地ノ設定ニ對スル可能性ノ多寡ニ應シテ牧用サルヘキモノトス

右土地カ住宅建設又ハ菜園設定ノ目的ニ利用セラルル限リ同一條件ニテ之ヲ牧用スルコトヲ得

第二條　小教區地ノ所有者カ現在迄其ノ土地ヲ自身ニテ耕作セル場合又ハ司祭ノ手當ニ關スル千九百十八年三月十二日及千九百十五年三月十四日ノ法律ノ適用ヲ受クル小教區地ニ附屬スル賃貸關係又ハ定期債務關係ノ停止ヲ爲セル場合ニ於テハ宗教省ハ遲滯ナク該土地ヲ成ル可ク他人ノ手當ヲ受ケシテ一家ヲ養ヒ得ル面積ヲ有スル耕作地ニ分割シテ賣却スル旨ヲ公示スルコトヲ要ス

上記ノ法律ニ依リ土地ヲ所有スル者ニシテ自ラ其ノ土地ヲ耕作セル者カ耕作ヲ中止セントスル意思ヲ有スルトキハ同上ノ規定ヲ之ニ適用スルコトヲ要ス

宗教省ハ教區參事會ノ同意アル場合ニ於テハ教區地委員會ノ意見ニ基キ小教區地內ニ於ケル中等程度ノ土地七「ヘクタール」ノ面積ヲ小教區ニ保存セシムル權限ヲ有ス小教區參事會ト教區地委員會トノ間ニ完全ナル一致ヲ見ル場合ニ於テハ教區ニ保存サルヘキ土地ノ面積ヲ更ニ擴張スルコトヲ得

第三條　土地賣却ノ結果不必要トナリタル建築物ヲ取壞シ又ハ農業用ニ供スル爲ノ再建築ニ要スル費用カ取壞シタル物ノ賣却ニテ償フコトヲ得サル場合ニ於テハ其ノ費用ハ國庫ニ依リテ支辨サルルコトヲ要ス

國庫ハ現實ニ小教區ノ負擔スル廢屋再築（此ノ不用家屋中ニハ小作人ノ家屋ニテ教區ニ保存サルトモ又別ニ賣却サルトモ指定サレサル物ヲ含ム）ノ爲ニ契約セラレタル借金ノ不足額ヲ補償スルコトヲ要ス

同樣ニ國庫ハ牧用セラレタル土地ノ負擔ニシテ排水工事及肥料石灰ノ購入等ノ爲ニ契約セラレタル借金ヲ其ノ負擔トシテ支拂フコトヲ要ス

第四條　本法ニ依リ一口ノ可耕地ヲ取得セントスル申請者ハ次ノ條件ニ該當スルコトヲ要ス

（一）下院（Folksting）議員選擧權ニ關スル憲法第三十條ニ規定セラレタル條件ヲ滿スコト

(二)年齢五十歳以上タラサルコト
(三)市町村役場ヨリ自己カ質實正直ニシテ且小耕地ヲ管理スル能力ヲ有スル事實ヲ確ムル證明書ヲ取得スルコト
(四)一農作地ヲ設定スルニ必要ナル資力ヲ有シ且小農作ニ必要ナル土地設定(請求シタル土地ヲ加ヘテ)ニ要スル面積以上ノ土地ヲ有セサルコト

建築物ノ造營又ハ菜園ノ設定ノ用ニ供スル土地ヲ取得スルカ爲ニハ第一項ノ要求ヲ滿スコトヲ要ス

數人ノ申請者カ同一土地ノ取得ヲ申出タル場合ニ於テハ農務大臣ハ當地方ノ地方委員會カ提出スヘキ(千九百十七年七月二十二日ノ法律參照)解明ヲ審査ノ上申請者中ノ一人ニ其ノ土地ヲ附與スルコトヲ要ス

本法第八條ニ依ル建築用貸付金ノ取得權ハ本法ニ規定セラレタル性質ノ土地ヲ取得スルニ要スル資金ヲ所持セサル農夫ノ爲ニ保留サル

第五條　土地ノ賣買代金ハ各個ノ土地ニ付之ヲ定メ若シ其ノ土地カ中等ノ廣サノ農場ニ屬スルトセハ之ニ對シ經驗アル買主カ支拂フヘキ代金ヲ標準トシテ評價委員會(千九百三年五月十五日ノ抵當權ニ關スル法律第九條參照)之ヲ定ムルモノニシテ之カ現金拂ヲ爲スコトヲ要セス

購入者ハ上記ノ原則ニ依リテ定メラルル定期年賦金ヲ支拂フコトヲ要ス

土地ノ賣買代金以外ニ購入者ハ土地ノ分割ニ要スル一切ノ費用及播種ノ拋棄ニ對スル賠償等ヲ現金ニテ支拂フコトヲ要ス

國庫ハ前條ノ委員會カ新道路ヲ必要ト認ムルトキハ之ヲ開設スルノ責ニ任ス

第六條　第五條ニ定メタル年賦拂込額ハ差當リ同條ニ規定セル評價ニ從ヒテ地價ノ四分五厘ト定ムヘク六月十一日及十二月十一日ヲ辨濟期トシテ半年毎ニ支拂ハルルヲ要ス後日ニ至リテ土地ノ一般的評價ヲ行フ毎ニ管轄委員會ハ上記ノ土地ノ新評價ヲ爲スヘシ

土地カ農業ニ利用セラルル場合ニ於テハ其ノ價格ハ最初ノ評價ノ場合ニ於ケルト同シク其ノ土地カ中等ノ廣サノ農場ニ屬スルトセハ之ニ對シテ經驗アル買主カ支拂フヘキ代金ヲ基準トシテ之ヲ定ムルコトヲ要ス

該土地カ他ノ目的ニ使用セラルル場合ニ於テハ評價ノ際其ノ事實ヲ斟酌スルコトヲ要ス

地主ノ勞働又ハ資本ニ依リテ生シタル地價ノ增額ハ新評價ニ際シテ之ヲ計算ニ加フルコトナシ

此ノ新評價ノ後ニ於テハ其ノ後ノ半期拂込金ハ新見積價格ニ對スル年賦金ノ形式ニ於テ定メラルルコトヲ要ス

該年賦金ノ額ハ十進法ノ歩合ニテ定メラレサルヘカラス大藏大臣ハ過去五年間ニ於ケル Oestifternes Kreditforening 及 Tybske Landkreditforening 兩銀行ノ連續番號債券ノ賣買相場ノ平均ヲ標準トシテ該歩合ヲ定ムル權利ヲ有ス

斯クノ如クニシテ定メラレタル拂込金ハ新評價ヲ爲セル日ヨリ少クモ三箇月以後ニ於テ六月十一日又ハ十二月十一日ノ支拂期日ニ之カ最初ノ拂込ヲ爲スヲ要ス

第七條　賣買代金及定期年賦金等ノ支拂ヲ擔保スル爲小敎區ハ該土地、建築物、附屬物、附屬家畜、耕作地、收穫物及此等ニ關スル保險金ノ上ニ優先權ヲ取得ス

半期拂込定期金及其ノ他本法ノ規定ニ依リテ購入者ノ負擔スル一切ノ負擔ハ之ヲ差押フルコトヲ得

國庫ハ半期拂込金ノ支拂ヲ擔保スルヲ要ス

第八條　本法第一條ノ規定ニ因ル土地ノ購入者ハ其ノ土地ノ讓渡ヲ受クル爲ニ國庫ノ前貸金ヲ受クル權利ヲ有ス

此ノ前貸金ハ此ノ種ノ設定ニ必要ナル費用ノ十分ノ九ニ相當スル額タルヘキモノトス

貸付金ハ農務大臣カ兩院ノ財政委員會ト交渉ノ上現價ニ付テノ統計局ノ報告ニ基キテ毎年豫メ定ムル最高額ノ上ニ超ユルコトヲ得ス此ノ計算ノ基準トシテ最高額ヲ六、〇〇〇「クーロン」ト定メタル千九百十四年ノ價格ヲ採用スルヲ要ス千九百十四年後ノ各年ニ對シテハ價格ノ騰貴ヲ略々埋合ス爲ノ追加金ヲ定メサルヘカラス

建物カ千九百十四年ニ建設セラレタリトセハ其ノ同一申込者ノ受ケ得ヘキ貸金ノ四分乃至一分五厘ニ相當スル歩合ハ該前貸金ニ付テ定ムルヲ要ス（第一項參照）

本法ノ施行後二年以內ニ農務大臣ハ議會ノ財政委員會ト協議ノ上次ノ諸問題ヲ決定スヘシ

（一）定メラレタル此ノ歩合率ヲ以テ之ニ代フヘキカ及其ノ率ヲ維持スヘキ期間

（二）貸付金附與ノ際歩合計算ノ基準トナレル最高額ヲ超ル金額ニ對シテハ如何程ノ歩合ヲ定ムヘキカ最初ノ三箇年間ハ何等償還ノ要ナク其ノ後ニ於テハ貸付金ノ受益者ハ各支拂期毎ニ殘ル未拂元金カ全部償還スルニ至ル迄其ノ負擔スル歩合ノ外前貸金元本額ノ一部ニ當ル金額ヲ該貸金ノ全部償却ヲ終ル時迄年々拂込ムコトヲ要スコト

第九條、第十條……略……

第十一條　本法第二條ニ依リテ宗教省カ小教區所有地賣却命令ヲ發シタル後ニ於テ提供サレタル土地又ハ其ノ一部ニ付買主ナキトキハ該土地ハ小教區有地ノ小作又ハ引渡及小教區地ニ屬スル土地ニ關スル一般規定ニ從ヒテ之ヲ賃貸スルカ又ハ還附スルコトヲ要ス司祭其ノ土地ヲ耕作セント欲スルトキハ本法ニヨリテ該土地カ賣却セラルルニ至レルトキハ小教區ノ受クヘカリシ定期金ニ相當スル額タケノ代價ヲ減少シテ其ノ賣却セラレサリシ他ノ土地ヲ耕作スル權利ヲ取得スルコトヲ得ルモノトス

本條ニ規定シタル該土地ノ賃貸ニ因ル利益ト該定期トノ間ニ差額アルトキハ國庫之ヲ塡補ス

土地解放ノ日ヨリ購入者カ本法ニ依リテ其ノ土地ヲ所有スルニ至ル迄ハ國庫ハ小教區ニ對シ土地賣却後小教區カ當然受クヘキ賣却價格全體ニ付キ其ノ責ニ任ス

第十二條、第十三條……略……

（二）公有地ノ賣却條件ニ關スル法律（千九百十九年十月四日）

第一條　土地ノ性質又ハ其ノ位置上單ニ農作ニノミ利用サレ得ヘキ公有地ハ本法ノ定ムル條件ニテ之ヲ賣却スルコトヲ得該土地カ建物ノ建築又ハ菜園ノ設定ニ利用サレ得ルモノナルトキハ同一條件ニテ之ヲ賣却スルコトヲ得

第二條　該土地ハ出來得ル限リ他人ノ助ヲ借ラスシテ一家族ヲ養フニ足ル面積ヲ有スル農作地ニ分割サルルヲ要ス該土地ヲ面積ノ異ル部分ニ分クルコトハ場合ニヨリ農務大臣ノ許可ヲ以テ之ヲ行フヲ得ルモ建物ノ建築又ハ菜園ノ設定ニ用フル場合ヲ除ク外如何ナル部分モ其ノ面積一「ヘクタール」ニ相當スル面積ヲ越ヘサルトキハ彼等ヲシテ經營セシムル爲之ニ右小分割地ヲ讓渡スカ中等ノ土地七「ヘクタール」ヲ下ルヘカラス既存ノ農業日雇人ノ所有セル地面ルヲ得

農務大臣ハ或場合ニハ免除ヲ爲ス權限ヲ與ヘラル

第三條　土地ノ分割カ終リタル時ニハ評價委員會（千九百十九年五月十五日ノ土地評價ニ關スル法律第九條參照）ハ若シ其ノ土地カ中等ノ面積ヲ有スル耕作地タリセハ經驗アル買主カ之ニ對シテ支拂フヘキ價格ヲ參考トシテ各分割地ノ價格ヲ定ムルヲ要ス

第四條、第五條、第六條……略……

第七條　上記ノ條件ニテ農作地ヲ取得スル者ハ必ス其ノ土地ニ關シ法律ノ定ムル範圍内ニ於テ所有者ニ屬スル凡テノ權利ヲ取得ス

該土地ノ現實ノ所有者カ法定相續人以外ノ者ニ該土地ヲ移轉スルノ意思ヲ有スル場合ニハ國家ハ最初ノ購入價格又ハ工作物ノ價格ニ相當スル價（之ニ土地ノ擴張改良ノ爲ニ所有者カ支出シタル費用ニシテ正當ト認メラルルモノ竝ニ該所有者ノ勞力又ハ資本ニ因テ爲サレタル改良ノ價値等ヲ算入ス）ニテ其ノ地所及該土地内ノ工作物ヲ購入スルニ付優先權ヲ有ス

第八條　該土地ハ農業又ハ菜園栽培ニ利用サルヘキモノニシテ且常ニ之ニ必要ナル資本及器具ヲ備フルヲ要ス農作ニ要スル建設物ハ完全ナル狀態ニ在ルヲ要ス

所有者カ國家ノ貸付金ヲ受ケサルトキハ工作物ニ對スル取締ハ强制的ニ之ヲ行ハス

所有者ハ苗床ノ破壞、粘土、石灰等ノ採掘ノ如キ土地ノ生產力ヲ害スルニ至ルヘキ作業ヲ企ツル權利ナシ

サレト農務大臣ハ此等ノ作業ヲ行ヒ得ヘキ條件ヲ定メテ之ヲ許可スルコトヲ得

第九條（土地ノ賃貸禁止）

第十條、第十一條、第十二條（抵當、財產差押、分割及他ノ土地トノ合併ノ禁止及遺言權）

第十三條（十五年ノ期限終了後ニ於ケル法律ノ修正）

第十四條、第十五條……略……

（三）封土世襲領及信託世襲地ヲ自由地ニ移ス法律

（千九百十九年十月四日）

第一條　封土世襲領又ハ信託世襲地及是等ニ附帶スル動產竝ニ財產資本又ハ貴族世襲地權ニ屬スル舊財產ニ代ル資本ノ各占有者ハ此等ノ財產カ尙信託世襲地タル性質ヲ保有スル限リ若シ其ノ土地カ直系卑屬相續權附ナルトキハ其ノ價格ノ二割五分其ノ他ノ土地ナルトキハ其ノ價格ノ二割ヲ國庫ニ支拂ヒ又ハ土地ノ三分ノ一ヲ國家ニ提供シテ是等ノ財產ヲ自由地ト爲ス權利ヲ取得ス但シ第三條第四項ノ損害賠償ヲ妨ケス

此土地又ハ其等ノ價物ハ公有地賣却法ノ規定ニ從ヒ小農園設定ノ目的ニ使用セラルルコトヲ要ス

第二條　財產ノ價格ハ抵當不動產ニ付テハ千九百二十年ニ行ハルヘキ評價ニ依リテ之ヲ爲シ取引所ノ相場ヲ有スル證券ニ付テハ相場ニ依リ又其ノ他ノ物ニ付テハ第九條ノ規定スル小作地委員會ノ評價ニ基ク一般的賣却價格ニ依リテ之ヲ決定スルヲ要ス

評價ニ際シテハ第六條第一項ノ規定ニ從フヘキ美術品等ハ之ヲ算入セス

共外該土地ノ負擔トナレル遺贈、采邑權、寡婦扶助料、傭人恩給等ノ金錢見積價額及最終ノ一般課稅前不動產改良ノ目的ニテ享ケタル貸付金ヲ控除ス然レトモ土地解放ノ際ニ達スヘキ增加價格ヲ超ユルコトヲ得ス

國庫ニ對スル拂込ハ現金又ハ債券（實價ニ依ル）ヲ以テ之ヲ爲ス拂込金額ハ大藏省ノ特別基金（土地基金）會計中ニ之ヲ記入ス該基金ハ之ヲ土地ノ取得又ハ小自作農ニ關スル貸付金ノ用ニ充ツ

第三條　第一條ニ揭ケタル國家ニ提供セラルヘキ土地ノ部分ヲ定ムルニ付テハ土地所有者カ千八百六十一年二月十九日及千八百八十二年三月九日ノ定期債務ニ關スル法律ニ從ヒ又ハ農奴制廢止中ニ引取リタルモ尙引續キ分益小作ヲ許シ居ル定期債務附土地若ハ舊小作地ノ外森林、公園又ハ庭園、不可耕ト認メラルル土地及所有者カ破壞セサル旨ヲ約シ

タル廣サ六 Toenders (ca. 3Carpent) 以下ノ建物ハ之ヲ計算ノ中ニ加ヘス然レトモ土地ノ價値(性質地位等)ヲ斟酌ノ中ニ加フ

故ニ面積小ナレトモ價値大ナル物ハ面積大ナルモ價値劣レルモノニ相當スルモノトス

〔此レヨリ以下國家ニ渡スヘキ土地ノ選擇ニ關スル小作地委員會及所有者間ノ協定ニ關スル規定アリ〕該選擇ハ財産カ自由地ニ變更セラルルト同時ニ行ハルルモ選擇サレタル土地ノ讓渡ハ四月一日前六箇月ノ豫告ヲ以テ農務大臣之ヲ請求シタル場合ニノミ行ハル

選擇サレタル土地ノ提供アリタル時ヨリ二十年間國家カ其ノ權利ヲ行使セサルトキハ其ノ土地ニ關スル權利ヲ失フ

讓渡サレタル土地ニ對スル賠償額ハ課稅參事會(千九百三年五月十五日ノ抵當法第九條參照)之ヲ定ムルモノニシテ其ノ額ハ若シ該土地カ中等ノ廣サノ耕作地ナルニ於テハ經驗アル買主ニ依リテ支拂ハルヘシト想像セラルル價格ニ相當スル額トス該土地ノ評價ヲ行ヘル結果財産ノ他ノ部分ニ生セル損失ハ之ヲ斟酌ノ中ニ加フヘカラス

土地所有者カ其ノ所有建物附ニテ土地ヲ賣却スルコトヲ同意セル場合ニ於テモ其ノ建物ニ對スル賠償額ハ該建物ノ占ムル土地カ耕作地ノ設定ニ利用サルル時ニ於テ有スヘキ價格以上ニ昂ルヲ得ス

賠償額ハ小作地委員會ニ依リテ定メラルルヲ要ス賠償額ハ第二條末項ニ揭ケタル基金中ヨリ之ヲ出費ス司法大臣ハ特種ノ場合ニハ土地ノ三分ノ一ヲ國家ノ手ニ渡ス規定ノ免除ヲ許ス權限ヲ附與セラル

貴族世襲地カ主財産及其ノ附屬物ヨリ成レルトキハ該讓渡ハ土地ト建物トノ關係ニ於ケルト同樣ニ之ヲ取扱フヘシ此ノ場合ニ於テ所有者ハ其ノ財産ニ屬スル土地ノ代リニ他ノ適當ナル土地ヲ小作地委員會ノ意見ニ依リテ讓渡スル權利ヲ有ス

〔之ヨリ以下此等ノ土地カ收用又ハ强制賣買ニ關スル將來ノ法律ノ適用ヲ受クヘキ場合ニ關スル規定アリ〕

第四條 財産カ自由地トナリタルカ爲相續權ヲ失ヒタル家族ノ受クヘキ正當ナル賠償額ハ小作地委員會之ヲ決定スルヲ要ス

法律上ノ債務額ヲ控除シタル後ニ於テ所有者ノ受クヘキ價額ノ五分ノ二ハ若シ貴族世襲地又ハ之ニ代ルヘキ形式ヲ維持スルトセハ所有者カ引續キ二回變更スル間ニ相次テ占有權ヲ取得スヘカリシ二名ノ者ニ(各々半分宛)之ヲ與フルコトトスルヲ以テ公正ナル賠償ト爲ス

此ノ目的ノ爲上記五分ノ二ノ金額ハ土地解放ノ際債券ノ形式ニテ小作地監督者ノ手ニ保存サルヘキモノトス自由地ノ舊所有者ハ其ノ生存中其ノ別除サレタル資金ノ利息ヲ受ク

其ノ者死亡ノ際ハ該資金ノ半ハ若モ該財産カ自由地トナラサリシトセハ世襲財産法ニ依ル相續ニテ之ヲ占有スルノ權利ヲ得ヘキ者ニ對シテ支拂フコトヲ要ス

同樣ニ其ノ者ハ其ノ生存中他ノ半分ノ利息ヲ受クル權利ヲ有ス又死亡ノ際ニ於テハ第二ノ半分ハ最親近ノ相續人ニ支拂ハルルヲ要ス

例外トシテ此原則ニ對スル抗辯ヲ許スコトヲ得此場合ニ於ケル抗辯ハ第九條ニ規定スル上級小作地委員會ニ之ヲ提出スルコトヲ得

第五條 農務大臣ノ諮問ニ對シ林務技術官ノ意見カ分割ニ贊成セサル場會ニ於テハ現存ノ貴族世襲地ニ屬スル森林ハ一所有地トシテ分割サレスニ保存サルルヲ要ス小作地委員會カ現在ノ貴族世襲地ニ屬スル森林ハ公共的價値ヲ有ストノ意見ナルトキハ該委員會ハ次ノ規定ニ從ヒテ公共機關カ該森林ヲ購入スルノ特權ヲ有スル旨ノ命令ヲ發スルコトヲ得

〔所有者ノ同意アリタル場合ノ森林賣却ニ關スル規定之ニ次ク然ラサル場合ニハ該森林ハ貴族世襲地ノ他ノ森林ニ之ヲ併合スルコトヲ要ス〕

森林ノ面積三〇〇「ヘクタール」ヲ超ヘサルトキハ上記ノ制限ノ下ニ世襲財產森林ヲ自由ニ分割スルコトヲ得山林ノ面積三〇〇「ヘクタール」以上ニ及フトキハ上記制限ノ下ニ該山林ノ面積ノ二割迄ハ自由ニ之ヲ分離スルコトヲ得ルモ農務大臣ノ諸問ニ對シ林務技術官ノ意見カ其ノ分割ニ贊成セサルトキハ森林ノ殘リノ面積カ六〇〇「ヘクタール」以下ナルトキハ之ヲ分割スルコトヲ得サルモノトス

海岸、港灣、湖水、水流、牧場、小森、砂丘、景色好キ小山及其ノ他自然美ノ爲公益トナル土地ハ其ノ特權附賣買ニ關シ本條ニ揭ケタル森林ト同一ニ之ヲ取扱フ

第六條　第一條ニ依リテ自由地トナレル土地ノ上ニ存スル美術的及歷史的ノ價値ヲ有スル物品ノ輸出ハ之ヲ禁止ス公共營造物ハ該物品ノ購入ニ關シテ優先權ヲ有ス文部大臣ハ價格ヲ倍加スルノ條件ニテ該購入物品ヲ外國ニ輸出スルコトヲ許可スル權限ヲ有ス

第七條　〔自由地トナリタル財產ノ負擔トナレル債務、遺贈、采邑權、年金等ノ支拂ノ保證ニ關スル規定、上記ノ保證ナキトキハ該財產ヲ自由地トナスコトヲ禁ス〕

第八條　土地、動產又ハ資本ニ對スル本法ノ適用ニ關シテ起ル凡テノ爭議ハ第九條ニ揭ケタル高等小作地委員會ニ依リテ裁決サルルヲ要ス

第九條　小作地委員會ハ五名ノ委員ヨリナリ中三名ハ政府之ヲ任命シ他ノ二名ハ關係財產占有者ニ依リテ選出セラル該委員ノ決議ハ二名以上ノ同意アルトキハ五名ノ委員ヨリ成ル小作地高等委員會ニ之ヲ提出スルコトヲ得該上級委員會ノ委員長ハ高等法院ニ依リテ同院中ヨリ選出サレ委員ノ二名ハ政府ニ依リ他ノ二名ハ財產占有者ニ依リ各々司法大臣ノ設ケタル規定ニ從ヒテ任命セラル

〔上記ノ兩委員會ノ職務ニ關スル規定之ニ續ク〕

第十條　〔占有者カ財產ヲ自由地トナス權利ヲ行使セントスル以前ニ自己ノ財產ニ適用サルル本法ノ凡テノ條件ヲ知ラントスル要求ヲ許可スル規定〕

第十一條　〔第一條ニ揭ケタル權利ヲ適用スル期間ヲ千九百二十年ト定メタル規定〕

〔其ノ翌年ニ於テハ該權利ハ國庫ニ對スル支拂ヲ夫々三割及二割五分宛增額スル條件ノ下ニ復舊セシメラル其ノ後ニ於テハ自己ノ財產ヲ自由地トスル權利ヲ行使セサリシ占有者ハ若シ其ノ財產カ直系卑屬相續權附ナルトキハ其ノ價格ノ一分二厘ヲ其ノ他ノ場合ニ在リテハ其ノ一分ヲ年々國庫ニ支拂フ義務ヲ有ス此金額半年毎ニ支拂ハレ且第二條ニ揭ケタル基金中ニ之ヲ組入ルルヲ要ス〕

昭和二年十二月二十日印刷
昭和二年十二月二十三日發行

農林省農務局

印刷所　東京市京橋區鈴木町二番地
東亞印刷株式會社

印刷者　東京市京橋區鈴木町二番地
石丸祐正
電京橋二二四五番

産153

昭和八年二月

諸外國ニ於ケル自作農地ニ關スル法律（其ノ二）

農林省農務局

凡例

本調査ハ自作農創設維持ニ關スル參考資料トシテ最近獨逸ニ於ケル地代銀行及內地移住奬勵ニ關スル法律及愛爾蘭ニ於ケル土地法ニ付調査セルモノニシテ昭和二年農務局調査ノ「諸外國ニ於ケル自作農地ニ關スル法律(其ノ一)」ノ續編トシテ印刷セリ

贈呈
寄
村上竜太郎殿

目次

第一章　獨逸ニ於ケル自作農地創設ニ關スル法律……一

第一　地代農地ニ關スル法律……一

「プロシヤ」地代銀行ノ沿革及概要……一

（一）　一九二七年十二月二十九日「プロシヤ」地代銀行法……一五

（二）　一九三一年七月三十一日「プロシヤ」地代銀行法ノ改正ニ關スル法律……三四

（三）　一九三一年七月三十一日改正ノ「プロシヤ」地代銀行法（一九三一年八月一日）告示……四六

第二　移住奬勵ニ關スル法律……六四

（一）　一九三一年五月三十一日農業移住奬勵法……六四

（二）　一九三一年七月三十一日移住奬勵ニ關スル法律……六八

第二章　愛爾蘭ニ於ケル法律、法律ノ沿革及其ノ概要……七一

愛爾蘭ニ於ケル自作農地ニ關スル法律……七一

第一　一九二三年ノ土地法……七七
第二　一九二七年ノ土地法……一三六

第一章　獨逸ニ於ケル自作農地創設ニ關スル法律

第一　地代農地ニ關スル法律

「プロシヤ」地代銀行ノ沿革及概要

「プロシヤ」地代銀行ハ一九二七年十二月二十九日附ノ法律ニヨリテ基礎ヅケラレ其ノ創立ハ一九二八年一月十一日ヨリ一九二八年二月一日迄ノ規定ニヨリ行ハレタ。新銀行ノ組織ハ合理的デアリ其ノ活動ハ通貨膨脹ニヨリ破壞サレタ從來ノ植民金融ニ再ビ資金調達ノ途ヲ與ヘタ。「プロシヤ」地代銀行ノ主任務ハ地代債券ヲ發行シ之ニヨリ農業植民ノ長期金融ヲ調達スルニアルガ、尙地代銀行ハ相續賠償地代ノ解除ニモ助力スル。一九二八年五月二十九日ノ規則ハ舊「プロシヤ」各州ノ地代銀行ヲ廢止シ更ニ「プロシヤ」國ヲ區域トスル新地代銀行ヲシテ舊各州地代銀行ノ發行セル地代債券ノ換算ヲ行ハシメタ。又地代銀行ハ植民地地代農場ノ創設ノ爲ニ創設貸付金ノ許可ヲモナシ得ルノデアル。

本來ノ地代銀行主義ハ「プロシヤ」農民解放ノ行ハレル土地ニ關スルモノデアッテ農民解放ノ際ニ負フ過重ナル土地負擔ノ解除コソ其ノ設立ノ根本的目的デアッタ。一八九一年ニ漸ク農業植民ノ金融事業ヲ開始シ、一八九六年ニ相續賠償地代ノ解除ヲモ行フニ至ッタ。

農民戸主ニ其ノ占有スル土地ノ所有權ヲ授與スル權利ヲ認メヤウトスル一八〇七年ノ「スタイン、ハルデンベルヒ」勅令及爾後ノ諸法令ハ農民ノ領主ニ對スル隷屬關係ヲ完全ニ解決シ得ナカッタ。即チ尚土地ヲ自由ニ利用スル場合ノ障害トナル過超ナル賦役、租稅及ビ義務等ガ殘ッタ儘デアッタ。然シ一八四八年ノ事變後、一八五〇年ノ法律ハ土地負擔ノ解除、及ビ農民領主關係ノ調停ニ關スル規定ヲ設ケタ。卽チ本法ニハ金錢地代及ビ金錢地代ノ解除額ヲ計算スルニ基礎トナル各個人ノ負擔ノ金錢價値ノ確定ニ關スル事項ヲ規定シテ居ル。コノ土地負擔ノ解除ヲ實行スル爲ニ、當時發布サレタ「プロシヤ」州土地負擔解除ニ關スル法律ニヨリ、地代銀行ガ設立サレタノデアル。（但シ土地負擔ニ關シ「フランス」ノ法規ニ從フ「ライン」川以西ノ地方ハ除外ス）。最近ノ各州銀行ニハ債務者ガ債權者ヘ解除金トシテ支拂フベキ資金ニ不足スルガ如キ場合ニハ其ノ權利關係ノ完全且ツ迅速ナル解決ヲ計ルベキ任務ガアッタ。卽チ銀行ハ債務者ニ代リ地代ノ總計額ヲ抽籤式地代債券デ債權者ニ支拂ヒ、債務者ハ其ノ代價トシテ一定ノ地代ヲ地代銀行ニ支拂ハネバナラヌ。此ノ地代ニハ四十一年一ケ月、五十六年一ケ月、又ハ六十年六ケ月（地代ノ種類ニヨリテ異ル）ニ割當ラレタ年賦償還金ガ含マレテ居ル。此ノ地代債券ハ廣汎ナル各種ノ方法ニ依ッテ保證サレテ居ル。卽チ地代銀行地代ノ物權的保證、强制競賣ノ場合ニ於ケル私法上ノ總テノ債權ニ對スル優先權、萬一ノ場合ニ於テ爲ス行政上ノ强制手續ニ依ル州地方金庫ノ地代ノ徵收等ニ依ル國家ノ保證等ガ之デアル。

一八五〇年ノ法律ニ基キ地代銀行ガ當時ノ「プロシヤ」州（一八七七年以後「東プロシヤ」ト「西プロシヤ」ニ分離）ニ對シテハ「ケーニッヒ、ベルヒ」ニ、「ブランデンブルグ」州（最後ニハ「ベルリン」州）ニ對シテハ「ベルリン」ニ、「シュレヂーン」州ニ對シテハ「ブレスラウ」ニ、「ポンメルン州」ニ對シテハ「ステッチン」ニ、「ポーゼン」州ニ對シテハ「ポーゼン」ニ、「ザクゼン」州ニ對シテハ「マクデブルグ」ニ、「ヴエストフアーレン」及ビ「ライン」州ノ右岸地方ニ對シテハ「ミユンスター」ニ設立サレタ。同ジク一八六〇年ニハ「ホーエンツォーレルン」地方ノ地代銀行ガ設立サレ同時ニ業務ヲ開始シタ。一八六六年ニ「プロシヤ」ニ割當テラレタ地域ニ地代解除ノ立法ガ擴張サレテ更ニ地代銀行ヲ設立スルノ必要ニ迫ラレソノ事務ヲ舊銀行カラ引受ケタ（マクデベルヒ銀行ノ業務擔當）、「シュレスヴイヒ、ホルスタイン」州ノ地代銀行（ステッチン銀行ノ業務擔當）ガ設立サレ、一八七二年ニ從前ノ「ヘルツオークトウム、ラウエンベルグ」ノ地代銀行ガ「ラーツエベルヒ」（一八八五年ヨリ「ステッチン」銀行ヘ業務移轉）ニ設立サレ、一八七六年ニ「ヘッセン、ナッサウ」州ノ地代銀行（「ミユンスター」銀行ノ業務擔當）ガ設立サレタ。一八九一年ニハ植民金融ニ關スル任務範圍ガ擴張サレ「ミユンスター」地代銀行ノ地代農場金融ニ關スル權限ハ「ライン」州ノ「ライン」川左岸地方及ビ「ホーエンツォーレルン」地方ニ迄擴張サレタ。一九一四年ノ大戰開始直前ニハ解除サレタ地代ガ漸次償還サレ、「ブレスラウ」地代銀行ハ「ポーゼン」地代銀行ノ業務ヲ

引受ケ、次イデ「ベルリン」地代銀行ハ「ミユンスター」地代銀行ノ業務ヲ引受ケタ。

一八九〇―九一年ニ地代銀行法ガ制定サレ、地代銀行ガ農業植民ノ金融ト云フ新シイ而モ重要ナル任務ヲ持ツニ及ンデ廣大ナル面積ノ土地負擔ノ解除ガ行ハレタガ、一九二二年以來ハ地代銀行ハ通貨膨脹ノタメ全ク休業狀態ニ陷ツタ。一八九〇年十月一日ニ至ル迄ニ、土地負擔解除ノ爲、四億八千三百萬「マーク」ノ四分利附地代債券ガ發行サレ、同期ヨリ一九二二年迄ニ、同目的ノ爲、僅ニ四千七百萬「マーク」ガ發行サレテ居ルニ過ギナイ。一九二二年十月一日ニハ尙土地負擔解除地代ヲ負擔セル約六二〇、〇〇〇ノ地區數ガアリ、次ノ如キ狀況ニアル。

年地代額	三「パピーア、マーク」以下……四九・八五%	
同	三―二〇「パピーア、マーク」……三〇・一四%	
同	二〇―一〇〇「パピーア、マーク」……八・九九%	
同	一〇〇「パピーア、マーク」以上……二・〇二%	

同時ニ爾後ノ地代ヲ負擔セル地區數ハ減少シタガ（一九二九年ニハ五五二、〇〇〇）然シ其ノ地代負擔額ノ比率ハ變化シテ居ラナイ。從ツテ次ノ如キ事實ガ認メラレル。即チ土地負擔解除ニヨリ生ゼル地代銀行地代ノ九八%ガ一九二八年五月二十九日附ノ舊地代銀行ノ廢止ニ關スル規則、及ビ舊地代銀行地代債券ノ換算要求權ニ關スル規則第五條第一項ノ規程ニ該當スルモノデアツテ一九三二年一月一日迄ニ、二五「ゴールド、マーク」迄ノ地代額及ビ、二〇〇「ゴールド、マーク」迄ノ元金額ガ即時强制償還サレル豫定デアルコトデアル。土地負擔ノ解除ヨリ生ゼル舊地代ノ大部分モ亦一九三二年一月一日迄ニ完濟サルベキ筈デアリ、コレヲ以ツテ「プロシヤ」ニ於テ領主、農民間ニ發生セル土地負擔ハ事實上消滅スルノデアル。唯序ヲ以テ附言シタキハ、今日尙「プロシヤ州ニ於テ農民ト敎會及學校トノ關係ヨリ生ゼル多數ノ土地負擔ガ未解除ノ儘ニ殘サレテ居ルコトデアル。新地代銀行法ニ於テハ土地負擔ノ解除ヲ主ナル目的トシテハ居ラナイガ、地代銀行ハ必要ニ應ジテ隨時土地負擔解除ノ仲介ニ立チ得ルノデアル。

一八五〇年三月二日ノ土地負擔ノ解除法律第九十一條ニヨリ、定額金錢地代ヲ支拂ヒ土地ヲ讓渡スル途ガ開カレタガ、然シ附則（三十年以下ノ契約解除期間ノ禁止、解除額ガ地代ノ二十五倍以下ナルコト）ガ障害トナツテ實際上ノ利用ハ中止スルノヤムナキ結果ニ終ツタ。一八九〇年七月二十七日ノ地代農地ニ關スル法律ハコノ障害ヲ除去シタ。即チ右法律ニ依ツテ地代ヲ支拂フコトニ依ル所有權ノ移轉ハ、再ビ自由契約ニヨツテ何時デモ行ヒ得ルコト、ナツタ。即チ地代ノ解除ニハ雙方ノ同意ヲ要スルガ其ノ期間ニハ制限ガナクナツタ。更ニ土地取得者ニ地代農地地區ノ經濟的獨立ヲ維持スルノ義務ヲ負ハシメ、或ハ其ノ地區ヲ讓渡シ又ハ分割スルニハ地代債權者ノ同意ヲ得ネバナラヌ義務ヲ負ハシムルコトモ出來タ。特ニ重要ナル規定ハ、地代農地ニ創設サレル土地ニハ、抵當權及ビ抵當債務ナキカ

或ハ抵當權及抵當債務ヲ消滅セシメタル上、地代農地ヲ設定スルコトヲ必要トスルコトデアル。以上ノ基本的規程ハ今日尚有效デアル。地代銀行ガ行ッタ地代農地創設金融ハ一八九一年七月七日附ノ地代農地創設奬勵ニ關スル特別法ニヨッテ實行サレタ。卽チコノ法律ニヨリ地代銀行ハ中小規模ノ地代農地ノ地代ヲ解除シ、且ッ地代農地取得者ニ地代農地創設ノ際ノ建築資金ノ貸付ヲモ行ッタ。

地代銀行ノ業務成績ニ依ッテ發行サレタ地代債券ヲ分類スルト左ノ如クデアル。

地代債券（單位千マーク）

	一九一八年以前	一九一八年以後	合計
四分利附土地負擔解除債券	五二八、九七三	六九九	五二九、六七二
四分利附 三分五厘利附 地代農地債券	三七、九六〇	八七七、八八五	（註）九一五、八四五
	二〇一、六七六	三、一九三	（註）二〇四、八六九
計	二三九、六三六	八八一、〇七八	一、一二〇、七一四
	一六	五四	七〇

三分五厘利附相續賠償債券

地代債券ハ通貨膨脹時代後ニ回收サレタモノト未回收ノモノトアッテ尙二億六千九百萬「ゴールド、マーク」ノ債券ガ未回收ノ儘流通シテ居ル。

（註）一九一八年以後發行サレタ額ヲ換算法律ニヨリ「ゴールド、マーク」ニ計算セルモノ

發行サレタ清算金錢地代債券ノ利率ハ、地代ニ算入サレテ居ル利率ト相違スルノデ、各州地代債券ノ換算ハ複雜且ッ困難トナッタ。卽チ舊地代銀行ガ引受ケタ地代ハ、當初元金ノ三・五—四・〇分ノ利子ト、ソレニ更ニ定額ニ非ザル元金償還額ヲ加ヘタモノデアッタ。從ッテ其ノ償還金年額、及ビ償還年限ニ著シイ相違ガアッタ。トコロガ新地代銀行ノ清算金錢地代債券ハ劃一的ニ四・五分利附トナスベキデアルカラ、右ノ種々ナル償還年額及ビ償還年限ハ、之ヲ假定上ノ元金ニ基イテ計算シ、以ッテ一定額ノ地代及ビ一定ノ償還年限デ而モ四・五分利デ償還セネバナラヌコトニナッタ。

金融市場ノ狀態ガ常態ニ復シテ居ナカッタ爲、最近マデ地代銀行ニ關スル諸法令ノ提出及通過ガ延引サレタノデアルガ、其ノ通過後ト雖モ尙舊地代銀行ヲ廢止シテ新地代銀行ニ引受ケルコトニ障碍ガアッタ。コノ困難アルガ爲ニ確定換算償還金ノ償還ヲ延期スルコト、ナッタ。コノ地代債券換算制度ニハ右ノ如キ償還延期ノ特權ガアリ、他ノ換算方法ト相異セルモノトナテ居ル。特ニ清算（舊地代銀行）ノ際、清算財産ノ分割方法ヲ修正シテ、完全ニ地代債券所有者ニ有利ナルガ如キ方法ガ考案サレテ居ル。分割シテ配當サレル金額ハ別トシテモ、現金デ賠償サレル割合ガ比較的ニ多ク、而モ其ノ額ガ配當額ノ五〇%ニモ達スル事ハ特筆スベキ事デアル。換算ニ當リ、六千一百七十萬「ゴールド、マーク」ノ清算分割財産ニ對シ二億五千三百萬「ゴールド、マーク」ノ舊地銀行

地代債券ガアツタ（ボーゼン地代債券ハ除外）。

地代銀行ニヨル農業植民ノ爲ノ長期金融調達ニ關スル業務ハ着々進捗シテ、八分利附ノ新地代債券ガ「ベルリン」株式市場ニ賣出サレタ。コノ地代債券ハ、植民請負業者（植民會社等）ガ、植民用ノ土地ヲ移住民ニ賣却シテ得タル債權ノ一定額（コノ額ヲ超過セル金額ハ一部ハ家屋稅ノ方法デ、殘リハ移住者ノ自辨ノ方法デ支拂フ）ニ付キ銀行ガ、一部ハ地代債券デ、一部ハ現金デ、植民請負業者ニ賠償スル仕組ニナツテ居ル。地代銀行ハコノ點ニ關シテ、植民請負業者ノ代理トナリ、移住者ノ債權者トナル。然シ植民請負業者ノ債權卽チ地代銀行ノ債權ハ、元金額トシテハナク、元金額ヲ基礎トシテ計算サレタル年「地代」トシテ表ハサレル。發行サレタ地代債券ノ割引ハ一般ニ「プロシヤ」國立銀行ガ植民請負業者ノ爲ニ之ヲ行フノデアル。移住者ノ支拂能力ノ範圍ヲ超過セザル樣、地代負擔額ヲ定メ、且地代債券ヲ現在ノ市場狀態ニ適應スル名義上ノ利率デ發行スルガ如キ組織ヲ考究スルコトハ極メテ難事デアル。移住者個人ノ繁榮ト植民計畫ノ進捗ノ爲ニハ、移住者ノ年負擔ハ其ノ收入ト適當ナル均衡ヲ保タシムルコトガ必要デアル。從ツテ地代農地所有者ノ每年ノ支拂ハ法律上定メラレタル保證限度內ニアル負債ノ五分ヲ超過セザルコトヲ必要トス。此ノ範圍內ニ止ムレバ農業不況ノ現時ニ於テモ償還ニ窮スルコトナク從ツテ支拂中止又ハ强制執行等ノ行ハル、コトモ亦極メテ稀デアル。

移住者ノ負擔ト地代債券ノ名目利率トノ間ノ不均衡ハ次ノ如クニシテ之ヲ除去スルノデアル。卽チ地代債券ノ名目利率ハ現在八分デアルガ移住者ノ年負擔モ同樣ニ八分利トシ且每年五厘ノ元金償還ヲナサシムルコト、スル。然ル時ハ當然移住者ノ年負擔ハ過重トナル筈デアル。ソレ故ニ之ヲ事實上賠償金全額ノ五分以內トスル爲、賠償金ノ五八・八二%ニ相當スル額ヲ地代債券ノ發行ニヨツテ賠償シ、殘リノ四一・一八%ヲ國家ノ仲介ニ依ツテ無利子ノ現金デ賠償スルコト、シ、移住者ノ年負擔ハ當初地代債券ニ依ル部分ノ利子支拂及ビ元金償還ノミニ止メ、地代債券ニ依ル部分ノ償還ヲ完了シタ後ニ於テ初メテ無利子デ現金デ融通サレタ部分ノ元利金償還ヲ行フ。而シテ其ノ利子ハ地代債券ニ依ルモノト同樣年八分、元金償還ハ每年五厘ノ割合デ爲スノデアル。卽チ移住者ハ地代ヲ六十九年四ケ月間ニ完濟スベキ筈デアルガ、其ノ中三十六年十ケ月ハ地代債券ノ利子支拂及ビ元金償還ノ爲ニ割當テラレ、殘リノ年數ガ其ノ時迄無利子デ据置カレタ國家ノ現金賠償額ノ利子支拂及元金償還ノ爲ニ割當テラレルノデアル。

尙新地代銀行ノ發行スル地代債券ハ州地代債券ニ就テ規定サレテ居ルト同樣ノ保證ガ規定サレ更ニ純金契約ニヨツテ其ノ保證ハ完全トナツタ。而シテ純金契約ヲ實行スル爲、新ニ規則ヲ必要トスルニ至リ一九二九年一月廿五日公布ノ回章ニ之ニ關スル規定ヲ設ケタ。卽チ地代債券ノ額面金額及利子モ地代銀行地代モ同樣「ゴールド、マーク」デ支拂ハレルノデアルガ、地代債券利子ノ支拂期ト地代ノ支拂

期トガ一致セヌ爲、金ニ換算セル「ゴールド、マーク」利子ニ一分以上ノ差額ヲ生ズル場合ニハ、地代銀行ハ同章第二條ニ基キ移住者トノ契約ニ依ツテ其ノ差額ノ追加要求權ヲ行使シ得ルノデアル。然シナガラ土地ノ狀態如何ニヨツテハ、移住者ハ此ノ規定ノ適用ノ排除ヲ要求シ得ルガ右ノ方針ニ從ツテ保證契約ヲ追加シテオクコトガ必要デアル。

地代解除ノ爲ノ地代債券ノ發行額ハ左ノ如キ額ニ達シテ居ル。

一九二八年四月一日迄……一・〇三(單位百萬)「ゴールド、マーク」
一九二八年七月一日迄……一・二（〃）「ゴールド、マーク」
一九二八年十月一日迄……三・四（〃）「ゴールド、マーク」
一九二九年一月一日……三・〇（〃）「ゴールド、マーク」
一九二九年一月一日迄ニ八分利附地代債券ヲ二千萬「ゴールド、マーク」株式市場ニ紹介シテ、總額八百六十萬「ゴールド、マーク」ノ債券ガ消化サレタ。而シテ消化サレタ債券ノ全部ガプロシヤ州ニ於ケルモノデ次表ノ如クデアル。

	地代債券流通高	地代農地地代資本額(五%)
シユレスヴイヒ、ホルスタイ	二、七五六、九〇〇「ゴールド、マーク」	四、六九四、二〇〇「ゴールド、マーク」
オストプロイセン	二、六一八、一〇〇〃	四、四五六、九〇〇〃
ブランデンブルク	一、三二三、四〇〇〃	二、二五一、六〇〇〃
シユレヂーン	七二五、一〇〇〃	一、二三四、一〇〇〃
ポンメルン	六四八、一〇〇〃	一、一〇四、四〇〇〃

地代銀行地代ヲ五分デ資本化シタ總資本額ハ全體デ一千四百六十萬「ゴールド、マーク」デアルガ、ソノ對價物トシテハ八百六十萬「ゴールド、マーク」ノ八分利附地代債券ト、六百萬「ゴールド、マーク」ノ國家ガ無利子デ賠償シタ現金賠償トガアル。

此ノ資本額ト長期金融ヲ受ケテ居ル地代農地ノ面積トヲ各州別ニ比較對照スルコトハ興味深イコトデアル。其ノ面積ハ次ノ如クデアル。

オストプロシア	八、四〇六「ヘクタール」
シユレスヴイヒホルスタイン	四、一〇九「〃」
シユレヂーン	二、八九〇「〃」
ポンメルン	二、二九三「〃」
ブランデンブルク	二、一四一「〃」

右ノ表ニヨレバ地代債券流通高ノ順位トガ著シク異ツテ居ル。地代銀行ノ金融ヲ受ケテ設定サレタ總面積ハ一九一九年一月一日迄ニ二〇、三〇〇「ヘリタール」ニ達シ其ノ地區

ハ一、二二一デアッテ、此等ノ農場ヲ規模ノ大小ニヨリ分類スレバ次ノ如クデアル。

地區ノ面積	地區數
一〇―二〇「ヘクタール」	四九八
五―一〇「ヘクタール」	二二五
二〇―五〇「ヘクタール」	一八八

地代債券ニ付テハ地代銀行法ノ準備及討議期間中各方面カラ論爭セラレ中ニハ地代債券ハ戰前ノ流通狀態ヲ參照シテ植民ノ爲ノ長期信用調達ニ不適當ダトノ論モアッタ。然シナガラ戰前ニ於ケル地代債券流通增加ノ實情ヨリ見テ本制度ハ極メテ合理的デアッタコトハ多言ヲ要シナイ。卽チ戰前ニ於ケル「プロシヤ」地代債券ノ流通ハ概シテ、他ノ總テノ同樣ナル利子附有價證券ニ比シテ好成績デアッタ。各州ノ有價證券（地代債券、土地金融組合債券、不動產抵當債券）ヲ相互ニ比較シテ見ルニ多クノ場合地代銀行ニ有利デアル。四分利附ノ所謂「プロシヤ」地代債券、「ヴエストプロシヤ」「オストプロシヤ」新土地金融組合債券、土地金融組合中央債券ヨリモ優レテ居タバカリデナク三分五厘附有價證券ノ場合デモ地代解除ノ機會ノ多イ所デハ、地代債券ハ同ジ州デ發行サレタ土地金融組合債券ニ比シテ有利ニ流通シ、繼續的ニ非常ナル歡迎ヲ受ケタコトハ明デアル。又海外取引ハ引取所ニ於テ何等ノ困難モナク、常ニ圓滑ナル流通狀態ヲ保チ得タノデアル。

右ノ一九二七年ノ地代銀行ハ其ノ實施ノ實情ニ鑑ミ一九三一年ニ改正ヲ見ルニ至ッタ。其ノ骨子トスル所ハ次ノ如クデアル。

（一）地代債券ノ利率、地代及ビ其ノ償還年限。一九二七年ノ法律ニヨル地代債券ノ利率ニハ年利四分五厘（賠償ガ地代ノ二十二倍九分ノ二デ行ハレタ場合）ノモノト五分（賠償ガ地代ノ二十倍デ行ハレタ場合）ノモノト二種ガアリ前者ノ場合ニ於ケル土地取得者ノ地代銀行ヘ支拂フベキ年地代ハ賠償金ノ五分相當額ニシテ其ノ償還年限ハ五十二年四ケ月、後者ノ場合ハ五分五厘ニシテ其ノ償還年限ハ四十九年二ケ月デアッタ。（第七條、第八條）。改正法ニ於テハ右ノ年地代ヲ一律ニ賠償金額ノ五分トシ償還年限ハ七十年以內ニ於テ適當ニ考慮スル事トナッタ。（改正法第十三條ノ（二）（三））。

（二）地代銀行ニ對スル國家ノ干涉及補助。改正法ニ於テハ地代銀行ノ主席理事ニ官吏トシテノ資格ヲ與ヘ（改正法第七條ノ（一））以ッテ地代銀行ノ業務ニ關シ積極的統制ヲ試ミ、又貸借對照表ニ現

ハル、缺損補塡ノ爲ニ國家ガ仲介シテ融通スル五百萬「ライヒスマーク」ニ增額シタ。（改正法第五條）。

（三）其ノ他。將來ニ於テ地代農地用植民地ナル事ガ證明サレタルモノニ就テ融金スルガ如キ事業範圍ノ擴張（改正法第十七條二項）。及ビ地代解除ニ際シ、地代債券賠償ト、現金賠償トノ兩者ヲ同時ニ行ヒ、地代銀行ガ現金賠償ノ爲ノ資金ニ缺乏スル時ハ大藏大臣ハ無利子ニテ其ノ資金ノ一部ヲ引キ受ケ（改正法第七條二項）コノ資金ニヨリ土地取得者ノ支拂フ年地代額ヲ賠償額ノ五分ヲ超過セザルガ如ク斟酌スルコト等モ改正ノ重要ナル事項デアル。

（二）一九二七年十二月二十九日「プロシヤ」地代銀行法

第一章　プロシヤ地代銀行

第一條　（一）農業移住奬勵ノ爲メ「普國地代銀行」ナル名稱ノ公法上ノ營造物ヲ「ベルリン」ニ設立ス、地代銀行ハ無記名債券（地代債券）ヲ發行シ其ノ利子ノ支拂及元金ノ償還ハ地代農地地代（地代銀行地代）ヲ以テ之ニ當ツ

（二）設立ノ時期ハ政府ノ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二條　國家ハ地代債券ノ發行ニ依リ生ズル地代銀行ノ義務ノ履行ヲ保證ス、國家ハ地代銀行ニ對シ必要ナル營業資金ヲ供給ス

第三條　（一）地代銀行ノ業務ハ本法ニ於テ土地開拓局ニ委任ナキ限リ地代銀行理事之ヲ行フ、右ノ業務範圍內ニ於テハ理事ハ裁判上及裁判外ノ事件ニ關シ地代銀行ヲ代表ス

（二）地代銀行理事ハ大藏大臣及農林大臣ニ從屬スル官廳トス

（三）理事ノ數及理事ノ補助者ノ數ハ國庫財政計畫ニ依リ之ヲ定ム、理事ノ內少クトモ一名ハ裁判官タル資格ヲ有スルモノタルコトヲ要ス

第四條　地代徵收及手續ニ關シテハ土地開拓官廳ハ裁判上及裁判外ノ事件ニ就キ地代銀行ヲ代理シテ

其ノ業務ヲ執行スル義務ヲ有ス

第二章　地代農地地代解除ノ仲介

第五條　(一)　中小地代農地（移住地代農地）ノ負擔スル地代農地地代ノ解除ハ兩當事者ノ同意アル場合ニ限リ當事者ノ申請ニ基キ地代銀行之ヲ仲介スルコトヲ得

(二)　地代銀行ノ仲介ハ左ノ方法ニ依ルモノトス卽チ地代銀行ハ地代權利者ニ對シ其ノ讓渡セル地代農地地代賠償スル爲ニ地代債券ヲ交付シ、地代農地所有者ヨリ地代債券ノ利子支拂、元金銷却ニ必要ナル地代銀行地代ヲ取立ツルモノトス

第六條　地代銀行ノ仲介ヲ申請スル場合ハ左ニ依ルモノトス

(イ)　地代權利者ガ地代農地所有者ヨリ地代農地地代ヲ解除スルコトヲ請求シ得ル場合ハ地代權利者ヨリ

(ロ)　地代農地所有者ガ地代農地地代解除ニ關シ地代權利者ノ承諾ヲ要セザル場合又ハ地代農地所有者ガ自己ニ歸屬スル解除請求權ヲ行使セムトスル場合ニ於テハ地代農地所有者ヨリ

第七條　地代權利者ノ賠償トシテ受領スルモノハ額面金額ガ地代ノ二十二倍九分ノ二ニシテ四分五厘利附ノ地代債券又ハ額面金額ガ地代ノ二十倍ニシテ五分利附ノ地代債券トス但シ此等ノ債券ニ依リ難キ場合ハ現金ニ依ルモノトス

第八條　(一)　地代農地所有者ハ地代銀行ニ對シ地代引受（第二十條）ノ日ヨリ地代銀行地代ノ支拂ヲ爲スコトヲ要ス

(二)　地代銀行地代ノ年金額ハ左ノ如シ

(イ)　賠償トシテ四分五厘利附地代債券ヲ交付シタル場合ハ地代債券ノ額面金額及補足現金額ノ百分ノ五・五

(ロ)　賠償トシテ五分利附地代債券ヲ交付シタル場合ハ地代債券ノ額面金額及補足交付現金額ノ百分ノ五・五

(三)　地代農地所有者ハ百分ノ五ノ地代ヲ五十二年三分ノ一、百分ノ五・五ノ地代ヲ四十九年六分ノ一ノ期間ニ支拂フコトヲ要ス

第九條　(一)　地代銀行ハ解除セムトスル地代ニ對シ其ノ地代農地ノ上ニ存スル私法上ノ他ノ債權ニ優先スル權利ヲ有スル場合ニ限リ其ノ地代ノ解除ヲ仲介スルコトヲ得地代銀行地代ハ本條ノ債權ト見做サズ

(二)　（省略）

第十條　(一)　地代銀行ノ仲介ハ引受クベキ地代銀行地代ニ對シ適當ナル擔保ノ存在スル場合ニ限リ之ヲ認ム

（二）賠償トシテ交付スル地代債券ノ額面金額ト補足現金交付金額トノ合計額ガ土地金融組合ノ査定又ハ特別ノ方法ニ依リ査定シタル地代農地ノ評定價格ノ四分ノ三ヲ超エザル場合ハ擔保アルモノト認メ得

（三）雇傭勞働ヲ要セズ又ハ殆ンド要スルコトナクシテ經營シ得ル程度ノ面積ノ地代農地ノ場合ニ在リテハ賠償トシテ交付スル地代債券ノ額面金額及補足交付現金額ガ前項ノ評定價格ノ十分ノ九ヲ超エザル場合ニハ擔保アルモノト認メ得

（四）特別ノ評定價格（第二項及第三項）ハ開拓署長ガ二人ノ地方委員ノ補佐ニ依リ之ヲ決定ス、建物ノ評價ヲ要スル場合ハ更ニ一名ノ建築專門家ノ協力ヲ得テ決定ス、簡易ニシテ且明瞭ナル場合ハ開拓署長ハ自己ノ判斷ニ依リ公定價格ヲ決定シ又ハ他ノ適當ナル方法ニ依リ擔保ノ確證ヲ爲スコトヲ得

第三章　解除シ得ザル地代農地地代ノ讓渡

第十一條（一）移住地代農地（第五條）ニ附着スル地代農地地代ガ兩當事者ノ同意アルニ非ザレバ之ヲ解除シ得ザル場合ニ於テハ地代銀行ハ地代權利者ノ申請ニ基キ第七條ノ規定ニ準ジテ計算シタル賠償ヲ地代權利者ニ支拂ヒ其ノ代償トシテ地代ヲ讓受クルコトヲ得

（二）地代銀行ノ地代讓受ニ依リ地代權利者ガ地代農地契約ニ依リ有スル總テノ權利ハ地代ト共ニ國家ニ移轉ス

（三）地代ノ讓受アリタル後ハ地代農地所有者ハ從來ノ地代ノ代リニ第八條ノ規定ニ依リ計算シタル地代銀行地代ヲ地代銀行ニ支拂フモノトス

（四）地代讓受ニ關シテハ第九條及第十條ノ規定ヲ準用ス

第四章　貸付金ノ許可

第十二條（一）地代銀行ハ移住地地代農地（第五條）ノ創設及最初ノ設備ノ爲ニ地代農地所有者ニ對シ借入申請（創設貸付）ニ基キ四分五厘利附又ハ五分利附ノ地代債券ヲ其ノ額面金額ヲ以テ交付スルコトヲ得

（二）創設貸付金ノ利拂及元金償還ハ第八條ノ規定ニ準ジテ計算シタル地代銀行地代ノ支拂ニ依ルモノトス

（三）第九條及第十條ノ規定ハ創設貸付金ノ許可及其ノ代償トシテ引受ケタル地代銀行地代ニ付之ヲ準用ス

（四）創設貸付金及其ノ代償トシテ引受ケタル地代銀行地代ガ第十條第二項及第三項ノ規定ニ依ル擔保限度ヲ超過スル場合ニ於テ其ノ擔保限度ヲ超過スル部分ニ對シ國內ニ他ノ農地ヲ所有スル者ガ債務者ト連帶保證ヲ引受ケ其ノ所有スル土地ヲ地代銀行ニ擔保トシテ提供スル場合ニハ擔保ガ

存在スルモノト認メ得、其ノ擔保ハ第十條ノ規定ニ依ル評定價格ノ半額以内タルヲ要ス

第十三條　（一）一八九〇年六月二十七日附地代農地ニ關スル法律（法令全集二〇九頁）第一條第一項ニ依ル定額金錢地代讓受ノ代償タル土地ガ移住地ニ分割スル目的ヲ以テ購入シ且移住地地代農地創設ニ際シ購入者（地代農地提供者）ノ申請ニ基キ土地開拓局ガ仲介セル場合ニハ地代銀行ハ申請ニ依リ（地代農地提供者ニ對シ）地代農地創設完成ノ爲ニ四分五厘又ハ五分利附ノ地代債券ノ額面金額ヲ以テ貸付金ノ許可ヲ爲スコトヲ得

（二）移住地貸付金ノ利拂及元金鎖却ハ第八條ノ規定ニ準ジ計算シタル地代銀行地代ノ支拂ニ依ルモノトス

（三）第九條及第十條ノ規定ハ移住地貸付金ガ第十條ノ規定ニ依ル評定價格ノ半額以下ナル場合ニ於テ移住地貸付ノ許可及其ノ代償トシテ讓渡サレタル地代農地地代ニ付之ヲ準用ス

（四）移住地地代農地ノ創設ニ際シ其ノ土地ノ上ニ地代銀行地代ノ存在スル場合ハ土地開拓局ハ其ノ地代ヲ各個ノ移住地地代農地ニ分割ス、個々ノ移住地地代農地ニ分割セラレタル部分地代ノ擔保確保ニ關シテハ第十條ヲ適用ス

第五章　相續賠償地代ノ解除ニ關スル仲介

第十四條　一八九六年六月八日附ノ地代農地及移住農地ノ相續權ニ關スル法律第二十條、第二十一條及第三十三條ニ依リ確定セル相續賠償地代ハ關係者ノ申請ニ依リ地代銀行其ノ解除ヲ仲介スルコトヲ得

第十五條　地代ノ權利者ハ賠償トシテ額面金額ガ相續賠償地代ノ二十二倍九分ノ二ニシテ四分五厘利附ノ地代債券又ハ相續賠償地代ノ二十倍ニシテ五分利附ノ地代債券ノ交付ヲ受ク、債券ヲ以テ賠償シ得ザル場合ニ限リ現金ヲ以テス

第十六條　（一）總括相續人ハ地代引受（第二十條）ノ時ヨリ地代銀行ニ對シ地代銀行地代ヲ納付スルコトヲ要ス

（二）地代銀行地代ハ

（イ）賠償トシテ四分五厘利附地代債券ノ交付アリタル場合ニハ地代債券ノ額面金額及補足現金額ノ百分ノ六

（ロ）賠償トシテ五分利附地代債券ノ交付アリタル場合ニハ地代債券ノ額面金額及補足現金額ノ百分ノ六・五トス

（三）總括相續人ハ百分ノ六ノ地代銀行地代ヲ三十一年半又ハ百分ノ六・五ノ地代銀行地代ヲ三十年一ケ月間納付スルコトヲ要ス

第十七條　相續賠償地代ノ解除ノ場合ノ地代銀行ノ仲介ニ關シテハ左ノ各號ノ規定ニ依ルノ外第十條

第一項及第二項ノ規定ヲ準用ス

一、裁判上ノ相續協定ニ當リ地代銀行ニ對シ相續賠償地代ノ引受ノ申込ヲ爲ス場合ニ於テハ協定手續完了後地代解除手續開始ノ爲必要ナル一件書類ヲ開拓署長ニ提出スベシ

二、地代銀行地代ノ擔保ノ審査ニ當リテハ評定價格ノ代リニ計算價格（一八九六年六月八日附地代農地及移住農地ノ相續權ニ關スル法律―法令集一二四頁―第十七條及第二十四條第四項）ヲ用フ

三、相續農地ノ上ニ存スル負債ノ爲ニ地代銀行地代ニ必要ナル擔保ノ存セザル場合ニ於テハ地代銀行ハ當事者ノ申請ニ基キ該負債ノ返濟ノ割合ニ應ジ逐次相續賠償地代ノ解除ヲ仲介スルコトヲ得

第六章　地代引受手續

第十八條　（一）本法第六條、第十一條乃至第十四條ノ規定ニ依ル申請ハ土地開拓署長ニ之ヲ爲スベシ

（二）地代引受手續ノ開始アリタルトキハ開拓署長ハ登記所ニ囑託シテ其ノ地代銀行地代ノ引受ニ關スル事項（擔保順位記載）ヲ登記スベシ、擔保順位記載アリタルトキハ地代引受後ノ地代銀行地代ハ地代引受ガ既ニ擔保順位記載登記ノ時期ニ行ハレタルト同一ノ順位ニ立ツモノトス

（三）手續進行中ニ於テ引受ガ第九條及第十條ニ該當セザルコトガ分明セルトキハ開拓署長ハ其ノ申請ヲ却下スベシ、擔保順位記載ノ抹消ハ開拓署長ノ囑託アル場合ニ限リ之ヲ行フ

（四）地代引受手續ニ付テハ尚市町村所屬地分割ニ付適用スル規則ヲ準用ス、開拓署長ハ地代銀行ノ權利ヲ職權ヲ以テ行使スルコトヲ要ス

第十九條　（一）地代引受手續ガ地代農地ノ創設ト結合スル場合ニ於テハ左ノ規定ヲ適用ス

（二）地代農地ノ創設ハ當事者一方ノ申請ニ基キ土地開拓官廳ノ仲介ニ依リ之ヲ行フ

（三）地代農地ノ創設ニ關シ法律及事實上疑義ノ存セザル限リ開拓署長ハ地代農地創設手續ヲ開始ス、手續開始ハ之ヲ當事者ニ通告ス、開拓署長ハ地代農地ノ創設ニ關スル契約ト之ニ連關スル地代引受ニ關スル契約トヲ同時ニ作製ス、土地開拓局長ノ認可シタル契約ハ囑託ニ依リ登記所ニ移送シ土地取得者ヲ所有權者トシテ登記ス、此ノ場合ニ於テ所有權ハ登記簿ニ登記スルコトニ依リ移轉ス

（四）地代農地ニ關スル第三項ノ手續後開拓署長ハ直ニ登記所ニ囑託シテ登記簿ニ地代農地創設ニ關スル登記（地代農地ノ融通性停止登記）ヲ爲スコトヲ要ス、地代農地ノ融通性停止登記ノ效力ハ以後ニ登記シタル私法上ノ負擔ハ地代農地引受者ニ對シ無效トシ且開拓署長ノ承諾ヲ經ズシテ爲シタル所有者ノ土地讓渡ハ之ヲ無效トス、地代農地ノ融通性停止登記ノ抹消ハ開拓署長ノ囑託アル場合ニ限リ之ヲ爲ス

（五）手續ニ關シテハ左ノ各號ノ規定ノ適用アルノ外市町村所屬地分割ニ付キ適用アル規定ヲ準用

ス

（イ）開拓署長ハ地代銀行ノ權利ヲ職權ヲ以テ行使スルコトヲ要ス

（ロ）不動產讓渡ニ付自由意志ニテ讓渡シ得ル資格ヲ有スル者ハ誰ニテモ契約通ノ地代農地創設ヲ適法ニ爲シ得ルモノトス

（ハ）地代農地ノ創設及地代銀行地代ノ引受ニ必要ナル登記ハ土地開拓局ノ囑託アル場合ニ限リ之ヲ行フ

第二十條（一）第十八條及第十九條ノ規定ニ依リ確定セル契約ニ基キ地代銀行理事ハ地代銀行地代ヲ地代銀行ニ引受ク

（二）引受ハ一月、四月、七月、十月ノ各初日ニ之ヲ行フコトヲ得

第二十一條　第十九條ノ規定ハ地代農地創設ガ當事者ノ申請ニ基キ土地開拓局ノ仲介ニ依リテ行ハレル場合ニ付之ヲ準用ス

地代引受手續ガ之ト結合シテ行ハレザル場合ニ付之ヲ準用ス

第七章　地代銀行地代

第二十二條　本法ニ別段ノ定ナキ限リ地租ニ關シ適用アル帝國法律ノ各規定ハ地代銀行地代ニ付キ之ヲ準用ス

第二十三條（一）地代銀行地代ハ年四期ニ分割シテ地租ト共ニ納付スルコトヲ要シ稅務署ハ之ヲ國ノ地方金庫ニ引渡ス

（二）移住地貸付金ノ許可（第十三條）ニ依リテ生ジタル地代銀行地代ハ之ヲ移住地地代農地ニ分割スルニ至ル迄ハ四期分納ノ每期負擔額ヲ直接地代銀行ノ金庫ニ納付スルコトヲ要ス

第二十四條（一）地代銀行地代ハ其ノ登記ナキモ第三者ニ對スル對抗力ヲ有ス

（二）然レドモ登記所ハ土地開拓局ノ申込アルトキハ地代引受後地代銀行地代ノ額及償還期限ヲ登記簿ニ登記スルコトヲ要ス

第二十五條（一）地代銀行地代ハ強制徵收手續ニ依リ徵收スルコトヲ得

（二）地代銀行地代土地ニ對スル請求權ニ付公租ト同樣ニ見做サル本規定ハ地代銀行地代ガ他ノ負債ニ對シ優先權ナキ場合ハ適用ナキモノトス

第二十六條（一）地代義務者ハ地代債券ノ流通殘存期間中ノ利拂及元金償還ニ必要ナル金額ヲ地代銀行ニ支拂フコトニ依リ地代銀行地代ノ將來ノ支拂義務ヲ免ゼラルルモノトス（元金償還）元金償還ハ地代銀行地代ノ一部ニ付テモ有效トス、主務大臣ハ地代銀行地代ノ償還各年度ニ於ケル地代負擔總額ヲ銷却スルニ要スル元金償還金額ノ判明セル償還表ヲ作製ス

（二）元金償還ハ六箇月以前ノ豫告アル場合ニ限リ之ヲ認ム、豫告ハ每年地代銀行地代引受ノ期日ニ之ヲ許可シ六箇月以後ノ期日ニ償還ヲ受領ス、地代銀行地代引受後十年間以內ニ於テ爲ス元金

償還ニ付テハ開拓署長ノ同意ヲ要ス

（三）元金償還ハ義務者ガ期日迄ニ支拂フベキ地代ノ支拂ヲ完濟シタル場合ニ限リ之ヲ認ム

（四）支拂通知ハ開拓署長ニ、元金償還ノ支拂ハ州地方金庫ニ之ヲ爲スベシ但シ第二十三條第二項ニ準ジ直接地代銀行ノ金庫ニ支拂フコトヲ妨ゲズ

（五）主務大臣ハ小額地代ニ對スル元金償還ニ付一定金額以下ヲ除外スル旨ヲ規定スルコトヲ得

第二十七條（一）左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ地代銀行ハ地代義務者ニ對シ卽時元金償還ヲ求ムルコトヲ得

（イ）地代農地所有者又ハ第三者ガ地代農地ヲ損傷シテ地代銀行地代ノ擔保ヲ害スル虞アルガ如キコトヲ爲ス場合

（ロ）地代農地所有者ガ建物ノ適當ナル管理及保險ノ爲ニ開拓署長ノ課シタル賦課ヲ履行セザル場合

（ハ）地代農地所有者ガ破產シ又ハ强制執行ニ依リ未償還地代銀行地代ノ支拂ヲ督促スベキ場合或ハ其ノ土地ノ法律上ノ强制競賣ガ行ハルル場合

（ニ）地代農地ノ所有權ガ地代農地所有者ノ正妻又ハ子孫以外ノ人ニ移轉スル場合

（二）第十二條第四項ニ依リ地代銀行地代ノ一部ニ對シ引受ケラレタル保證ノ確保ノ爲他ノ土地ニ

抵當權ノ設定アル場合ニ於テ其ノ抵當權ノ設定アル土地ガ法律上ノ强制競賣ニ附セラルル場合ニ於テハ地代銀行ハ其ノ抵當ニ依テ保證セラルル地代銀行地代ノ一部分ノ卽時元金償還ヲ請求スルコトヲ得

（三）移住地貸付金ノ許可（第十三條）ニ依リ生ジタル地代銀行地代ニ付キ土地開拓局ガ移住地地代農地ノ創設ノ仲介ヲ中止シタル場合ニハ地代銀行ハ卽時元金償還ヲ請求スルコトヲ得

第二十八條（一）地代銀行地代ノ支拂ハ地代農地所有者ノ申請ニ依リ地代引受後（第二十條）最長期三箇年間之ヲ猶豫スルコトヲ得、地代銀行ノ受クル欠損ハ地代債券及補足現金ノ利息ヲ猶豫スル爲ニソレ丈元金ハ增額シ其ノ增額シタル總額ヲ第八條ノ規定ニ依リ計算シタル地代銀行地代トシテ五十二年三分ノ一又ハ四十九年六分ノ一ノ期間ニ支拂フ方法ニ依リ之ヲ補塡スルモノトス

（二）前項ノ規定ハ地代銀行ノ仲介ニ依ル相續賠償地代（第十五條）ノ解除ニ因テ生ジタル地代銀行地代ニ之ヲ適用セズ

第二十九條（一）地代銀行地代ガ地代農地ノ上ニ存スル期間內ハ開拓署長ノ承諾アル場合ニ限リ地代農地ノ自力經營ノ廢止、其ノ分割及一部讓渡ヲ爲スコトヲ得

（二）地代農地及移住農地ノ一子相續ニ關スル一八九六年六月八日附ノ法律（法令集一二四頁）ノ關係規定ハ尙效力ヲ有ス

第三十條　（一）　地代銀行地代ヲ負擔スル土地ガ分割セラルル場合ニ於テハ地代銀行地代ハ各分割地區ニ之ヲ割當ス、帝國評價法ノ原則ヲ適用シテ單位面積價格ヲ決定シ之ニ基キ分割地區ノ價格ヲ評定シ此ノ評定價格ヲ地代割當ノ標準トス

（二）　分割ハ當事者及開拓署ニ示サレタル分割計畫ニ基キ地籍局之ヲ行フ、分割ニ對シ當事者及開拓署ハ通知後二週間以內ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得、異議ノ申立ニ關シテハ州知事之ヲ裁決ス

（三）　分割ニ當リ分割地區ニ五マーク未滿ノ地代銀行地代ガ割當テラルル場合ニ於テハ開拓署長ハ其ノ小額地代ニ付キ卽時元金償還（第二十六條）ヲ請求スルコトヲ得

第八章　地代債券

第三十一條　（一）　地代債券ハ地代銀行理事之ヲ發行ス

（二）　利子ノ支拂ハ爾後半年毎ニ行フ、其ノ支拂期日ハ一月一日及七月一日又ハ四月一日及十月一日トス

（三）　地代債券ノ所持人ハ解約豫告權ヲ有セズ

第三十二條　地代債券ノ樣式及分割ニ關スル細則、利札及更改證書ニ關スル細則竝ニ利札ノ支拂ニ關スル細則ハ主務大臣之ヲ公布ス

第三十三條　地代銀行地代ハ之ヲ引當トシテ發行シタル地代債券ノ利子支拂ニ之ヲ充當シ其ノ殘餘ハ之ヲ以テ地代債券ノ償還ニ當ツルモノトス

第三十四條　（一）　地代債券ノ償還ハ抽籤ニ依リ之ヲ行フ

（二）　地代銀行ハ半年毎ニ額面價額ヲ以テ償還スベキ地代債券ノ抽籤ヲ爲スコトヲ要ス、地代債券ノ償還ニ要スル總金額ハ抽籤ノ行ハルル每期（半年）ノ終期迄ニ元金償還（第二十六條、第二十七條及第三十條）及地代ノ剩餘（第三十三條）ヨリ生ズルモノヲ以テ之ニ充ツルモノトス

（三）　地代債券ハ其ノ發行アリテ一年後ノ償還期日ノ次ニ來ル支拂期限ニ至ル迄ノ間ハ抽籤ヨリ除外セラルルモノトス

（四）　當籤地代債券ノ所持人ハ額面金額ノ支拂ヲ受ク、支拂期日ノ決定アルトキハ其ノ當籤地代債券ニ對シテハ其ノ期以後ノ利子ノ支拂ナキモノトス

（五）　抽籤手續ニ關スル細則ハ主務大臣之ヲ定ム

第九章　豫備金（積立金）

第三十五條　（一）　地代銀行ハ地代銀行地代ノ已ムヲ得ザル欠損ヲ補塡スル爲豫備金ノ積立ヲ爲ス、第二十八條ニ依リ支拂猶豫セル利子金額ハ此ノ豫備金ヲ以テ立替ヲ爲ス

（二）　地代銀行ハ豫備金トシテ國家ノ仲介ニ依リ五百萬「マーク」ノ交付ヲ受ク

（三）　豫備金ハ左ノ收入ニ依リ增加ス

（イ）地代銀行ガ短期遊資ノ現金ヲ運用シテ得タル利子收入
（ロ）豫備金ノ運用ニ依ル利子收入
（ハ）利札及當籤地代債券ノ時效ニ依ル收入
（四）豫備金ヲ以テ地代銀行ノ欠損ヲ補塡シ能ハザル場合ニ於テハ國家ハ之ヲ補塡スルノ義務ヲ有ス

第三十六條　（一）大藏大臣ハ第三十五條第（二）項ニ依ル資金調達ノ權能ヲ有ス
（二）前項ノ規定ニ依ル負債ノ償還ハ負債元金額ノ一分九厘ニ相當スル金額及國債總額ノ償還ノ爲ニ準備セラレタル資金、議會ノ協贊ニ基ク借入金ノ支拂ノ爲ニ準備セラレタル資金ノ積立利子收入ヲ之ニ充當ス右積立利子收入ハ國債ノ償還ニ用ヒラルル金額及議會ノ協贊ヲ經タル借入金ノ支拂ニ用ヒラルル資金ノ總額ノ百分ノ五ニ相當ス

第十章　經過規定及終結規定

第三十七條　（一）既設各州地代銀行ハ從來ノ法令ニ依リ引受ケタル業務ニ付キ其ノ終了ニ至ル迄之ヲ繼續ス、新業務ノ引受之ヲ爲サズ
（二）地代銀行ノ設立後（第一條第二項）主務大臣ハ既設各州地代行銀ヲ解散スルコトヲ規定シ得、各州地代銀行ノ解散ト同時ニ其ノ權利義務ハ（新設ノ）地代銀行ニ移轉ス

（三）主務大臣ハ命令ヲ以テ一九二六年二月九日公布ノ舊地代銀行地代債券ヲ「ゴールド・マーク」拂ノ規則第十一條（法令集四五頁）ニ基ク地代債券所持人ノ請求權ガ舊地代銀行ノ解散前ニ於テ既ニ新地代銀行ノ金錢地代債券（清算金錢地代債券）ニ依テ決濟セラルルコトヲ定ムルコトヲ得、此ノ清算地代債券ハ之ヲ額面價額ニ依リ分割清算財團ノ確定配當ニ記載スベキモノトス、此ノ場合ニ於テハ分割清算財團ハ當該地代銀行ノ解散前ト雖モ發行セラルル清算金錢地代債券ノ請求權ヲ保證ス

第三十八條　（一）主務大臣ハ地代銀行地代及之ニ基キ發行セル地代債券ヲ「ゴールド・マーク」拂ト爲ス旨決定スルコトヲ得
（二）「ゴールド、マーク」拂ノ地代銀行地代及地代債券ヲ以テスル支拂ハ帝國貨幣本位ニ從フコトヲ要ス、從テ一「ゴールド、マーク」ノ價値ハ二千七百九十分ノ一「キログラム」ノ純金ノ公定價格ト同一ニ計算ス、此ノ換算ハ「ロンドン」支拂ニ對シ支拂日以前ニ取引ガ開始サルル日ノ「ベルリン」公定相場ノ平均相場ニ依ルモノトス「ライヒス、マーク」ノ價格ガ金相當價（純金一「グラム」ハ二・七九「ゴールド、マーク」）ノ百分ノ一以內ノ偏差ニ過ギザル場合ニ於テ一「ゴールド、マーク」ヲ一「ライヒス、マーク」ト同價ト見做ス

第三十九條　主務大臣ハ地代債券ヲ他ノ利率ヲ以テ發行スルコトヲ規定シ得、此ノ場合必要ナル規定

特ニ地代債券及現金ニ依ル賠償額、地代銀行地代ノ計算及保證、賠償額ノ利拂、地代銀行地代支拂期限竝ニ地代債券ヲ兌換スル際ノ地代銀行ノ通告ニ關スル權利等ニ關スル諸規定ヲ定ム

第四十條　地代銀行ハ主務大臣ノ許可ヲ經タル上必要アラバ國家ノ保證ノ下ニ一九一九年八月十一日附ノ帝國植民法第一條（法令集一四二九頁）ノ意味ニ於ケル移住地抵當貸付ヲ爲スコトヲ得

第四十一條　一九二六年十月三十日附地代農地創設ニ際シテノ中間信用ノ認可ニ關スル法律（法令集二九九頁）第一條ニ依リ普國國立銀行ニ使用セシメ又ハ現ニ使用セシメツツアル資金ノ管理ハ地代銀行ノ理事ニ之ヲ委任スルコトヲ得

第四十二條　（一）一八九一年六月七月附ノ地代農地創設奬勵ニ關スル法律ハ之ヲ廢止ス

（二）前項廢止ノ法律ニ依リ地代銀行地代ヲ負擔スル地代農地及地代銀行ノ設立以前ニ開始セル地代農地創設手續ニ對シテハ尙從來ノ規定ガ存在スルモノト見做ス

第四十三條　一八九六年六月八日附ノ地代農地及移住農地ノ一子相續ニ關スル法律（法令集一二四頁）第一條第一項第一號ノ末尾ニ「普國地代銀行ニ地代支拂ノ義務アル總テノ地代農地ニ關スル限リ」ノ字句ヲ加フ

第四十四條　一八九九年九月二十日附ノ民法施行法（法令集一七七頁）第一章第二條第十七項ノ「地代銀行」ノ字句ノ次ニ「又ハ普國地代銀行ノ地代債券ニ對シ」ナル字句ヲ加フ

第四十五條　一九一九年六月三日附ノ土地開拓官廳ニ關スル法律（法令集一〇一頁）第十六條第（一）項第二號ニ依リ土地開拓局長ニ附與セラレタル權限ハ之ヲ保留シ其ノ適用ニ關シテハ本法ニ之ヲ規定ス

第四十六條　大藏大臣ハ準備金ヲ得ル財政計畫ノ引受アル迄地代銀行理事ノ業務遂行ニ必要ナル金額ヲ調達スルノ權限ヲ與ヘラレ、特ニ次ノ役員ノ俸給額ヲ給與スルヲ要ス（以下省略）

第四十七條　本法施行ニ必要ナル細則ハ主務大臣之ヲ公布ス

第四十八條　本法ハ左記ノ日ヨリ其ノ效力ヲ有ス

（イ）本法第一條ハ其ノ公布ノ日

（ロ）本法第二條乃至第四十七條ハ地代銀行設立（第一條第（二）項）ノ日

(二)　一九三一年七月三十一日附プロシヤ地代銀行法ノ改正ニ關スル法律

第一章

一九二七年十二月二十九日附プロシヤ地代銀行法（法令集二八三頁）ハ之ヲ左記ノ通リ改正ス

一、第一條ハ左記ノ條文トス

第一條　プロシヤ地代銀行ハ農業植民ノ奬勵ヲ行フ、プロシヤ地代銀行ハ公法上ノ公共的機關ニシテ「ベルリン」ニ所在ス

二、第一條ノ一トシテ左ノ條文ヲ挿入ス

第一條ノ一（一）本機關ハ地代農地ニ附着セル地代（第五條、第十一條乃至第十五條）ヲ解除シ、一九一九年八月十一日附帝國植民法第一條（帝國法令集一四二九頁）ノ意味ニ於ケル新植民及隣接植民ヲ行フ爲ニ左ノ各號ノ權利ヲ有ス

（イ）無記名ノ地代債券、抵當債券、其ノ他ノ債務證券ノ發行

（ロ）貸付金ノ回收

（ハ）資本金及法定豫備金ノ一割ノ限度ニ於テ信用調達ノ爲ノ企ヲ爲スコト

（二）地代銀行ノ處理シ得ベキ資金ニ就テハ地代銀行ハ獨逸植民銀行ニ對スル貸付許可、適當ナル信用機關ヘノ預金此等機關ノ債券ノ購入又ハ一九二四年八月三十日ノ銀行法ノ規定ニ從ヒ購入セラルルノ要アル手形及有價證券ノ購入ニ依テ或ハ監査委員ノ同意ヲ經テ地代銀行理事ニ依テ爲サルル指圖ニ基ク有價證券ノ擔保貸付ニ依テ之ヲ利用スルコトヲ要ス、右指圖ニハ擔保能力アル有價證券及擔保貸付ノ適當ナル金高ヲ決定スルヲ要ス

（三）地代銀行ノ土地ノ取得ハ地代銀行地代、土地抵當債權ニ關スル缺損ヲ防グ爲及事務所用敷地ニ供スル爲ニノミ之ヲ認ムルモノトス

（四）本機關ハ農業移住ニ對スル資金供給ト相關聯スル他ノ會計ニ屬スル業務ニ付テモ主務大臣ノ委任ヲ受ケ之ヲ行フコトヲ得

（五）派生植民ノ設立ハ監査委員ノ監査ヲ經主務大臣ノ同意ヲ得テ之ヲ許可ス

三、第二條ハ左記ノ條文トス

第二條　國家ハ無記名債券ノ發行（第一條ノ一第（一）項（イ）號）ニ依リ生ズル地代銀行ノ義務ノ履行ヲ保證ス、國家ニ對スル債券所持人ノ請求權ニ關シテハ正規ノ法律手續ニ依ルモノトス

四、第二條ノ一トシテ左ノ條文ヲ挿入ス

第二條ノ一（一）本機關ノ資本金ハ存立期間中ニ「プロシヤ」國及獨逸植民銀行ヨリ拂込ヲ爲

ス資金ヨリ成ルモノトス、帝國及他ノ諸州ハ之ニ參加スルコトヲ得

（二）資本金ハ二千萬「ライヒス、マーク」トシ「プロシヤ」國及獨逸植民銀行ノ各拂込資本金ハ一千萬「ライヒス、マーク」トス

（三）資本金增額ハ定款ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得

（四）利益配當ハ五分ヲ越ユルコトヲ得ズ

五、第二條ノ二トシテ左ノ條文ヲ挿入ス

第二條ノ二　貸借對照表ニ現ハルル缺損ノ補塡ノ爲ニ豫備金（積立金）ヲ積立ツルコトヲ要ス、此ノ豫備金ノ爲一千萬「ライヒ、スマーク」ハ「プロシヤ」國及獨逸植民銀行ヨリ交付ヲ受クルモノトス

六、第三條ハ左ノ條文トス

第三條　（一）本機關ノ代表機關ハ理事、監査委員及總會トス、理事ノ內少クトモ一人ハ裁判官ノ資格ヲ有スルモノタルヲ要ス

（二）本機關ハ大藏大臣及農林大臣（兼國有地管理）之ヲ監督ス

七、第三條ノ一及第三條ノ二トシテ左ノ條文ヲ挿入ス

第三條ノ一　（一）地代銀行主席理事ハ間接「プロシヤ」國官吏トシテ任命ス、任命ハ其ノ都度主務大臣ノ認可ヲ要ス、理事ノ服務規律ハ現行直接國家官吏服務規律ニ倣ヒ之ヲ定ム

（二）地代銀行ノ業務ハ本法ニ依リ之ヲ土地開拓官廳ニ移管セザル限リ理事之ヲ行フ、理事ハ業務範圍內ニ於テ法律上及法律外本機關ヲ代表ス、本機關ノ業務範圍內ニ於テ定款ノ定ムル所ニ從ヒ署名捺印シテ發行セル證券ハ公債ノ性質ヲ有ス

（三）理事ノ瑕疵アル決定ハ其ノ儘之ヲ執行シ得ベキモノトス

（四）間接「プロシヤ」國官吏タル理事ハ本法ニ何等ノ規定ナキ限リ裁判官ニ非ザル官吏ノ業務上ノ過失ニ關スル法律、一八五二年六月二十一日附轉任及退職ニ關スル法律（法令集四六五頁）及此等法律ヲ改正增補シタル法律ニ從フ理事員ノ職務上ノ長官ハ大藏大臣及農林大臣（兼國有地管理）トシ、理事ニ非ザル事務員ノ指揮監督ハ理事之ニ當ル、懲戒裁判ノ開始、豫審調查委員及檢事ノ任命ハ理事員懲戒ノ場合ハ監督官廳之ヲ行ヒ、理事ニ非ザル事務員ノ場合ハ理事之ヲ行フ、理事ニ非ザル事務員ニ關スル第一審最終懲戒裁判所ハ「ポツツダム」官廳トス

第三條ノ二　（一）本機關ノ法律關係ハ本法ノ規定範圍內ニ於テハ定款ヲ以テ之ヲ定ム、最初ノ定款ハ政府ノ認可ヲ要ス、定款ノ變更ハ總會ノ決議ニ依ル、定款ノ變更ハ主務大臣ノ認可ヲ要ス、定款及定款變更ハ其ノ都度「プロシヤ」法令集ニ公表シ且帝國議會ニ之ヲ通告スベシ

（二）抵當（土地負債）ヲ基礎トスル債券發行ニ關スル定款ノ規定ハ第七條第（二）項乃至第（四）項、第八條第（二）項及第（三）項、第九條及第十條ノ規定ノ原則ヲ斟酌シテ之ヲ定ム

八、第四條ハ左ノ條文トス

第四條　地代、抵當債務ノ利子及償還金ノ取立並ニ地代解除及抵當債務ノ償還ノ處理ニ關スル限リ土地開拓官廳ハ法律上及法律外總テ之ヲ代表シ其ノ事務ヲ擔當スルノ義務ヲ有ス

九、第五條ニ左ノ第（一）項（イ）トシテ左ノ條文ヲ加フ

（一）（イ）一區劃ノ土地ノ地代解除ニ關シテハ其ノ地區ガ移住地地代農地ニ非ズトモ移住地地代農地ノ經營奬勵ノ爲ニスル地代農地用植民地タルコトノ證明アルモノニ對シテモ其ノ地代ノ解除ヲ爲シ得ル旨ヲ定款ニ定ムルコトヲ得

十、第五條（二）ハ次ノ條文トス

（二）地代銀行ノ仲介ハ銀行ガ引受ケタル地代農地地代ノ賠償金ヲ地代權利者ニ支拂ヒ、地代農地所有者ヨリ地代銀行地代ヲ徵收スル方法ニ依リ之ヲ行フ

十一、第七條ハ左ノ條文トス

第七條　（一）地代權利者ハ地代銀行ヨリ賠償金トシテ地代權利者ト地代農地所有者トノ間ニ解除額トシテ協定セル地代農地地代倍數相當額ノ支拂ヲ受ク

（二）地代權利者ハ一部分地代債券ノ券面價格ニ依リ賠償ヲ受ク（現金賠償）地代債券賠償ハ地代銀行地代ヲ以テ地代債券ノ利子支拂及元金償還ニ充當スルニ足ル範圍內ノ額ヲ限度トス、現金賠償ハ一般ニ地代銀行ガ斯ル目的ノ爲ニ借入セル資金ニ依リ之ヲ支拂フ、大藏大臣ハ地代銀行ガ地代銀行地代ヲ以テ現金賠償ノ利子支拂及元金償還ヲ爲シ得ル時期ニ至ル迄其ノ借入金ノ債權者ニ支拂フベキ年負擔ヲ引受クルコトヲ得、大藏大臣ハ其ノ引受金額ノ一部ニ付キ利子ヲ計算スルコトナク賠償金ノ元金銷却金ノミノ返濟ヲ要求スルコトヲ得

（三）定款ニ依リ第（二）項ト異ル賠償方法ヲ定ムルコトヲ得

（四）地代銀行ハ地代權利者ニ賠償金トシテ交付シタル地代債券ヲ地代銀行ノ仲介ニ依テノミ地代權利者ノ計算ニ於テ販賣シ又ハ他ノ方法ニ依リ換價スルコトヲ要求シ得

十二、第八條第（二）項及第（三）項ヲ左ノ如ク改ム

（二）地代銀行地代ハ賠償金ノ五分トス但シ定款ヲ以テ他ノ割合ヲ定ムル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

（三）地代銀行地代ノ繼續期間ハ第七條第（二）項ニ依ル償還金ヲ斟酌シテ定款ニ依リ之ヲ定ム但シ七十年ヲ越ユルコトヲ得ズ

十三、第九條第(二)項ハ之ヲ削除ス

十四、第十條第(二)項及第(三)項ノ「賠償トシテ交付セル地代債券ノ額面金額ト補足現金交付金額トノ合計額」ナル字句ヲ「賠償額面金額」ナル字句ニ改ム

十五、第十條(四)ノ「二人ノ地方委員」ナル語ヲ「農業專門家」ナル語ニ改ム

十六、第十條(四)ニ左ノ條項ヲ加フ

地代銀行理事ハ該評價ニ參加スルコトヲ要求シ得

十七、第十二條(一)ハ左ノ條文トス

(一) 地代銀行ハ移住地地代農地ノ取得及最初ノ設備ノ爲ニ個々ノ移住者ノ申込ニ基キ直接貸付金ノ許可ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ移住者ハ植民會社其ノ他ノ仲介機關ヘ加入スルノ要ナキモノトス、貸付金許可ノ前提ハ其ノ移住地ガ開拓署ノ助成及監督ノ下ニ創設セラルルコトヲ條件トス、農業經營ニ必要ナル程度ノ地代農地ノ建築物ガ地代農地創設當時ニ非ズトモ晩クトモ其ノ後十二年以內ニ建築完成サレ且移住地地代農地ノ完成計畫ガ其ノ創設ノ際ニ既ニ確定セルモノニ在リテハ之モ最初ノ設備ト見做シ貸付金ノ許可ヲ爲スコトヲ得、第七條第(二)項乃至第(四)項ノ規定ハ之ヲ適用ス

十八、第十二條第(二)項、第三項及第(四)項ノ「創設貸付金」ヲ「貸付金」ニ改ム

十九、第十三條第(一)項ノ「四分五厘又ハ五分利付地代債券ノ額面價格ヲ以テ」ナル字句ヲ削除ス

二十、第十三條第(一)項ニ左ノ條項ヲ加フ

第七條第(二)項乃至第(四)項ノ規定ハ本項ニ之ヲ準用ス

二十一、第十五條及第十六條ハ之ヲ削除ス

二十二、第十七條ノ「相續賠償地代ノ解除ノ場合ノ地代銀行ノ仲介ニ關シテハ……第十條第一項及第二項ノ規定ヲ準用ス」ナル字句ハ「相續賠償地代ノ解除ニ關シテハ……第五條乃至第十條ノ規定ヲ準用ス」ナル字句ニ改ム

二十三、第二十三條(一)ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ主務大臣ガ他ノ規定ヲ定メタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

二十四、第二十五條第(二)項ノ第二節ハ之ヲ削除ス

二十五、第二十六條第(一)項第一節ハ左ノ如ク改ム

(一) 地代債務者ガ地代銀行地代年額及其ノ繼續年限ヲ基礎トシテ計算シタル地代ノ總額ヲ支拂フトキハ地代債務者ハ爾後ノ地代銀地地代ノ支拂義務ノ免除ヲ受ク(元金償還)

二十六、第二十六條第(一)項第三節ノ「主務大臣ハ……表ヲ作製ス」ヲ地代銀行理事ハ主務大臣ノ同意ヲ得テ……表ヲ作製ス」ニ改ム

二十七、第二十七條第(一)項ハ左ノ如ク改ム

(一)　地代銀行地代ハ地代銀行側ニ解約豫告權ナキモノトス但シ地代銀行ハ左ノ各號ニ該當スル場合ニ於テハ地代債務者ニ對シ卽時元金償還（第二十六條）ヲ請求スルコトヲ得

(イ)　地代農地所有者又ハ第三者ガ地代農地ヲ損傷シテ地代銀行地代ノ擔保ヲ害スル虞アルガ如キコトヲ爲ス場合

(ロ)　地代農地所有者ガ建物ノ適當ナル管理及保險ノ爲ニ開拓署長ノ課シタル賦課ヲ履行セザル場合

(ハ)　地代農地所有者ガ破產シ又ハ强制執行ニ依リ未償還地代銀行地代ノ支拂ヲ督促スベキ場合或ハ其ノ土地ノ法律上ノ强制競賣ガ行ハルル場合

(ニ)　地代農地ノ所有權ガ地代農地所有者ノ正妻又ハ子孫以外ノ人ニ移轉スル場合

二十八、第二十八條第(一)項第二節ハ左ノ如ク改ム

地代銀行ノ受クル缺損ハ地代支拂猶豫期間中ニ於ケル賠償金ノ利子ダケ賠償金ノ額ヲ增加シ其ノ賠償金總額ニ依リ地代銀行地代ヲ計算スルノ方法ニ依リ之ヲ補塡ス利率ハ定款ヲ以テ之ヲ定ム、償還ハ地代債務者ガ地代銀行地代ヲ支拂フ日ニ始マルモノトス

二十九、第二十八條ニ第(一)項ノ一トシテ左ノ一項ヲ加フ

(一)　ノ一　地代銀行ハ地代銀行地代支拂猶豫期間中ニ於ケル賠償金ノ利子支拂及其ノ償還ニ立替フル金額ヲ地代銀行地代支拂ガ開始サルルニ至ル迄地代債券ノ發行ニ依リ調達スルコトヲ得

三十、第二十八條第(二)項中ノ「第十六條」ナル字句ハ之ヲ削除ス

三十一、第三十一條乃至第三十四條ハ之ヲ廢止ス

三十二、第三十五條、第三十六條、第三十八條乃至第四十一條ハ之ヲ廢止ス

三十三、第四十四條ノ「又ハ「プロシヤ」地代銀行ノ地代債券ニ對シ」ナル字句ハ之ヲ削除ス

三十四、第四十六條、第四十八條ハ之ヲ廢止ス

三十五、第四十六條ノ一トシテ左ノ條文ヲ加フ

第四十六條ノ一　地代銀行ハ國及自治團體ノ租稅及手數料ノ免除ヲ受ク

三十六、第四十六條ノ二トシテ左ノ條文ヲ加フ

第四十六條ノ二、本機關ノ解散ハ法律ヲ以テ之ヲ爲ス

三十七、第四十七條ハ左ノ如ク改ム

第四十七條　主務大臣ハ帝國政府ノ同意ニ依リ本法施行ニ必要ナル規則ヲ定ム

第二章

三、一九一九年八月十一日附帝國植民法（帝國法令集一四二九頁）ニ關スル一九一九年十二月十五日附ノ同法施行法（法令集一九二〇年三一頁）ニ第三十八條ノ一トシテ左ノ條文ヲ加フ

第三十八條ノ一　一八九六年六月八日附地代農地及移住地地代農地ノ相續權ニ關スル法律（法令集一二四頁）ハ之ヲ左ノ如ク改ム

一、第一條ニ第(四)項トシテ左ノ一項ヲ加フ

(四)　一九一九年八月十一日附帝國植民法（法令集一四二九頁）第一條ノ意味ニ於ケル總テノ新植民地及隣接植民地ハ帝國、州又ハ獨逸植民銀行ノ仲介ニ依リ低利長期ノ植民信用ヲ受ク

二、第一條(二)ノ「地代農地」ナル字句ハ「植民地」ナル字句ニ改ム

第三章

三、一八九〇年六月二十七日附地代農地ニ關スル法律（法令集二〇九頁）ヲ左ノ如ク改ム

第一條(一)ニ左ノ條項ヲ追加ス

金錢地代額ハ之ヲ減額スルコトヲ得、地代負擔ノ銷却ハ地代農地トシテノ本質及物權的買戻權ノ永續性ニ觸レズ

第四章

地代銀行ガ以前ノ「ポーゼン」州、東「プロシヤ」州、西「プロシヤ」州、「シレヂン」州ノ地代銀行ノ地代債券債權者ノ要求ヲ充ス爲ニ交付シタル無記名賠償債務證券ノ義務履行ニ付テハ國家之ヲ保證ス、債務證券ノ所持人ガ國家ニ對シテ爲ス請求權ニ關シテハ普通法律手續ノ適用アルモノトス

第五章

一九二七年十二月二十九日附「プロシヤ」地代銀行法（法令集二八三頁）ノ原文ヲ第一章ニ於テ規定セル條文ニ改正シ「プロシヤ地代銀行法」ナル名稱ヲ以テ逐條的ニ公布スルコトヲ大藏大臣ニ委任ス

第六條　本法ハ一九三一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ第四章ハ一九三一年四月一日ヨリ有效トス

（三）一九二一年七月三十一日改正ノ「プロシヤ」地代銀行法（一九三一年八月一日告示）

第一章「プロシヤ」地代銀行法

第一條　「プロシヤ」地代銀行ハ農業植民ノ奬勵ヲ行フ、「プロシヤ」地代銀行ハ公法上ノ公共的機關ニシテ「ベルリン」ニ所在ス

第二條　（一）本機關ハ地代農地ニ附着セル地代（第十條第十六條乃至第十九條）ヲ解除シ、一九一九年八月十一日附帝國植民法（法令集一四二九頁）第一條ノ意味ニ於ケル新植民、隣接植民ヲ行フ爲左ノ各號ノ權利ヲ有ス

（イ）無記名ノ地代債券、抵當證券其ノ他ノ債務證券ノ發行

（ロ）貸付金ノ回收

（ハ）資本金及法定豫備金ノ一割ノ限度ニ於テ信用調達ノ爲ノ企ヲ爲スコト

（二）地代銀行ノ處理シ得ベキ資金ニ付テハ地代銀行ハ獨逸植民銀行ニ對スル貸付許可、適當ナル信用機關ヘノ預金、此等機關ノ債券ノ購入又ハ一九二四年八月三十日ノ銀行法ノ規定ニ從ヒ購入セラルルノ要アル手形及有價證券ノ購入ニ依テ或ハ監査委員ノ同意ヲ經地代銀行理事ニ依テ爲サルル指圖ニ基ク有價證券ノ擔保貸付ニ依ヲ之ヲ利用スルコトヲ要ス、右指圖ニハ擔保能力アル有價證券及擔保貸付ノ適當ナル金高ヲ決定スルヲ要ス

（三）地代銀行ノ土地ノ取得ハ地代銀行地代土地抵當債權ニ關スル缺損ヲ防グ爲及事務所用敷地ニ供スル爲ニノミ之ヲ認ムルモノトス

（四）本機關ハ農業移住ニ對スル資金供給ト相關聯スル他ノ會計ニ屬スル業務ニ付テモ主務大臣ノ委任ヲ受ケ之ヲ行フコトヲ得

（五）派生植民ノ設立ハ監査委員ノ監査ヲ經主務大臣ノ同意ヲ得テ之ヲ許可ス

第三條　國家ハ無記名債券發行（第一條第（一）項（イ）號）ニ依リ生ズル地代銀行ノ義務履行ヲ保證ス國家ニ對スル債券所持人ノ請求權ニ關シテハ普通法律手續ニ依ルモノトス

第四條　（一）本機關ノ資本金ハ存立期間中ニ「プロシヤ」國及獨逸植民銀行ヨリ拂込ヲ爲ス資金ヨリ成ルモノトス、帝國及他ノ諸州ハ之ニ參加スルコトヲ得

（二）資本金ハ二千萬「ライヒス、マーク」トシ「プロシヤ」國及獨逸植民銀行ノ各拂込資本金ハ一千萬「ライヒス、マーク」トス

（三）資本金增額ハ定款ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得

（四）利益配當ハ五分ヲ越ユルコトヲ得ズ

第五條　貸借對照表ニ現ハルル缺損ノ補塡ノ爲ニ豫備金（積立金）ヲ積立ツルコトヲ要ス此ノ豫備金ノ爲「プロシヤ」國及獨逸植民銀行ヨリ一千萬「ライヒス、マーク」ノ交付ヲ受クルモノトス

第六條　（一）本機關ノ代表機關ハ理事、監査委員及總會トス、理事ノ內少クトモ一人ハ裁判官ノ資格ヲ有スルモノタルヲ要ス

（二）本機關ハ大藏大臣及農林大臣（兼國有地管理）之ヲ監督ス

第七條　（一）地代銀行主席理事ハ間接「プロシヤ」國官吏トシテ任命ス、任命ハ其ノ都度主務大臣ノ認可ヲ要ス、主席理事ノ服務規律ハ現行直接國家官吏服務規律ニ倣ヒ之ヲ定ム

（二）地代銀行ノ業務ハ本法ニ依リ之ヲ土地開拓官廳ニ移管セザル限リ理事之ヲ行フ、理事ハ業務範圍內ニ於テ法律上及法律外本機關ヲ代表ス、本機關ノ業務範圍內ニ於テ定款ノ定ムル所ニ從ヒ署名捺印シテ發行セル證券ハ公債ノ性質ヲ有ス

（三）理事ノ瑕疵アル決定ハ其ノ儘之ヲ執行シ得ベキモノトス

（四）間接「プロシヤ」國官吏タル理事ハ本法ニ何等ノ規定ナキ限リ裁判官ニ非ザル官吏ノ業務上ノ過失ニ關スル法律、一八五二年六月二十一日附轉任及退職ニ關スル法律（法令集四六五頁）及此等法律ノ改正增補シタル法律ニ從フ、理事員ノ職務上ノ長官ハ大藏大臣及農林大臣（兼國有地管理）トシ理事ニ非ザル事務員ノ指揮監督ハ理事之ニ當ル、懲戒裁判ノ開始、豫審調査委員及檢事ノ任命ハ理事員懲戒ノ場合ハ監督官廳之ヲ行フ、理事ニ非ザル事務員ニ關スル第一審最終懲戒裁判所ハ「ポツツダム」官廳トス

第八條　（一）本機關ノ法律關係ハ本法ノ規定範圍內ニ於テハ定款ヲ以テ之ヲ定ム、最初ノ定款ハ政府ノ認可ヲ要ス、定款ノ變更ハ總會ノ決議ニ依ル、定款ノ變更ハ主務大臣ノ認可ヲ要ス、定款及定款變更ハ其ノ都度「プロシヤ」法令集ニ公表シ且帝國議會ニ之ヲ通告スベシ

（二）抵當（土地負債）ヲ基礎トスル債券發行ニ關スル定款ノ規定ハ第十二條第（二）項乃至第（四）項第十三條第（二）項及第（三）項、第十四條及第十五條ノ規定ノ原則ヲ斟酌シテ之ヲ定ム

第九條　地代、抵當債務ノ利子及償還金ノ取立ノ處理並ニ地代解除及抵當債務ノ銷却ノ處理ニ關スル限リ土地開拓官廳ハ法律上及法律外總テ之ヲ代表シ其ノ事務ヲ擔當スルノ義務ヲ有ス

第二章　地代農地解除ノ仲介

第十條　（一）中小地代農地（移住地地代農地）ノ負擔スル地代農地地代ノ解除ハ兩當事者ノ同意アル場合ニ限リ當事者ノ申請ニ依リ地代銀行之ヲ仲介スルコトヲ得

（二）一區劃ノ土地ノ地代解除ニ關シテハ其ノ地區ガ移住地地代農地ニ非ズトモ移住地地代農地經營奬勵ノ爲ニスル地代農地用植民地タルコトノ證明アルモノニ對シテモ其ノ地代ノ解除ヲ爲シ得ル旨ヲ定款ニ定ムルコトヲ得

（三）　地代銀行ノ仲介ハ銀行ガ引受ケタル地代農地地代ノ賠償金ヲ地代權利者ニ支拂ヒ、地代農地所有者ヨリ地代銀行地代ヲ徵收スル方法ニ依リ之ヲ行フ

第十一條　地代銀行ノ仲介ヲ申請スル場合ハ左ニ依ルモノトス

（イ）　地代權利者ガ地代農地所有者ヨリ地代農地地代ヲ解除スルコトヲ要求シ得ル場合ハ地代權利者ヨリ

（ロ）　地代農地所有者ガ地代農地地代ノ解除ニ就キ地代權利者ノ承諾ヲ要セザル場合又ハ地代農地所有者ガ自己ニ歸屬スル解除請求權ヲ行使セムトスル場合ハ地代農地所有者ヨリ

第十二條　（一）　地代權利者ハ地代銀行ヨリ賠償金トシテ地代權利者ト地代農地所有者トノ間ニ解除額トシテ協定セル地代農地地代ノ倍數相當額ノ支拂ヲ受ク

（二）　地代權利者ハ一部分地代債券ノ額面價格ニ依リ賠償ヲ受ク（現金賠償）、地代債券賠償ハ地代銀行地代ヲ以テ地代債券ノ利子支拂及元金償還ニ充ツルニ足ル範圍ノ額ヲ限度トス、現金賠償ハ一般ニ地代銀行ガ斯ル目的ノ爲ニ借入セル資金ヨリ支拂フ、大藏大臣ハ地代銀行ガ地代銀行地代ヲ以テ現金賠償ノ利子支拂及元金償還ヲ爲シ得ル時期ニ至ル迄其ノ借入金ノ債權者ニ支拂フベキ年負擔ヲ引受クルコトヲ得、大藏大臣ハ其ノ引受金額ノ一部ニ付キ利子ヲ計算スルコトナク賠償金ノ元金償還金ノミノ返濟ヲ要求ス

ルコトヲ得

（三）　定款ニ依リ第二項ト異ル賠償方法ヲ定ムルコトヲ得

（四）　地代銀行ハ地代權利者ニ賠償金トシテ交付シタル地代債券ヲ地代銀行ノ仲介ニ依テノミ地代權利者ノ計算ニ於テ販賣シ又ハ他ノ方法ニ依リ換價スルコトヲ要求シ得

第十三條　（一）　地代農地所有者ハ地代銀行ニ對シ地代引受（第二十三條）ノ時期ヨリ地代銀行地代ノ支拂ヲ爲スコトヲ要ス

（二）　地代銀行地代ハ賠償金ノ五分トス但シ定款ヲ以テ他ノ割合ヲ定ムル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

（三）　地代銀行地代ノ繼續期間ハ第十二條第二項ニ依ル償還金ヲ斟酌シテ定款ニ依リ之ヲ定ム但シ七十年ヲ越ユルコトヲ得ズ

第十四條　地代銀行ハ解除セムトスル地代ニ對シ其ノ地代農地ノ上ニ存スル私法上ノ他ノ債權ニ優先スル權利ヲ有スル場合ニ限リ其ノ地代ノ解除ヲ仲介スルコトヲ得

第十五條　（一）　地代銀行ノ仲介ハ引受クベキ地代銀行地代ニ對シテ適當ナル擔保ノ存スル場合ニ限リ之ヲ認ム

（二）　賠償額面金額ガ土地金融組合ノ査定又ハ特別ノ方法ニ依リ査定シタル地代農地ノ評定價格ノ四分ノ三ヲ越ヘザル場合ハ擔保アルモノト認メ得

（三）雇傭勞働ヲ要セズ又ハ殆ンド要スルコトナクシテ經營シ得ル程度ノ面積ノ地代農地ノ場合ニ在リテハ賠償額面金額ガ前項ノ評定價格ノ十分ノ九ヲ越ヘザル場合ニハ擔保アルモノト認メ得

（四）特別ノ評定價格（第二項及第三項）ハ開拓署長ガ農業專門家ノ補佐ニ依リ之ヲ決定ス、建築物ノ評價ヲ要スル場合ハ更ニ一名ノ建築專門家ノ協力ヲ得テ決定ス地代銀行理事ハ該評價ニ參加スルコトヲ要求シ得

第三章　解除シ得ザル地代農地地代ノ讓受

第十六條（一）移住地代農地（第十條）ニ附着セル地代農地地代ガ兩當事者ノ同意アルニ非ザレバ之ヲ解除シ得ザル場合ニ於テハ地代銀行ハ地代權利者ノ申請ニ基キ第十二條ノ規定ニ準ジテ計算シタル賠償金ヲ地代權利者ニ支拂ヒ其ノ代償トシテ地代ヲ讓受クルコトヲ得

（二）地代銀行ノ地代讓受ニ依リ地代權利者ノ地代農地契約ニ依リ有スル總テノ權利ハ地代ト共ニ國家ニ移轉ス

（三）地代ノ讓渡アリタル後ハ地代農地所有者ハ從來ノ地代ノ代リニ第十三條ノ規定ニ依リ計算シタル地代銀行地代ヲ地代銀行ニ支拂フモノトス

（四）地代讓受ニ關シテハ第十四條、第十五條ノ規定ヲ準用ス

第四章　貸付金ノ許可

第十七條（一）地代銀行ハ移住地代農地ノ取得及其ノ最初ノ設備ノ爲ニ個々ノ移住者ノ申請ニ基キ直接貸付金ノ許可ヲ爲スコトヲ得、此ノ場合ニ於テハ移住者ハ植民會社其ノ他ノ仲介機關ニ加入スルノ要ナキモノトス、貸付金許可ノ前提ハ其ノ移住地ガ開拓署ノ助成及監督ノ下ニ創設セラルルコトヲ條件トス、農業經營ニ必要ナル程度ノ地代農地ノ建築物ガ地代農地創設當時ニ非ズトモ遲クトモ其ノ後十二年以內ニ建設完成サレ且移住地代農地完成ノ計畫ガ其ノ創設ノ際ニ既ニ確定セルモノニ在リテハ之モ最初ノ設備ト見做シ貸付金ノ許可ヲ爲スコトヲ得、第十二條第二項乃至第四項ノ規定ハ本項ニ之ヲ準用ス

（二）貸付金ノ利拂及元金償還ハ第十三條ノ規定ニ準ジ計算セル地代銀行地代ノ支拂ニ依ルモノトス

（三）第十四條及第十五條ノ規定ハ貸付金ノ許可及其ノ代償トシテ引受ケタル地代銀行地代ニ付之ヲ準用ス

（四）貸付金及其ノ代償トシテ引受ケタル地代銀行地代ガ第十五條第二項及第三項ノ規定ニ依ル擔保限度ヲ超過スル場合ニ於テハ其ノ擔保限度ヲ超過スル部分ニ對シ國內ニ他ノ農地ヲ所有スル者ガ債務者ト連帶保證ヲ引受ケ其ノ所有スル土地ヲ地代銀行ニ擔保トシテ提供スル場合ニハ擔保ガ存在スルモノト認ムルコトヲ得

其ノ擔保ハ第十五條ノ規定ニ依ル評定價格ノ半額以内タルヲ要ス

第十八條（一）　一八九〇年六月二十七日附地代農地ニ關スル法律（法令集二〇九頁）第一條第一項ニ依ル定額金錢地代讓受ノ代償タル土地ガ移住地ニ分割スル目的ヲ以テ購入シ且移住地代農地創設ニ際シ購入者（地代農地提供者）ノ申請ニ依リ土地開拓局ガ仲介スル場合ニハ地代銀行ハ申請ニ依リ地代農地提供者ニ對シ地代農地創設完成ノ爲ニ貸付金（移住地貸付金）ノ許可ヲ爲スコトヲ得、

（二）　移住地貸付金ノ利拂及元金償還ハ第十三條ノ規定ニ準ジ計算シタル地代銀行地代ノ支拂ニ依ルモノトス

第十二條第二項乃至第四項ノ規定ハ本項ニ之ヲ準用ス

（三）　第十四條及第十五條ノ規定ハ移住地貸付金ガ第十五條ノ規定ニ依ル評定價格ノ半額以下ナル場合ニ於テ移住地貸付金ノ許可及其ノ代償トシテ讓渡サレタル地代農地地代ニ付之ヲ準用ス

（四）　移住地代農地ノ創設ニ際シ其ノ土地ノ上ニ地代銀行地代ノ存在スル場合ハ土地開拓局ハ其ノ地代ヲ各個ノ移住地代農地ニ分割ス、移住地代農地ニ分割セラレタル部分地代ノ擔保確保ニ關シテハ第十五條ノ規定ヲ準用ス

第五章　相續賠償地代ノ解除ニ關スル仲介

第十九條　一八九六年六月八日附地代農地及移住地代農地ノ相續權ニ關スル法律（法令集一二四頁）第二十條、第二十一條及第三十三條ニ依リ確定セル相續賠償地代ハ關係者ノ申請ニ依リ地代銀行其ノ解除ヲ仲介スルコトヲ得

第二十條　相續賠償地代ノ解除ニ關シテハ左ノ各號ノ規定ニ依ルノ外第十條乃至第十五條ノ規定ヲ準用ス

一、裁判上ノ相續協定ニ當リ相續賠償地代ノ引受ガ地代銀行ニ提議セラルル場合ハ遺產權利者ハ手續完了後解除手續開始ノ爲必要ナル一件書類ヲ開拓署長ニ提出スベシ

二、地代銀行地代擔保ノ審查ニ當リテハ評定價格ノ代リニ計算價格（一八九六年六月八日附地代農地及移住農地ノ相續ニ關スル法律―法令集一二四頁―第十七條及第二十四條第四項）ヲ用フ、

相續農地ノ負擔スル地代ハ地代ノ支拂ニ依リテ償還セラルル元金總額ヲ以テ計算スベキモノトス

三、相續農地ノ上ニ存スル負債ノ爲地代銀行地代ニ必要ナル擔保ノ存セザル場合ニ於テハ地代銀行ハ當事者ノ申請ニ基キ該負債ノ返濟ノ割合ニ應ジ逐次相續賠償地代ノ解除ヲ仲介スルコトヲ得

第六章　地代引受手續

第二十一條（一）　第十一條乃至第十六條乃至第十九條ノ規定ニ依ル申請ハ開拓署長ニ之ヲ爲スベシ

（二）地代引受手續ノ開始アリタルトキハ開拓署長ハ登記所ニ囑託シテ其ノ地代銀行地代引受ニ關スル事項（擔保順位記載）ヲ登記スベシ、擔保順位記載アリタルトキハ地代引受後ノ地代銀行地代ハ地代引受ガ既ニ擔保順位記載ノトキニ行ハレタルト同一順位ニ立ツモノトス

（三）手續進行中ニ於テ引受ガ第十四條及第十五條ニ該當セザルコトガ分明セルトキハ開拓署長ハ其ノ申請ヲ却下スベシ、擔保順位記載ノ削除ハ開拓署長ノ囑託アル場合ニ限リ之ヲ行フ

（四）地代引受手續ニ付テハ尙市町村所屬地分割ニ付適用アル規定ニ從フモノトス、開拓署長ハ職權ヲ以テ地代銀行ノ權利ヲ行使スルコトヲ要ス

第二十二條（一）地代引受手續ガ地代農地創設ト結合スル場合ニ於テハ左ノ規定ヲ適用ス

（二）地代農地創設ニ關シ法律上及事實上ノ疑義存セザル限リ開拓署長ハ地代農地創設手續ヲ開始ス、手續開始ハ之ヲ當事者ニ通告ス、開拓署長ハ地代農地創設ニ關スル契約ト之ニ連關スル地代引受ニ關スル契約トヲ共ニ作成ス土地開拓局長認可シタル契約ハ囑託ニ依リ登記所ニ移送シ土地取得者ヲ所有權者トシテ登記ス、此ノ場合ニ於テ所有權ハ登記簿ニ登記スルコトニ依リ移轉ス

（四）地代農地ニ關スル第三項ノ手續開始後直ニ開拓署長ハ登記所ニ依囑シテ登記簿ニ地代農地創設ニ關スル登記（地代農地ノ融通性停止登記）ヲ爲スヲ要ス、地代農地ノ融通性停止登記ノ效力ハ以後ニ登記シタル私法上ノ負擔ハ地代農地引受者ニ對シ無效トシ、且開拓署長ノ承諾ヲ經ズシテ爲シタル所有權者ノ土地ノ讓渡ハ之ヲ無效トス、地代農地ノ融通性停止登記ノ抹消ハ開拓署長ノ囑託アル場合ニ限リ之ヲ行フ

（五）手續ニ關シテハ左ノ各號ノ規定ヲ適用スルノ外市町村所屬地分割ニ付適用アル規則ヲ準用ス

（イ）開拓署長ハ地代銀行ノ權利ヲ職權ヲ以テ行使スルコトヲ要ス

（ロ）不動產讓渡ニ付自由意志ニテ讓渡シ得ル資格アル者ハ何人ニテモ契約通ノ地代農地創設ヲ適法ニ爲シ得ルモノトス

（ハ）地代農地創設及地代銀行地代引受ニ必要ナル登記ハ土地開拓官廳ノ囑託アル場合ニ限リ之ヲ行フ

第二十三條（一）第二十一條及第二十二條ノ規定ニ依ル確定契約ニ基キ地代銀行理事ハ地代銀行ニ地代銀行地代ノ引受ヲ爲ス

（二）引受ハ一月、四月、七月及十月ノ各初日ニ之ヲ行フコトヲ得

第二十四條　第二十二條ノ規定ハ地代農地創設ガ當事者ノ申請ニ基キ土地開拓官廳ノ仲介ニ依リテ行ハレ地代引受手續ガ之ト結合シテ行ハレザル場合ニ付之ヲ準用ス

第七章　地代銀行地代

第二十五條　本法ニ別段ノ規定ナキ限リ地租ニ關シ適用アル帝國法律ノ各規定ハ地代銀行地代ニ付キ之ヲ準用ス

第二十六條（一）　地代銀行地代ハ年四期ニ分割シテ地租ト共ニ納入スルコトヲ要シ稅務署ハ之ヲ州地方金庫ニ引渡ス、但シ主務大臣ガ他ノ規定ヲ定メタル場合ハ此ノ限ニアラズ

（二）　移住地貸付金ノ許可（第十八條）ニ依リテ生ジタル地代銀行地代ハ之ヲ移住地代農地ニ分割スルニ至ル迄ハ四期分納ノ負擔額ヲ直接地代銀行ノ金庫ニ納入スルコトヲ要ス

第二十七條（一）　地代銀行地代ハ其ノ登記ナキモ第三者ニ對スル對抗力ヲ有ス

（二）　然レドモ登記所ハ土地開拓官廳ノ申込アルトキハ地代引受實行後地代銀行地代ノ額及償還期限ヲ登記簿ニ登記スルコトヲ要ス

第二十八條（一）　地代銀行地代ハ强制徵收手續ニ依リ徵收スルコトヲ得

（二）　地代銀行地代ハ土地ニ對スル支拂請求權ニ付公租ト同樣ニ見做サル

第二十九條（一）　地代債務者ガ地代銀行地代年額及其ノ繼續年限ヲ基礎トシテ計算シタル地代總額ヲ支拂フトキハ地代債權者ハ爾後ノ地代銀行ノ地代支拂義務ノ免除ヲ受ク（元金償還）元金償還ハ地代銀行地代ノ一部ニ付テモ有效トス、地代銀行理事ハ主務大臣ノ同意ヲ得テ地代銀行地代ノ償

還各年度ニ於ケル地代負擔額ヲ銷却スルニ要スル元金償還額ノ判明スル償還表ヲ作製ス

（二）　元金償還ハ六ヶ月以前ノ豫告アル場合ニ限リ之ヲ許可ス、豫告ハ每年地代銀行地代引受ノ期日（第二十三條）ニ之ヲ許可シ六ヶ月以後ノ期日ニ償還ヲ受領ス、地代銀行地代引受後十年間以內ニ於テ爲ス元金償還ハ開拓署長ノ同意ヲ要ス

（三）　元金償還ハ債務者ガ期日迄ニ支拂フベキ地代ノ支拂ヲ完濟シタル場合ニ限リ之ヲ認ム詳細ナル元金償還ノ支拂ニハ先ヅ未拂地代負擔額ヲ計算ス

（四）　支拂豫告ハ開拓署長ニ、元金償還ノ支拂ハ州地方金庫ニ之ヲ爲スベシ、第二十六條（二）ニ準ジ直接地代銀行ノ金庫ニ支拂フコトヲ妨ゲズ

（五）　主務大臣ハ少額地代ノ元金償還ニ付一定金額以下ヲ除外スル旨ヲ規定スルコトヲ得

第三十條（一）　地代銀行地代ハ地代銀行側ニ解約豫告權ナキモノトス但シ地代銀行ハ左ノ各號ニ該當スル場合ニ於テハ地代債務者ニ對シ卽時元金償還（第二十九條）ヲ請求スルコトヲ得

（イ）　地代農地所有者又ハ第三者ガ地代農地ヲ損傷シテ地代銀行地代ノ擔保ヲ害スル虞アルガ如キコトヲ爲ス場合

（ロ）　地代農代所有者ガ建物ノ適當ナル管理及保險ノ爲ニ開拓署長ノ課シタル賦課ヲ履行セザル場合

（ハ）地代農地所有者ガ破産シ或ハ強制執行ニ依リ未償還地代銀行地代ノ支拂ヲ督促スベキ場合
或ハ其ノ土地ノ法律上ノ強制競賣ガ行ハルル場合
（ニ）地代農地ノ所有權ガ地代農地所有者ノ正妻、又ハ子孫以外ノ人ニ移轉スル場合
（ニ）第十七條（四）ニ依リ地代銀行地代ノ一部ニ對シ引受ケラレタル保證確保ノ爲他ノ土地ニ抵當權ノ設定アル場合ニ於テ其ノ抵當權ノ設定アル土地ガ法律上ノ強制競賣ニ附セラルル場合ニ於テハ地代銀行ハ其ノ抵當ニ依テ保證セラルル地代銀行地代ノ一部分ノ卽時元金償還ヲ請求スルコトヲ得
（三）移住地貸付金ノ許可（第十八條）ニ依リ生ジタル地代銀行地代ニ付キ土地開拓官廳ガ移住地代農地創設ノ仲介ヲ中止セル場合ニハ地代銀行ハ卽時元金償還ヲ請求スルコトヲ得

第三十一條　（一）地代銀行地代ノ支拂ハ地代農地所有者ノ申請ニ依リ地代引受（第二十三條）後最長期三ケ月間之ヲ猶豫スルコトヲ得、地代銀行ノ受クル缺損ハ地代地拂猶豫期間中ニ於ケル賠償金ノ利子ダケ賠償金ノ額ヲ增加シ其ノ賠償金總額ニ依リ地代銀行地代ヲ計算スルノ方法ニ依リ之ヲ補塡ス、利率ハ定款ヲ以テ之ヲ定ム償還ハ地代債務者ガ地代銀行地代ヲ支拂フ日ニ始マルモノトス
（二）地代銀行ハ地代銀行地代支拂猶豫期間中ニ於ケル賠償金ノ利子支拂及其ノ償還ニ立替フル金額ヲ地代銀行地代支拂ガ開始サルルニ至ル迄地代債券ノ發行ニ依リ調達スルコトヲ得
（三）第一項ノ規定ハ地代銀行ノ仲介ニヨル相續賠償地代ノ解除ニ因テ生ジタル地代銀行地代ニ之ヲ適用セズ

第三十二條　（一）地代銀行地代ガ地代農地ニ存スル期間內ハ開拓署長ノ承諾アル場合ニ限リ地代農地ノ自力經營ノ廢止、其ノ分割及一部讓渡ヲ爲スコトヲ得
（二）地代農地及移住農地ノ一子相續ニ關スル一八九六年六月八日附ノ法律（法令集一二四頁）ノ關係規定ハ尙之ヲ存續ス

第三十三條　（一）地代銀行地代ヲ負擔スル土地ガ分割セラルル場合ニ於テハ地代銀行地代ハ各分割地區ニ之ヲ割當ス、帝國評價法律ノ原則ヲ適用シテ單位面積價格ヲ決定シ之ニ基キ評定スル分割地區價格ヲ地代割當ノ標準トス
（二）分割ハ當事者及開拓署ニ交附セラレタル分割計畫ニ基キ地籍局之ヲ行フ、分割ニ對シ當事者及開拓署ハ通知後二週間以內ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得、異議ノ申立ニ關シテハ州知事之ヲ裁決ス
（三）分割ニ當リ分割地區ニ五「ライヒス、マーク」未滿ノ地代銀行地代ガ割當ラルル場合ニ於テハ開拓署長ハ其ノ端數地代ニ對シ卽時元金償還（第二十九條）ヲ請求スルコトヲ得

第八章　經過規定及終結規定

第三十四條（一）既設各州地代銀行ハ從來ノ法令ニ基キ引受ケタル業務ヲ終了スルニ至ル迄之ヲ遂行ス、新業務ノ引受ハ之ヲ爲サズ

（二）地代銀行ノ設立後主務大臣ハ既設地代銀行ヲ解散スルコトヲ規定シ得、既設地代銀行ノ解散ト同時ニ其ノ權利義務ハ新設地代銀行ニ移轉ス

（三）主務大臣ハ命令ヲ以テ一九二六年二月九日公布ノ舊地代銀行地代債券ノ換價請求權ニ關スル規則第十條（法令集四五頁）ニ基ク地代債券債權者ノ請求權ガ舊地代銀行ノ解散前ニ於テ既ニ新地代銀行ノ金錢地代債券（清算金錢地代債券）ニ依テ決濟サルルコトヲ定ムルコトヲ得、此ノ清算金錢地代債券ハ之ヲ額面價格ニ依リ分割清算財團ノ確定配當ニ記載スベキモノトス、此ノ場合ニ於テハ分割清算財團ハ當該地代銀行ノ解散前ト雖モ發行セラルル清算金錢地代債券ノ請求權ヲ保證ス

第三十五條（一）一八九一年六月七日ノ地代農地創設奬勵ニ關スル法律（法令集二七九頁）ハ之ヲ廢止ス

（二）前項廢止ノ法律ニ依リ地代銀行地代ヲ負擔スル地代農地及地代銀行ノ設立以前ニ開始セル地代農地創設手續ニ關シテハ尙從來ノ規定ガ存在スルモノト見做ス

第三十六條　一八九六年六月八日ノ地代農地及移住地地代農地ノ一子相續ニ關スル法律（法令集一二四頁）第一條第一項第一號ノ末尾ニ『「プロシヤ」地代銀行ニ地代支拂ノ義務アル總テノ地代農地ニ關スル限リ』ノ一句ヲ加フ

第三十七條　一八九九年九月二十日ノ民法施行法（法令集一七七頁）第十七章第二條一ノ「地代銀行」ノ字句ノ次ニ「又ハ「プロシヤ」地代銀行ノ發行セル總テノ無記名債券ニ對シ」ナル字句ヲ挿入ス

第三十八條　一九一九年六月三日ノ土地開拓官廳ニ關スル法律（法令集一〇一頁）第十六條第一項第二號ニ依リ土地開拓局長ニ附與セラレタル權限ハ之ヲ保留シ其ノ適用ニ關シテハ本法ニ之ヲ規定ス

第三十九條　地代銀行ハ國及自治團體ノ租稅及手數料ノ免除ヲ受ク

第四十條　本機關ノ解散ハ法律ヲ以テ之ヲ爲ス

第四十一條　主務大臣ハ帝國政府ノ同意ヲ得テ本法ノ施行ニ必要ナル規則ヲ定ム

第二　移住奬勵ニ關スル法律

（一）一九三一年五月三十一日農業移住奬勵法

帝國議會ハ以下ノ法律ヲ可決シ帝國議員ノ同意ヲ經テ此ヲ此處ニ公布ス

第一條　（一）帝國政府ハ農業移民ヲ奬勵スル爲ニ左ノ權限ヲ有ス但シ隣接地移民ノ如キ移民ヲ新設スル場合ニハ之ヲ除外ス

（イ）貸付金ニ對スル擔保ヲ引受クルコト

（ロ）州市町村（市町村聯合）及ビ其他ノ法人團體又ハ公共機關ガ右ノ如キ擔保ヲ引受ケタル爲ニ生ジタル義務ニ就キ不慮ノ損害ヲ補償スルコト

（二）年補償最高金額ハ帝國財政法ニヨリ之ヲ定ム、右ノ金額ハ一九三一年會計年度末ニ至ル迄一億五千「ライヒス、マーク」ヲ越ユルヲ得ズ

（三）從來ノ政府ノ權限ハ債務ガ「ライヒス、マーク」支拂ニ非ズシテ「ゴールド、マーク」支拂ナル場合ニ限リ之ヲ適用ス

第二條　（一）政府ハ左ノ權限ヲ有ス

（イ）移民ヲ實行スル爲ノ資金調達ノ費用ヲ引受クルコト

（ロ）資金借受者及ビ其ノ後繼者ニ對シ、貸金期間中其ノ年負擔ニ補助金ヲ交付シ或ハ資金借受者及ビ其ノ後繼者ノ爲ニ利子支拂ヒ及ビ元金償還ノ義務ヲ引受クルコト

（二）國家ハ交付セル補助金ノ一部ヲ負債者ガ其ノ總負債ヲ償還セル後均等年負擔ニテ返還スルコトヲ要求シ得

第三條　一九二六年七月一日附告示ノ意味ニ於テ耕作地ニ適用サルル貨幣價値下落整理法（帝國法令集（一）九一頁）ニ基ク方法ニヨリ及一九三〇年五月二十二日附ノ法律ニ基ク方法ニヨリ及一九三〇年十二月一日附農場及ビ融通資金ノ保證ニ關スル帝國大統領ノ命令（帝國法令集（一）五一七頁）中特ニ耕作ヲ奬勵スル爲ニ住所及移民ノ範圍ニ就テ規定セル第一章第四部第一章第七部ニ基ク方法ニヨリ各州ハ一九三二年ヨリ耕作奬勵ノ爲ニ農業移民地域ニ對シ帝國ノ監督ノ下ニ獨逸移民銀行ヲ通ジテ一定金額ノ融金ヲ受ク右金額及各州ニ割當ラルル比率ハ每年帝國議員ノ同意ヲ經テ政府之ヲ確定ス

（二）一九三一年度ニ於テハ右目的ノ爲ニ四千萬「ライヒス、マーク」ヲ融通ス、政府ハ帝國議員ノ承認ヲ經テ右金額ノ各州ヘノ分配額ヲ決定シ、各州ニ於ケル國家及州兩者間ノ協定融通金額ヲ決定ス

右ニヨッテ生ジタル各州ノ負擔ハ一九三一年ニ於テハ其ノ爲ニ見積リ計上セル豫算總額ヲ超過スルヲ得ズ

第四條　（一）一九三〇年七月廿六日附財政的、經濟的、社會的不況克服ニ關スル帝國大統領ノ命令（帝國法令集（一）三一一頁）第三編第三章ニヨリ設立サレタル獨逸移民銀行及ビ「プロシヤ」地代銀行（一九二七年十二月廿九日法律―「プロシヤ」法令集二八三頁―）ハ左ノ負擔ヨリ免除サル

一、帝國、州、市町村（市町村聯合）ガ徵收スル所得稅、資產稅、地租竝ニ營業稅

二、賣上稅竝ニ會社稅資本取引稅法ニヨル有價證券稅

三、州印紙稅、竝ニ行政手數料及裁判費用、但シ印紙稅ハ獨逸移民銀行又ハ「プロシヤ」地代銀行ガ締結セル契約書ニ限リ其ノ双方ノ契約額ニ就キ之ヲ免除ス

（二）獨逸移民銀行、又ハ「プロシヤ」地代銀行ノ仲介ニヨリ土地及土地附屬物ヲ取得又ハ讓渡スル場合ハ國稅、州稅、市町村稅（市町村聯合稅）及其ノ手數料ハ之ヲ免除スルコトヲ得

第五條　一九二六年六月廿二日附農產物增殖資金貸付許可ニ關スル法律（帝國法令集（一）三一五頁）第二條第一節ニ從ヒ期限ヲ決定シテ準備セル千五百萬「ライヒス、マーク」ニ關シテハ右ノ制限ヲ附セズ

一九二六年六月廿二日附法律第二條第五節ハ右ノ點ニ關シ之ヲ施行セズ

第六條　（一）移民當時迄移民農地ニ住居シ勤勉ニ勞働セシ農業勞働者及ビ林業勞働者ノ定住ヲ容易ナラシムル爲ニ充分ナル創設資金貸付ノ許可ヲナス

（二）農業及林業勞働者ガ長期間ニ亘リ勞働ヲナシ得ル可能性アル場合ニ限リ、同樣ノ方法ニヨリ農業及林業勞働者ニ小地位ヲ取得セシムルコトヲ奬勵ス

（三）獨自ノ地位ヲ有スル農業及ビ林業勞働者及ビ使用人ガ移民セル爲ニ多額ノ賃銀收入ヲ失フ場合ハ移民手續施行ニ當リ特別ニ之ヲ考慮ス、移民條件ニ妥當シ而モ移民ニ必要ナル自己資金ヲ調達スル能力ナキ勞働者及使用人ヲ移民スル爲ニ、移民者自己資本ノ他ニ補助金ヲ交附スルコトヲ得、其他ノ點ニ關シテハ一九一九年八月十一日附帝國移民法第二十五條（イ）ヲ適用ス

第七條　政府ハ帝國議員ノ協讃ヲ經テ本法施行ニ必要ナル一般規定ヲ設ケ又州政府ノ同意ヲ經テ各州ニ關スル特別法ヲ設ケシム

一九三一年五月三十一日

「ベルリン」

大統領　ヒンデンブルグ

帝國勞働省

ステーデルヴアルト

國會ハ左記法律ヲ可決セリ

第一章

（一）「プロシヤ」地代銀行ハ現金賠償ヲ許可スル爲地代銀行法規程及ビ地代銀行定款ニヨリ一九三一年ヨリ一九三五年ノ會計年度ニ至ル迄毎年二千萬「ライヒス、マーク」ヲ調達スル事ヲ得

（二）資金調達ガ債券發行ニヨル場合資本、利子、償還金ハ之ヲ州金庫ニ償還シ、法律的債務償還金ヲ增額スル爲ニ使用ス

第二章

地代農地創設ニ當リ中間信用ヲ許可スル爲ニ三千萬「ライヒス、マーク」ヲ調達スル事ヲ得

第三章

地代農地創設中間信用許可ニ關スル法律及一九三〇年六月十二日附隣接植民地奬勵ニ關スル法律（法令集一一五頁）ハ其ノ效力ヲ一九三〇年七月一日ヨリ變更ス

一、法律ノ標題中ノ「地代農地創設中間信用許可及隣接植民地奬勵」ナル語ヲ「植民地奬勵」ナル語ニ改正ス

二、第一條ハ左記條文トス

第一條（一）隣接植民地ノ奬勵ノ爲ニ二百萬「ライヒス、マーク」ヲ調達ス

（二）資本利子償還金ハ之ヲ州金庫ニ償還シ、法律的債務償還金ヲ增額スル爲ニ用フ

（三）調達金額ノ使用ニ關スル摘要ヲ每年國會ニ提出ス

三、左記第一條ノ一ヲ挿入ス

第一條ノ一（一）「プロシヤ」地代銀行ハ地代銀行法規及ビ其ノ施行命令ニ依リ現金賠償ヲ許可スル爲一九三〇年會計年度ニ二千四百萬「ライヒス、マーク」ヲ調達シ得

（二）資本、利子、償還金ハ之ヲ州金庫ニ償還シ法律的債務償還金ヲ增額スル爲ニ使用ス

第四章

（一）大藏大臣ハ第一章ニ於テ認メラレタル信用調達方法或ハ「プロシヤ」州ガ保證シテ引受クル信用調達方法及第二章ニ於テ認メラレタル信用調達方法ヲ行フ權能ヲ有ス

（二）「負債償還ハ引受負債元金ノ年利一分九厘相當額及國債ノ償還或ハ許可信用ノ支拂ニ使用サル五分ノ補給利子トヲ以テス」補給利子トシテハ負債償還ニ使用セル金額或ハ許可信用ノ支拂ニ使用セル金額ノ五分ヲ見積ル

（譯註一、第一章及第二章ノ信用調達方法ニヨル信用ヲ意味ス）

第五章

主務大臣ハ本法ノ施行ニ必要ナル規程ヲ制定ス、施行細則ハ之ヲ國會ニ提出ス

右國會ヲ通過セル本法律ヲ玆ニ公布ス

國會議員ノ憲法上ノ權利ハ之ヲ承認ス

一九三一年、七月三十一日

「ベルリン」ニテ

「プロシヤ」州政府

ブラウン、ホツプカー、アシヨフ

農林大臣副署

第二章　愛爾蘭ニ於ケル法律、法律ノ沿革及其ノ概要

法律ノ沿革及其ノ概要

愛爾蘭ニ於テハ一八六九年ノ愛爾蘭教會法ニ依リ自作農創設ノ端緒ヲ開キテ以來數回ニ亘リ法律ヲ制定シテ本事業ノ充實ヲ期シ一九〇三年ノ土地法及一九〇九年ノ土地法ヲ制定シテ以來著シキ進展ヲ見ルニ至ツタノデアルガ、大戰後一九二一年愛爾蘭ガ北愛爾蘭ト愛爾蘭自由國トニ分立シテ英本國ノ羈絆ヲ脫シテ以來自作農創設ニ關シテハ一層之ガ徹底完璧ヲ期スルコト、ナリ一九二三年ノ土地法、一九二五年ノ北愛爾蘭土地法、一九二七年ノ土地法ヲ制定スルニ至ツタ。一九〇九年ノ土地法以前ノ法令ニ付テハ「諸外國ニ於ケル自作農地ニ關スル法律(其ノ一)」ニ概要及法文ヲ掲載シアルヲ以テ其後ノ法律ニ就テ其ノ概要ヲ述ブルコトヽス。

一、一九二三年ノ土地法

本法ハ從來ノ小作關係ヲ廢止シ地主ヨリ小作地ヲ强制收用シテ之ヲ小作人ニ再賣スルコトヲ主眼トスルモノデアツテ其ノ要點ヲ概記セバ左ノ如シ。

(一)　機關。自作農創設ヲ管掌スル機關ハ土地委員會(從前ノ土地財產委員會、稠密地方局、土地委

員會ノ三機關ノ內前二者ヲ廢止シ、其ノ所管事項ハ凡テ之ヲ土地委員會ニ移管シタルモノ）デアツテ地主ヨリ小作地ヲ制收强用シ之ヲ小作人ニ再賣スルコト、及ビ稠密地方ニ於ケル過小農ヲ改善スルコト等ヲ其ノ主要ナル所管事項トス。

（二）資金。資金ハ專ラ土地債券ニ仰ギ地主ニ對シテ收用地ノ代價トシテ債券ヲ交付ス。

（三）小作關係ノ廢止。本法ニ依リ地主小作人間ノ直接關係ヲ全部廢止シ、土地委員會ガ兩者間ニ介在シ小作人ハ恰モ土地委員會ノ所有地ヲ小作スルモノ、如ク每年從前ノ小作料ノ七割五分ニ相當スル金額ヲ土地委員會ニ對シテ支拂ヒ土地委員會ハ其ノ內ヨリ手數料、租稅等ヲ控除シタル殘額ヲ地主ニ對シテ交付ス。

（四）創設ノ方法。自作農地創設ハ土地委員會ガ小作地ヲ强制收用シ之ヲ小作人ニ對シテ再賣スルコトニ依ツテ行ハル。卽チ土地委員會ハ全國ノ地主ニ命ジテ其ノ所有スル小作地ニ關スル申告書ヲ提出セシメ之ニ基キテ實情調査ヲ爲シ、强制收用スベキ分ヲ隨時確定公告シ、全小作地ヲ收用セントスルモノデアル。土地ノ收用價格ハ之ヲ購入シタル小作人ノ負擔（六十五年半ノ年賦金）ガ從前ノ相當小作料ヨリモ三割乃至三割五分丈安クナルコトヲ基準トシテ決定セラレ、地主ニ對スル代金ノ支拂ハ$4\frac{1}{2}$分利附土地債券ノ交付ヲ以テス。土地ヲ購入シタル小作人ハ土地委員會ニ對シテ每年分$\frac{3}{4}$ニ相當スル金額ノ年賦金ヲ六十五ケ年半間支拂ヒテ完全ナル所有權ヲ取得ス。

（五）過小農改良、土地委員會ハ人口稠密ニシテ過小農多キ地方（西部沿岸地方）ニ就キ、密集セル過小農民ノ移植ト、過小農地ノ擴張トノ二方法ニヨリ其ノ改良ヲ行フ。之ガ爲ニハ土地委員會ハ稠密地方縣ノ內外ニ於テ現ニ小作地トシテ利用サレザル共同牧場及秣場（之ヲ非小作地 Untenanted land ト云フ）土地ヲ收用スルノ權限ヲ有シ、之ニ必要ナル施設ヲナシタル上、農民ニ賣却シ以テ移民ノ農地ヲ擴張ス。土地ノ收用代價ハ$4\frac{1}{2}$分利附土地債券ヲ以ツテ支拂ヒ之ヲ購入シタル農民ハ收用價格ト農民ノ負擔能力ヲ越エザル程度ノ施設費ヲ合算シタル金額ノ$\frac{3}{4}$ニ相當スル年賦金ヲ六十五年半間支拂ヒ、以テ完全ナル所有權ヲ取得スルモノデアル。

二、一九二五年ノ北「アイルランド」土地法

本法ハ一九二三年ノ「アイルランド」自由國ノ土地法ト同一目的ト殆ンド同一ナル方法ニ依ツテ全小作地ヲ强制的ニ自作農地タラシムルガ爲制定セラレタモノデアル。卽チ自作農創設ニ衝ル機關ハ北「アイルランド」土地購買委員會ニシテ、此ノ委員會ガ本法施行後四ケ年間ニ北「アイルランド」內ノ全小作地ヲ强制收用シテ之ヲ從來ノ小作人ニ賣却シテ其ノ代金ハ年賦金ノ方法ニテ徵收スルモノデアル。而シテ地主ニ對シテハ$4\frac{1}{2}$分ノ利附土地債券ノ交付ニ依ツテ收用土地代價ノ支拂ヒヲ爲シ、小作人ハ每年收用土地價格ノ$\frac{3}{4}$分ニ相當スル金額ヲ六十五ケ年半間支拂ヒテ完全ナル所有權ヲ取得スルモノデアル。而シテ土地收用價格ハ縣ニ依リ多少ノ相違ハアルガ、大體小作人ノ負擔スベキ年

賦金額ヲ相當小作料ヨリ一割一分乃至三割方廉クナル程度ニ決定スルモノデアル。

三、一九二七年ノ土地法

本法ハ一九二三年ノ土地法ノ目的ヲ一層徹底充實セシメンガ爲ニ規定サレタモノデアツテ、其ノ改正要點ハ自作農創設後ニ於ケル創設地ノ繼續ヲ確保セシムル爲ノ制限及保護ヲ一層充分ナラシムルコトニアル。卽チ

(一) 指定期日前ニ土地委員會ノ同意ナクシテ農地ノ轉貸、分割及伐採ノ禁止

(二) 一九二三年ノ土地法通過以前ニ購買セル小作地ノ分割轉貸ノ禁止

(三) 合併小作地ノ分割及轉貸禁止

(四) 稅金ノ滯納ニ關スル規定ニ依ル不合理ナル負擔ヨリノ解放

等ガ改正ノ主要點デアツテ其ノ他ハ一九二三年ノ土地法ト大同小異デアル。

今一八七〇年以後ニ於ケル法制ニ付(一)貸付金ノ限度(二)土地代金ノ支拂ガ現金ニ依ルヤ債券ニ依ルヤ(三)償還方法ノ變遷ヲ比較セバ次ノ如シ

(一) 貸付金ノ限度

一八七〇年地主小作人法ニハ制限ナシ

一八八一年土地法ハ三千磅ヲ原則トシテ五千磅ニ及ブコトヲ得

一八八八年土地購買法(改正法)ハ三千磅ヲ原則トシテ五千磅ニ及ブコトヲ得

一九〇三年土地法ハ七千磅

一九〇九年土地法ハ三千磅ヲ原則トシテ五千磅ニ及ブコトヲ得

一九二三年土地法ハ三千磅ヲ原則トシ土地委員會ガ適當ト認ムル限度迄增加スルコトヲ得

(二) 土地代金ノ支拂ガ現金ニ依ルヤ債券ニ依ルヤ

(イ) 一八七〇年地主小作人法ハ現金

(ロ) 一八八一年土地法ハ現金

(ハ) 一八八五年土地購買法ハ現金

(ニ) 一八九一年土地購買法ハ $2\frac{3}{4}$ 分利附保證土地債券ノ額面額

(ホ) 一九〇三年土地法ハ現金

(ヘ) 一九〇九年土地法ハ三分利附保證債券

(ト) 一九二三年土地法ハ四分五厘利附土地債券

(チ) 一九二七年同上

(三) 土地購買法年賦金率及償還年限

一八八七年土地法ハ五千磅

一八八八年土地購買法(改正法)ハ三千磅ヲ原則トシテ五千磅ニ及ブコトヲ得

一九〇三年土地法ハ七千磅

一九〇九年土地法ハ三千磅ヲ原則トシテ五千磅ニ及ブコトヲ得

一九二三年土地法ハ三千磅ヲ原則トシ土地委員會ガ適當ト認ムル限度迄增加スルコトヲ得

(二) 土地代金ノ支拂ガ現金ニ依ルヤ債券ニ依ルヤ

(イ) 一八七〇年地主小作人法ハ現金

(ロ) 一八八一年土地法ハ現金

(ハ) 一八八五年土地購買法ハ現金

(ニ) 一八九一年土地購買法ハ $2\frac{3}{4}$ 分利附保證土地債券ノ額面額

(ホ) 一九〇三年土地法ハ現金

(ヘ) 一九〇九年土地法ハ三分利附保證債券

(ト) 一九二三年土地法ハ四分五厘利附土地債券

(チ) 一九二七年同上

(三) 土地購買法年賦金率及償還年限

法律	購入土地價格ニ對スル貸付額限度	年賦金率 利息	年賦金率 償還元金	年賦金率 計	年限
一八七〇年地主小作人法	購買價格ノ2/3	3½%	1½%	5%	三十五年
一八八一年ノ土地法	同 3/4	3½	1½	5	同
一八八五年ノ土地法	全額	3⅛	⅞	4	四十九年
一八九一年土地購買法	同	2¾	1¼	4	同
一八九六年土地法	同	2¾	1¼	4	（十年毎ニ三回遞減）七十三年
一九〇三年土地法	同	2¾	½	3¼	六十八年半
一九〇九年土地法	同	3	½	3½	六十五年半
一九二三年土地法	同	4½	¼	4¾	六十五年半
一九二七年土地法	同	4½	¼	4¾	六十五年半

第一 一九二三年ノ土地法

目次

第一章 財政ニ關スル規定

第一條 四分五厘利附土地債券ノ發行權

第二條 四分五厘利附土地債券ヲ以テ爲ス立替金

第三條 四分五厘利附土地債券ヲ以テ支拂フ優先利益其ノ他ノ負擔

第四條 賣却中抵當ニ違約利子ヲ付スルコトヲ禁止スル規定

第五條 費用基金

第六條 率ノ廢止規定

第七條 過失ニ依リ支拂ヘル金額ノ國庫ニ依ル回收

第八條 債券ヲ以テスル支拂

第九條 立替金ノ償還

第十條 土地債券基金ノ設立

第十一條 土地委員會ノ支拂金

第十二條　購買年金基金ノ設立
第十三條　各州ニ於ケル立替金制限ノ廢止
第十四條　購買年金ヲ銷却スル場合ノ規定
第十五條　ダフリン、トリニテー大學
第十六條　愛爾蘭開發基金
第十七條　規則制定權

第二章　土地購買ニ關スル規定

第十八條　本法ニ基ク以外ノ契約ヲ禁止スル規定
第十九條　滯納小作料
第二十條　小作料ニ代ル支拂金
第二十一條　土地委員會ニ依ル滯納整理小作料
第二十二條　小作料其ノ他ニ關スル事項ノ提出
第二十三條　又小作ノ小作料及滯納小作料
第二十四條　指定期日ニ土地委員會ニ歸屬スル土地
第二十五條　土地價格

第二十六條　又小作ニ關スル規定
第二十七條　分配未了中ニ於ケル配當金及購買金ノ利子
第二十八條　小作人ニ依ル將來ノ購買契約
第二十九條　保有小作地ニ關スル土地委員會ノ權限
第三十條　立替金ノ制限
第三十一條　土地ノ地區ノ購買ニ對スル立替金
第三十二條　無小作地ヲ其ノ所有者ニ再賣スル規定
第三十三條　保有小作地ヲ小作人ニ再賣スル規定
第三十四條　小作地ノ歸屬ニ關スル規定
第三十五條　家庭農園ノ再賣
第三十六條　無小作地ノ購買ニ對スル土地委員會ノ權限
第三十七條　沼澤地ノ取得ニ對スル權限
第三十八條　永小作其ノ他ノ小作料ノ銷却
第三十九條　購買小作地ニ於ケル優越利益ノ銷却
第四十條　土地委員會ニ歸屬セラルヽ土地ノ確定

第四十一條　辯護士及代理人ニ對スル土地委員會ノ權限
第四十二條　芝草採取權ニ關スル規則制定權
第四十三條　通行權設定ニ對スル權限
第四十四條　築堤其ノ他ノ保存ニ關スル權限
第四十五條　遊獵權、漁業及鑛物採掘權
第四十六條　小作地ノ交換ヲ容易ナラシムル規定
第四十七條　古代記念物ニ關スル規定
第三章　有限責任國立土地銀行
第四十八條　本章ノ適用範圍
第四十九條　一定期日ニ土地委員會ニ歸屬スル土地
第五十條　土地委員會ガ銀行ヨリ徵スル報告
第五十一條　取得セル土地ニ關スル土地委員會ノ公告
第五十二條　購買價格ノ算定
第五十三條　組合又ハ信託團體ノ供託金ニ關スル規定
第五十四條　組合ニ再賣スル條件

第五十五條　組合ニ歸屬セシムル土地
第五十六條　費用基金ノ規定ノ不適用
第四章　地方名儀登記
第五十七條　小作地交換ノ場合ニ於ケル登記ニ關スル規則
第五十八條　所有若ハ資格名義附ニテ土地ヲ登記スル權限
第五十九條　勞働者法ニ基キ取得セル土地ヲ所有若ハ資格名義附ニテ登記スル權限
第六十條　所有者ニ再賣スル土地ヲ其ノ死亡ノ際讓渡スル規定
第六十一條　指名セラレタル所有者ノ登記
第六十二條　名義登記前ニ土地委員會ガ再賣スル權限
第六十三條　歸屬又ハ登記前ニ購買者ノ死亡ノ場合
第五章　總則
第六十四條　法定小作料決定ノ禁止
第六十五條　分割及轉貸ノ禁止
第六十六條　小作地ノ合併
第六十七條　購買者ノ代理人ヲ指名スル權限

第六十八條　無資格者
第六十九條　信託團體ニ對シ耕作ノ目的ノ爲ニ爲ス立替金
第七十條　指定期日
第七十一條　以前ノ法令中ノ規定ニシテ效力ナキモノ
第七十二條　年金ヲ分賦スル事業局ノ權限
第七十三條　定義
第七十四條　執行委員會ノ法令ヲ修正スル權限
第七十五條　疑義ノ除去
第七十六條　規則制定權
第七十七條　本法ヲ執行スル爲ノ資金ニ關スル規定
第七十八條　廢止
第七十九條　略稱及解釋
付款第一　標準購買年金
付款第二　廢止法律

一九二三年ノ土地法

第一章　土地購買財政

第一條　（一）本法ニ基キ債券ヲ以テスル支拂額ニ充ツル爲大藏大臣ハ必要ニ應ジ其ノ定ムル種類（一磅以上）ノ四分五厘利附土地債券ヲ發行スル權限ヲ有ス

（二）土地債券ニハ其ノ券面額ニ付年四分五厘ノ利子ヲ附シ每年債券發行規則ノ定ムル一定期日ニ均等半ケ年賦ヲ以テ之レヲ支拂フ

（三）土地債券ハ未支拂利子ト共ニ券面價格ヲ以テ銷却ス大藏大臣ハ定期抽籤ノ方法ニ依リ土地債券ノ銷却準備ヲ爲スコトヲ要シ且債券ノ抽籤ニ關スル規則ヲ制定スルコトヲ得、右規則ニハ法務委員ノ命令ニ依リ財產移轉稅ノ支拂又ハ本法ニ基キ土地委員會ノ取得セル土地ガ負擔スル土地購買年金ノ銷却ノ爲讓渡セラレシ債券ノ卽時償還ニ對スル規定ヲ定ムベシ但シ土地債券ノ發行後三十年ヲ經過シ未ダ償還セラレサルトキハ大藏大臣ハ何時タリトモ其ノ定ムル期日ニ抽籤其ノ他ノ方法ニ依リ券面價格ヲ以テ銷却スルコトヲ得

（四）土地債券ノ利子及前項ノ規定ニ依ル土地債券ノ銷却ノ爲ニ必要ナル金額ハ本法ニ基キ設置セラレタル土地債券基金ヨリ之ヲ支出ス同基金不足ナルトキハ愛爾蘭自由國ノ中央基金又ハ夫レヨリ生ズル益金ノ負擔トシ本法通過前ニ設定セラレタル負擔ニ次グ第一負擔トシテ支拂フモノトス